

11
5
306

東村山郡史 卷之三

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



東村山郡史

卷之三 目次

櫻町天皇

寛保元年紀元二千四百一年

正月 幕府、無盡講取締令ヲ發ス、

十二月 若松來吁院其來歴ヲ、東根役所ニ具申ス、

同 二年紀元二千四百二年

正月 幕府、板本普教類方書ノ普及ヲ圖ル、

三月 松平直矩ノ分領地東根三萬石、幕府ノ直轄ニ歸ス、

九月 立石寺學頭宣雄、龍城坊父子ヲ嘉賞ス、

十一月 山野邊杉下達磨長崎ノ各村、上杉吉憲ノ管領トナル、

同 三年紀元二千四百三年

七月 小關村堰堤ノ普請個所ヲ、漆山役所ニ具申ス、

八月 須川洪水、

延享元年紀元二千四百四年

大正
8.12.27
内交

一
二
三
四
五
六
九

五月 堀田正亮、大坂城代ヲ命セラル、○山形領四萬石ヲ公收ス、.....九
某月 山本平八郎代官ニ任ス、.....一三

同 二年 紀元二千四百五年

正月 北作畑谷大蕨等山郷ノ地、猪鹿田畑ヲ侵害ス、.....一三

二月 志戸田村明細書ヲ、長壽役所ニ具申ス、.....一四

九月 德川吉宗致仕ス、○男家重嗣ク、.....一一

同月 凶作米價暴騰ス、.....一一

十月 要害村佐藤理兵衛ノ由緒覺書ヲ、長壽役所ニ啓申ス、.....一一

同 三年 紀元二千四百六年

三月 代官蔭山外記、各村ノ明細帳ヲ徵集ス、.....一三

四月 堀田正亮佐倉ニ、松平乗佑山形ニ移封セラル、○正亮山形領四萬石ヲ分領シ、乗佑
山形領三萬七千石ヲ領ス、.....一一

同月 公私領巡見使等諸村ヲ巡見ス、.....一一

五月 堀田正亮、山形城ヲ松平乗佑ニ交付ス、○松平乗佑法度ヲ領内ニ頒布ス、.....一六

七月 降霜雪ノ如ク、禾穀ヲ害ス、.....一八

十二月 幕府、山寺村河原林境界諍論ヲ裁決ス、.....一八

同 四年 紀元二千四百七年

二月 山野邊村羽黒山派修驗頭蓮乘院、末派ノ現状ヲ上申ス、.....四二
五月 上山城主松平信將ノ領民、見目原ニ蟻集ス、.....四八

桃園天皇

八月 德川家重、寺社領證判ヲ給與ス、.....五〇

十二月 松平信將、見目原蟻集ノ魁首ヲ誅戮ス、.....五〇

寛延元年 紀元二千四百八年

九月 山寺村議定書ヲ定ム、.....五一

同 二年 紀元二千四百九年

二月 柏倉ヨリ米澤ヘノ通路修繕ヲ計畫ス、.....五二

八月 幕府、堀田正亮、松平吉十郎、戸田因幡守等ニ領地ヲ賜フ、.....五三

某月 代官山本平八郎罷メ、柴村藤右衛門之ニ代ル、.....五五

十一月 東叡山役吏、山寺龍光坊ノ訴論ヲ裁許ス、.....五五

同 三年 紀元二千四百十年

二月 高力若狹守卒ス、○男大學嗣ク、.....六四

五月 立石寺學頭宣雄、衆徒中性院等斬殺セラル、.....六五

七月 幕府、漆山代官平岡彦兵衛ニ命シ、立石寺殺害ノ事ヲ糺彈セシム、.....六七

八月 代官柴村藤右衛門罷メ、蔭山外記之ニ代ル、.....六九

寶曆元年 紀元二千四
百一十一年

- 三月 漆山代官所、龍城坊ヲ捕獲セシム、.....七〇
- 七月 代官蔭山外記轉任、天野市十郎代官ニ任ス、.....七一
- 同月 船町村々費割宛ノ項目ヲ定ム、.....七一
- 十一月 眞覺院鑑古立石寺住職ニ補セラル、.....七三
- 十二月 代官天野市十郎轉任、辻六郎左衛門之ニ代ル、.....七三
- 同 二年 紀元二千四
百一十二年
- 三月 酒田港問屋等、米澤最上荷主等ニ陳謝ス、.....七三
- 六月 立石寺衆徒無量坊常樂坊等誅戮セラル、.....七五
- 同 三年 紀元二千四
百一十三年
- 正月 陣場村古切支丹宗徒死去ス、.....七七
- 二月 幕府、上杉重定ノ所管山野邊以下ヲ、長瀨代官ニ附ス、.....七八
- 同月 立石寺門前町ヲ檢地ス、.....七九
- 三月 山形大火、.....九〇
- 四月 代官辻六郎左衛門轉任、風祭甚三郎之ニ代ル、.....九〇
- 五月 東海林某常燈明ヲ、若松觀音堂ニ寄進ス、.....九〇
- 同 四年 紀元二千四
百一十四年

- 二月 奥羽諸侯、酒田港定藏宿人名ヲ啓申ス、.....九二
- 閏二月 松平信將、領内ノ租米低當トシ金ヲ借ル、.....九六

同 五年 紀元二千四
百一十五年

- 五月 築澤畑谷兩村、黒森山境界ヲ議定ス、.....一〇〇
- 十月 松平乗佑山形暴動ヲ鎮定ス、.....一〇二
- 同月 暴民天童ノ穀商ヲ襲フ、.....一〇二
- 十一月 藤澤寺覺書ヲ總末寺ニ頒ツ、.....一〇二
- 十二月 奥羽地方大飢饉、.....一〇四
- 某月 畑谷村、山木實納稅請書ヲ具申ス、.....一〇八
- 同 六年 紀元二千四
百一十六年
- 八月 畑谷北作兩村、入會山ヲ論諍ス、.....一〇九
- 同 七年 紀元二千四
百一十七年

- 四月 漆山代官平岡彦兵衛、窮民救濟ヲ幕府ニ請フ、.....一一一
- 五月 馬見崎川大洪水、.....一一五
- 六月 阿部瀨市、最上川運漕船ヲ檢査ス、.....一一七
- 七月 檢使野村監物等、諸領水害地ヲ檢ス、.....一一九
- 八月 諸檢使諸代官等、名主等ヲ召集シ民情ヲ尋問ス、.....一二一

九月 藏増村堤防工事ノ用材ヲ請求ス、..... 一三三

同 八年 紀元二千四
百十八年

十一月 藏増高野兩村名主等、工事帳ヲ代官ニ啓申ス、..... 一三三

同 九年 紀元二千四
百十九年

五月 幕府、石代金納法ヲ更改ス、..... 一二五

七月 幕府、百姓奢侈ノ弊風ヲ矯正ス、..... 一二六

同 月 堀田領各村請狀ヲ啓申ス、..... 一二七

同 十年 紀元二千四
百二十年

四月 徳川家重、將軍職ヲ家治ニ讓ル、..... 一三一

九月 長崎村名主銘細帳ヲ、柴橋役所ニ啓申ス、..... 一三一

同 十一年 紀元二千四
百二十一年

五月 奈良澤村長龍寺、越王山官林境界ノ事ヲ具申ス、..... 一四九

十一月 松平信將卒ス、○男信享襲ク、..... 一五〇

同 十二年 紀元二千四
百二十二年

四月 公私領巡見使等、村山郡ヲ巡見ス、..... 一五一

十一月 幕府、上山寺田、麥野兩村、薪山ノ論訴ヲ裁決ス、..... 一五二

後櫻町天皇

八月 幕府、漆山代官ヲ廢シ、長瀨代官所ニ附屬ス、..... 一五四

同 十三年 紀元二千四
百二十三年

六月 松平乗佑、大坂城代ヲ命セラレ、參河國西尾城ニ轉封セラル、..... 一五五

七月 中野村淨蓮寺、陣場村切支丹宗類族ヲ埋葬ス、..... 一五五

八月 酒田港間屋等、諸賣買品ノ口錢ヲ増加ス、..... 一五六

九月 松平乗佑、山形城地郷村ヲ、松平容綏ニ交付ス、○幕府、山形城二三兩郭ヲ破却
セシム、..... 一五九

同 二年 紀元二千四
百二十五年

七月 矢野目村名主等、山寺堰引水ノ事ヲ請願ス、..... 一六〇

十一月 立石寺中性院、奥院掟書ヲ定ム、..... 一六三

同 四年 紀元二千四
百二十七年

三月 幕府、奢侈ヲ禁ジ、農業ヲ獎勵セシム、..... 一六四

八月 織田信浮、置賜郡高島ニ移封セラル、..... 一六五

閏九月 秋元涼朝、山形城ニ移封セラル、..... 一六六

同 五年 紀元二千四
百二十八年

三月 松平容綏、山形城ヲ代官前澤藤十郎、郷村ヲ秋元涼朝ニ交付ス、..... 一六七

五月 秋元涼朝致仕ス、○養子永朝家督ス、.....一六八

同 六年 紀元二千四
百二十九

某月 野田彌市右衛門代官ニ任ス、.....一六八

二月 幕府徒黨強訴ノ事ヲ令ス、.....一六八

同 七年 紀元二千四
百三十

四月 萩野戸山寺兩村、山野入會ノ事ヲ請願ス、.....一六九

閏六月 漆山長瀨兩御領、貢米ノ升目額ヲ定ム、.....一七一

十一月 幕府漆山村以下ヲ、上杉治憲ニ管領セシム、○長瀨漆山兩領ヲ、柴橋代官ニ支
配セシム、.....一七二

某月 大旱、.....一七三

後桃園天皇

同 八年 紀元二千四
百三十一

某月 長瀨村役人、同陣屋由緒書ヲ具申ス、.....一七三

安永元年 紀元二千四
百三十二

七月 紅花賣買世話所ヲ置ク、.....一七六

十月 立石寺中性院、若松村寶泉坊ノ訴訟ヲ裁許ス、.....一八八

同 二年 紀元二千四
百三十三

五月 畑谷村銘細帳ヲ具申ス、.....二〇二

同 三年 紀元二千四
百三十四

三月 鮪洗志戸田兩村、水堰諍論ヲ和解ス、.....二一一

同 七年 紀元二千四
百三十八

十二月 原町村銘細帳ヲ具申ス、.....二一五

同 八年 紀元二千四
百三十九

四月 山寺村善性坊等、山家村質地解決ノ事ヲ、如法堂ニ請願ス、.....二二七

五月 藏増村名主等、最上川普請請負證ヲ具申ス、.....二二九

某月 野田松三郎代官ニ任ス、.....二三一

十一月 後桃園天皇崩御、.....二三一

光格天皇

同 九年 紀元二千四
百四十

十月 大蔵村稻村七郎左衛門、巨鐘ヲ鳥海大權現ニ納ル、.....二三一

十一月 船町村庄屋等、代屋家株讓受ノ事ヲ請願ス、.....二三三

十二月 光格天皇即位、.....二三四

天明元年紀元二千四

九月 幕府領各村名主等議定書ヲ定ム、……………二三四

同 二年紀元二千四

正月 北藏増村、檢地増米證文ヲ具申ス、……………二三八

八月 柴橋代官所令シテ、菜種蒔付ヲ禁ズ、……………二三九

九月 長瀨代官郷村ニ、農業以下ノ事ヲ令ス、……………二四〇

同 月 柴橋代官所科料錢ヲ定ム、……………二四二

十月 御料所貢米、海路艘運ノ濫姦ヲ禁ス、……………二四四

同 月 幕府神社并社人ニ令ス、……………二四五

同 三年紀元二千四

七月 淺間山噴火ス、○奥羽凶作、……………二四六

九月 代官野田松三郎、新酒釀造以下ヲ禁止ス、……………二四八

十月 幕府國役普請金ヲ賦課ス、……………二五一

十一月 幕府郷村ニ令シ、徒黨主謀者ヲ捕獲セシム、……………二五二

同 月 村山郡各村名主等、凶歳ニ關スル議定書ヲ協定ス、……………二五二

同 四年紀元二千四

五月 時疫流行ス、○幕府救濟藥法ヲ頒布ス、……………二五七

同 五年紀元二千四

五月 幕府御料地農民ノ、移住者ヲ調査ス、……………二五九

同 六年紀元二千四

八月 徳川家治薨ス、○家齊嗣ク、……………二六〇

九月 凶作米價騰躍ス、○幕府造酒ヲ半限セシム、……………二六〇

同 七年紀元二千四

九月 長崎村舟持等、船差配人請負入札ノ停止ヲ請願ス、……………二六一

同 八年紀元二千四

正月 幕府、米穀ノ買占等ヲ禁止ス、……………二六五

二月 畑谷村雜課稅ノ事ヲ、代官ニ答申ス、……………二六六

三月 幕府、巡見使接待以下ニ關スル覺書ヲ發布ス、……………二七〇

五月 幕府、巡見使ヲ派遣ス、……………二七三

六月 御預所巡見使、加藤四郎兵衛等、村山郡ヲ巡見ス、……………二七五

七月 代官力石萩之進轉任ス、○布施彌市郎竹鹽三右衛門代リテ地方ヲ管理ス、……………二八〇

十二月 小笠原仁右衛門代官ニ任ス、……………二八〇

同月 幕府五穀豐熟庶民安穩ノ祈禱ヲ寺社ニ命ス、.....二八〇
同月 幕府二朱銀真鍮錢通用ノ事ヲ令ス、.....二八一

東村山郡史 卷之三

櫻町天皇寛保元年辛酉正月、幕府、無盡講取締ノ令ヲ發ス。

〔採訪史料〕

御役方被仰渡候御觸之覺

一世上ニ而取退無盡ノ名付、三笠博奕同然之儀有之由相聞候ニ付、停止之旨前々相觸候所、今以不相止近々頃者寺社建立講、又ハ品々之講と名付取退致無盡候ニ付、右當人共相顯候分は召捕此度御仕置申付候、向後右社之義有之者、武士方寺社方町方在方共ニ遠吟味、當人は不及申地主家主五人組名主一町内之者共迄、三笠博奕同然之咎可申候條、常々心懸致吟味疑敷者有之候は、早々可訴出候以上。

寛保元年辛酉四月

右之通可被相觸候。

右之通御書付出候間寫遣し候、可被得其意候、已上。

四月十七日

木下伊賀守

水野對馬守

神保若狹守

河野豊前守。
神谷志摩守。

同年十一月、若松寺觀音別當來吁院、其來歴ヲ書シ、松平家領東根役所ニ具申ス。
〔來吁院文書〕

覺

一羽州村山郡鈴立山若松寺觀音別當之義、往古天童城主御領分之節、座主坊東開坊兩人別當職仕候由傳承候、山形城主出羽守義光慶長年中天童合戰之砌、拙院元祖羽黑山派之修驗來吁坊真山、山形ニ住居出羽守祈願仕候所、天童合戰出羽守御利運天童落城、其後爲御褒美若松寺觀音別當職兼帶ニ被仰付、則爲堂領與出羽守黑印貳百三拾石、來吁坊真山ニ寄附有之候、真山養子源真其子宥慶代、初而大猷院様ハ慶安元年七月十七日之御朱印頂戴仕候、其子宥清代、嚴有院様、寛文五年七月十一日之御朱印頂戴仕候、其子寛長舍弟宥莫代、常憲院様、貞享二年六月十一日之御朱印頂戴仕候、宥英代元祿二年東叡山、前御門主解脱院様、江、山形若松格山ニ相勤申度旨奉願、右願之通被仰付御令旨双方江被下置候、若松寺觀音別當職、寛長實子宥朝ニ被仰付、元祿七年正月若松寺江引越別當職相勤申候、享保三年正月、御當家様御朱印有朝頂戴仕候、宥朝養子拙僧迄八代別當職相勤申候、以上。
寛保元年西十一月。

同二年壬戌正月、幕府板本普救類方書ノ普及ヲ圖リ、代官長谷川庄五郎、小宮山奎之進等ヲ

シテ公私領鄉村ニ通達セシム。

〔採訪史料〕

今度板行被仰付候普救類方書物之儀、書物問屋共ハ諸國江賣弘候間、御頼ノ私領共ニ其國々御代官ハ向寄次第、村々江悉行届百姓町人共承知之上、望之者は買取候様觸しらせ可申候、勿論右書物問屋共ハ國々江相廻し候、代銀一部ニ付銀九匁八分宛賣渡候筈之事。

右之通惣代官中江御申渡、御頼ノ所は勿論向寄々私領迄、不殘通達有之様ニ可申達旨、松左近將監殿被仰候之間、御申渡可被成候、以上。

正月、

大岡越前守。

右之通被得其意支配所、并向寄之私領江通達可有之候、以上。

正月、

松波筑後守。

正月、

稻生下野守。

正月、

寛 播磨守。

正月、

駒木根肥後守。

右之通御書付出候間寫相廻し候、可得其意者也。

戊正月、

長谷川庄五郎。

正月、

小宮山奎之進。

同年三月、去歲十二月陸奥國白川城主松平直矩、播磨國姫路ニ移封セラレ、直矩ノ山形ヨ

リ白川ニ移ルヤ、村山郡東根三万石ヲ分領ス、是ニ於テ幕府ノ直轄ニ歸シ、漆山代官宮村
孫左衛門ノ所管トナル。

〔謀邑留書帳〕

覺

一寛保元年酉ノ十二月、白川城主松平大和守様、幡笏姫路江御國替被遊候。

一白川領東根三萬石之所、今年ノ御公料ニ罷成、漆山御支配、御代官宮村孫左衛門様。

寛保二戊三月、

久右衛門。

〔漆山御代官記〕

一寛保二年戊三月、白河の松平大和守様十五萬石也、播磨姫路へ御國替ニテ東根領三萬石御公

料ニ相成ル、御代官様辻六郎左衛門様依之東根領庄屋不殘、白川へ登り御引渡相濟申候、夫よ

り六月廿七日ニ宮村孫左衛門様御支配ニ成御引渡有り、右三萬石漆山領ニ成ル、出張役所杉

江様御越也。(杉江清七
漆山手代)

同年九月、立石寺學頭宣雄書ヲ與ヘテ、龍城坊父ノ東泉坊再建ノコトヲ嘉賞ス。

〔立石寺文書〕

妻帶東泉坊者雖爲古來之坊跡、中古之住持行跡不宜、配當之地面山形西谷善相江投質地、坊跡
相續難叶令滅却訖、以後善相爲常行念佛飯料地面寄附於當山、空坊七箇寺之内也、隨而寶永元
年住心院公淵念佛堂入之下知狀ニ、若以來從學頭寺跡再建之節者、念佛堂入之分令敷地永々

代飯料無怠慢可相贈旨裁之、依而今般龍城坊嫡子覺了坊義貞爲敷地料金四拾兩奉納、東泉坊
跡再建住職奉願旨趣不堪歡喜令許容者也、抑念佛堂入七箇寺は、歲霜久雖令廢頽於今不及一
字之再建は、當山堂社之修營數多、將亦學頭之住職不久故也、然龍城坊父子東泉坊跡再建之願
申上條感激不斜、對一山勳功莫大者歟、仍爲遺子孫付感書者也。

寛保二壬戌秋九月十八日、

學頭成唯識院權大僧都法印宣雄、花押

同年十一月、幕府米澤城主上杉吉憲ニ命シ、出羽國置賜村山兩郡内、高五萬千八百石ノ御
料地ヲ管領セシム。

〔東郡叢書〕

高五萬千八百石出羽國之内、右之處唯今迄佐山半次郎御代官ニ而候處、從當成年御預所被
仰付候間、諸事御仕置等入念可被申付候、御年貢納方之儀は私領村方ニ引合、免合格別取劣
候所も有之候は、領分免合并納方等相考連々御箇増候様被致勘辨、仕辭不宜儀は相改候様、
御勘定奉行所へ可被相達候、其筋存候由申立候共、手代杯一切抱不申、領分取扱候役人爲相計
候様可致候、且亦名主庄屋等不宜者は取替可申候、
一公事訴詔裁許申付候義、格別之儀は御勘定奉行所へ可被相達候、大概之義は手前ニ而可被申
付候、
一村付帳御勘定奉行ノ可被相越候間、村方請取可被申候、但シ私領杯ニ相渡候義有之節者、御勘

定奉行より可被仰達候間、可被得其意候、以上。

寛保二戌十一月、松平左近將監印

〔諸邑留書帳〕

一米澤御預所、

山野邊村、杉下村、達磨村、長崎村、寒河江、石川、西里村、兩所村、要村、深澤村、伏熊村、

同三年癸亥年七月、小關村堰堤橋梁ノ普請個所ヲ、漆山役所ニ具申ス。

〔小關村文書〕

御普請所并自普請所書上帳、小關村、

一用水堰貳ヶ所、但出水ニ御座候、

是は天童村老野森村久野本村ノ立會自普請所ニ御座候、但右入用之杭木は天童若木御林ニ而年々申請候、伐運人足入用共ニ自村ニて仕來候、

但帳而紛失仕無御座候間、ヶ條書は仕兼申候、

高木村ノ流尻、

一新堰貳ヶ所、

是は高木村之余り水、當村天童村田表渴水之場所へ引來申候、右江拂之義は御田地所持仕候者共罷出、江拂普請仕來り候、尤此堰と申は何拾年以前出來仕候哉相知不申候、
久野本江流尻、

一溜池堤壹ヶ所、

長五拾五間程、
横四拾八間程、

右ニ付入樋壹ヶ所、長三間、但内法四寸四方、

梓木、長九尺、但真木共五本、

是は水下御料自村他村、并寶幢寺分田方共ニ、五町步程之用水ニ罷成申候、尤右以樋梓木共ニ、天童若木御林ニ而被下置、伐運人足并繕入用は自村ニ而仕來候、尤堤破損并溜池押埋候節は、東根御領内中寄人足被仰付、人足御扶持米壹人ニ付七合五勺ツ、御役所ニ而御割符被遊被下置候、村方ニ書付は無御座候、

一元祿元辰年ノ同十丑年迄拾ヶ年之内、元祿五年申年松平下總守様御知行之節、東根御領内中寄人足を被付御扶持方被下、御入用を以提出來仕候、以樋梓木共被下置候、但仕用帳は村方ニ無御座候、

一元祿拾壹寅年ノ寶永四亥年迄拾ヶ年之内、但寅年松平大和守様御知行之節、溜池押埋候ニ付寄人足を被仰付御普請仕候、但其節之仕用帳は村方ニ無御座候、

一寶永五子年ノ享保二酉年迄十ヶ年之内、丑年松平大和守様御知行之節、右以樋梓木破損仕候ニ付、御願申上右は御林ニ而被下置候、

但伐運人足并繕入用は、自村ニ而仕立申候、
一享保三戌年ノ同十二未年迄拾ヶ年之内、御入用御普請無御座候、尤少々宛繕之義は自普請仕候、
一同十三申年ノ元文二巳年迄拾ヶ年、右同斷、

小關分くらす川

一大橋壹ヶ所、長四間半、横壹間、

是は破損仕懸替候節は、矢野目村ニ而橋木御材木御願仕、伐運人足入用共ニ矢野目村ニ而仕來候、尤橋懸候節は當村ハ茂人足立會懸來申候、但帳面紛失仕無御座候間、ヶ條書仕兼申候。

一橋數三拾壹ヶ所、但長七尺之橋木申請候、

是は橋木之義御足輕衆御見分之上、壹ヶ所江壹貳本宛足木年々被下置候、但帳面紛失仕無御座候間、ヶ條書仕兼申候。

一湧水之節は川原子村松渡戸堰水、御公儀様ニ而御貫分ニ被遊、矢野目村當村ニヶ村被下置候、其節御足輕衆川原子村ニ御附水御通し被下候、右書上候通少茂相違無御座候、以上。

小關村名主、

寛保三年亥七月、

源右衛門、

組頭、利作、

同、仁兵衛、

百姓代、藤次郎、

漆山、

御役所、

同年八月、須川洪水、

〔山邊略史〕

寛保三年八月須川洪水ニテ鶴田へ水上ル、古老云フ往昔ハ須川ノ兩岸萱篠常ニ簇生シ、河水抵滞シテ洪水ノ患ヒ屢生セリ、此際ニ嘗リ其沿岸ノ耕地恰モ海ノ如ク、小舟ヲ浮ベテ以テ之ヲ赴援セリト、

延享元年甲子五月、山形城主堀田正亮大坂城代ヲ命セラル、因テ領地四萬石ヲ傍近ニ賜ヒ、山形領四萬石ヲ公收シ、漆山代官宮村孫左衛門ヲシテ之ヲ管セシム、

〔雜錄〕

堀田相摸守正亮、

延享元年甲子五月、大坂御城代ニ付、拾萬石之内四萬石大坂近處ニテ御替地ニ渡る、山形領地之内四萬石ハ御代官野呂伊右衛門支配ニ成る、殘而六萬石相摸守領す、

關根上野、松原長谷堂、江股村五組ニ成る、山形國替風ハ〇故永く御料地之様ニ町在之もの預として、江戸表寺社御奉行大岡越前守御役所へ、總代として大庄屋小庄屋町年寄檢斷願書持參候、

〔諸邑留書帳〕

一延享元年子八月、山形城主堀田相摸守様大坂御城代ニ御登リ被遊候ニ付、拾萬石之内四萬石大坂ニ而相渡り候ニ付、爰元四萬石漆山御支配ニ、八月七日ニ相渡り候、

一要害組 大庄屋、佐藤三郎右衛門。
 一岡組 全、柏倉九左衛門。
 一古館組 全、新關太郎左衛門。
 一柏倉組 全、五兵衛。
 一植木組 全、三澤彌市右衛門。
 一落合組 全、鈴木與總兵衛。
 村數四拾貳ヶ村ニ而四萬石、
 延享元年子八月、
 一漆山御代官宮村孫左衛門様、
 一尾花澤御代官影山(隆山)外記様、
 右御兩人八月ノ十一月迄御預り、
 一長瀨御代官野呂伊右衛門様御支配ニ十一月八日ノ罷成候、
 【舊領石高綱】
 四萬石帳、
 一高千貳百七拾三石七斗四升六合、 落合村。
 一同四百三拾石八斗三合二勺、 印役村。
 一同千三百貳拾三石壹斗七升三勺五才、 下樅澤村。
 一同九百四拾九石六斗三升四合八勺五才、 上樅澤村。

一同五百七拾七石五斗九升五合八才、 植木村。
 一同八百三拾四石八斗七升五合六勺壹才、 青野村。
 一同七百四拾九石七斗五升三合七勺七才、 大野目村。
 一同六百八拾壹石壹斗八升四合八才、 北青柳村。
 一同七百拾三石五斗三升七合七勺三才、 南青柳村。
 一同百壹石三斗九升八合壹勺貳才、 風間村。
 一同千四百七拾五石五斗三升六合五勺九才、 長町村。
 一同千五百三拾貳石五斗四合八勺九才、 山家村。
 一同三百六拾石六斗六升五勺六才、 双月村。
 一同四百八拾九石三斗四升壹勺七才、 今塚村。
 一同八百貳拾石八斗八升貳合九才、 二位田村。
 一同千九百貳拾三石貳斗六升四合八才、 谷柏村。
 一同百貳拾三石貳斗四升五合五才、 小白府村。
 一同三千拾八石貳斗八升四合、 柏倉村。
 一同貳千四百五石壹升七合、 門傳村。
 一同八百五拾五石壹斗壹升五合四勺貳才、 古館村。
 一同四百九拾壹石六斗七升八合七勺、 北作村。
 一同貳百三拾六石八斗五升五合七勺五才、 瀧平村。

一同三千六百七拾八石七斗二升四合八勺貳才、村木澤村。
 一同貳百五拾三石八斗壹升三合八勺九才、畑谷村。
 一同三百五拾貳石九斗三升四合九勺、藥澤村。
 一同九拾八石三斗九升九合五勺九才、深澤村。
 一同千百拾壹石七斗貳合二勺壹才、若木村。
 一同四百拾七石貳斗九升貳合六勺九才、常明寺村。
 一同千九拾五石三斗五升壹合六勺五才、大塚村。
 一同三百五拾六石五斗四升壹合、三川宿村。
 一同九百八拾四石四斗六升六勺七才、反田村。
 一同貳千貳百五拾八石貳升七合七勺七才、志戸田村。
 一同八百拾石壹斗貳升九合、要害村。
 一同六百五拾三石三斗貳升、大蕨村。
 一同千三百四拾三石六斗三升壹合、根際村。
 一同五百拾六石貳斗三升五合、高楯村。
 一同六百七拾六石八斗壹升壹合、藏増村。
 一同百七拾七石六斗九升九合、高野村。
 一同三百六拾九石九斗貳升三合、今町村。
 一同七百四石五斗六升四合、窪野目村。

一同六百七拾六石壹斗四升五合、中野目村。
 一同六百拾壹石七斗五升壹合、土橋村。
 一同四百三拾九石七斗九升貳合、岡村。
 合三萬八千九百七拾四石四斗六升四合。
 内千四百四拾石貳斗壹升貳才、前々諸役不申付候。
 高千貳拾五石五斗三升六合。
 右者松平下總守様御家來川上善右衛門より引渡受取候、今高帳を以相改如斯御座候、以上。

堀田相摸守内、

延享元年甲子八月、
 蔭山外記様御手代、
 木村傳兵衛

高橋丈左衛門殿、
 宮村孫左衛門様御手代、

石川 多七殿。

同年某月、山本平八郎代官職ニ任ス。
 同二年乙丑正月、北作畑谷大蕨等山郷ノ地、猪鹿群生田畑ヲ侵害ス。

〔樋口宇右衛門過去帳裏書〕

延享元年甲子、是迄に拾ヶ年程以前より猪獅子鹿共に多く、田畑殊の外荒し其上夜ハ家の内ま

で押込候、然るニ此年雪十一月十七八日より降り、同廿日より獅子狩有之、丑正月二日より又獅子狩初る、多き事不知其數、同二月廿二日より一日も不止狩候、凡東郷五百川此邊にて狩取候處四百疋程、尤猪獅子也、道具は鏈。

同年二月、志戸田村明細帳ヲ、長瀬役所ニ具申ス。

〔志戸田村文書〕

出羽國村山郡志戸田村明細指出帳、

- 一米五升、秣場野年貢寛永年中保科肥後守様御代、秣場原御吟味之上秣苧取申候間、右御年貢被仰付上納仕來申候、
- 一米壹石壹斗七升、かくま山年貢、前々大蔵村北作村地内山へ罷越、年々焚草取來申候、寛永年中保科肥後守様御代、御吟味之上被仰付上納仕來申候、
- 一鐙七百三拾文、漆木役、當村ニ漆木四壁有之、漆實を取かき漆等も仕候間、寛永年中保科肥後守様御代御吟味之上、御役錢被仰付上納仕來申候、
- 一永貳ノ八百七拾八文四分、青苧畑役錢、先年直段茂宜御座候ニ付作り申候節、寛永年中保科肥後守様御代、百姓前銘々青苧畑御吟味上御役錢被仰付、其後年々納來申候、
- 一在貳石五斗三升八合、高百石ニ壹斗、但在壹升五合代米壹升つゝ被下候、
- 一夫米四拾貳石三斗壹升八勺、此儀寛永年中鳥井左京亮様御代、歩と申て御知行所ハ江戸御參府之砌、歩人被仰付差出候得而ハ、百姓共農業之指圖罷成迷惑仕、保科肥後守様御代達而奉

願候而、歩人足之替り右夫米被仰付候由申傳候、其節ハ年々上納仕來申候、

- 一永六百五拾五文、小物成是は澁糖藁草中繩細繩之代、
- 一淺草御藏前入用金永七ノ貳百七拾八文貳分三厘、高百石ニ金壹分、
- 一御傳馬宿入用壹石七斗四升六合八勺、但百石ニ六升かゝり、
- 一御林下草御拂場所當村ニなし、
- 一永錢運上物當村ニなし、
- 一御六尺給米當村ニなし、
- 一御餅米上納當村ニなし、
- 一當村海道御傳馬宿ニ而なし、高役御免宿物債米金年賦之譯なし、
- 一奥方大名衆御上下ニ、山形三日町并松原村江助人馬、山形ハ御願ニ付高割以出申候、
- 一御城米津出し車り淵川岸迄當村ハ道法六町、同所より酒田港迄川路三拾四里余、湊ハ江戸迄東海上四百拾七里程、西海上七百拾三里程、
- 一當村拾丁程掃除仕候、
- 一當村ニ鐵砲なし、
- 一當村ニ獵師鐵砲威鐵砲なし、
- 一當村ニ造酒屋なし、
- 一當村ニ高札二枚内、切支丹壹枚、火事札壹枚名主前々掛置申候、別紙寫指上申候、

- 一 越石田畑合五反壹畝廿六步有、山形領吉野宿村次兵衛持高、
- 一出作田三反六畝拾八步有、山形領船町村分當村武兵衛持高、
- 一 當村ニ御朱印地なし、
- 一 御除地當村鎮守熊野社貳畝步程、三寶荒神社壹畝步程、八幡社貳畝步程、貴布禰神社拾步程、
- 一 當村寺貳ヶ寺御朱印なし、奥州岩城長源寺末寺曹洞宗天然山乾徳寺、漆山御料中野村淨蓮寺末寺淨土真言宗青蓮山敬念寺、
- 一 當村ニ浪人なし、
- 一 武士并浪人職人等當村ニなし、
- 一 當村ニ醫師なし、
- 一 當村ニ大工なし、
- 一 當村ニ木挽杓取鍛冶桶屋紺屋紙漉なし、
- 一 當村ニ馬口勞壹人あり、
- 一 當村ニ馬醫なし、
- 一 當村ニ道心者なし、
- 一 當村ニ座當壹人、
- 一 當村ニ山伏壹人、
- 一 當村ニ以通なし、

- 一 堰壹ヶ所、山形領馬見崎川より御城内へ水を引、北不明御堀落水共ニ山形領町在共ニ入會ニ用申候、此入用割として鑑貳貫文程水番給米壹俵宛年々當村へ出申候、尤當村流之末ニ而年ニ分界損場なり、
- 一 當村ニ用水場并溜井なし、
- 一 當村ニ用水堀なし、
- 一 當村ニ橋十七ヶ所、丸木橋長九尺 横六尺、荒神堂、横倉、高橋、荒屋敷、五軒、長面、丸木橋長六尺 横四尺、本郷三ヶ所、去手路二ヶ所、籠田壹つ、ひわひ壹つ、荒屋敷上三、木公儀を被下候、
- 一 當村ニ御林なし、
- 一 當村ニ萱野なし、
- 一 芝野壹ヶ所、長サ參拾貳間程 横 貳拾七間程、秣場、
- 一 當村ニ炭焼かまなし、
- 一 當村ニ薪取場所なし、山野邊市場ニ而買納申候、
- 一 當村百姓持林なし、四壁少々御座候、
- 一 御追放者當村ニなし、
- 一 御預り者當村ニなし、
- 一 御相續、
 - 一 保科肥後守様、一 松平大和守様、一 松平下總守様、
 - 一 奥平大膳守様、一 御息 美作様、一 堀田下總守様、

一松平大和守様、一松平 左膳様、一堀田伊豆守様、
一同 内記様、一同 相摸様、

右十一御代御私領ニ罷成、延享元年子ノ八月御公料ニ被仰付候、

一當村枝郷、去手路村壹軒百姓拾軒水呑寺壹ヶ寺、五軒屋敷六軒百姓壹軒名子、

一當村東山形御城下江壹里、

一當村漆山御料東茨田村江六町、

一當村山形御領吉野宿村江拾町、

一當村御支配西三川宿村江六町、

一當村米澤御預り山野邊村江貳拾町、

一當村御支配南下樫澤村江七町、

一當村漆山御料北館洗村江八町、

一長壽御役所へ六里、

一郷御藏、長八間 横三間 藁延り、御用敷屋敷内三町步、

一當村渡船なし、但境杭川を越し當村三河尻境可立置候、

一當村境須川有、八拾間程小石河步行渡り、舟渡し川岸場なし、

一當村家組ニ而なし、東西わからなし、

一當村田畑赤がま土ニ御座候、

一當村用水、流藁界損所ニ御座候、

一當村市場ニ而なし、

一當村賣買物山形町へ壹里、山野邊村市へ貳拾町、右兩所ニ而用事相達申候、

一當村鎮守祭日、六月九日、八月十五日、九月十九日、一日宛祭申候、

一當村定助大助郷と申儀なし、

一當村江戶へ九拾四里、山形城下迄平地東西南北道法、隣郷江之道法名高き近在之道法不致候、

一金銀鐵銅山繪具硫黃鉛山藥種當村ニなし、

一桑楮茶三木當村ニなし、賣買致者もなし、

一蠶當村ニなし、

一當村四壁ニ漆木有、御役錢差上候、

一田畑稼之間男のみになわ蒔こも藁稼仕、他事可仕隙なし、

一女稼布木綿かせ仕紅花青苧少々作り出ス、

一當村ニ絹紬木綿稼なし、

一田壹反ニ付種粃四升おろし申候、

一麥田作當村ニなし、

一稻草、早稻^まや^こうきの國角ふつ五ヶ貳程、

中稻仙臺江戶上こく、

晚稻小四郎ふんこ、

同斷、
殘壹つ程、

一畑作、麥、そば、大豆、こま、荏、たはこ、小豆、あわ、作ヲ申候、
 一田こやし、荏、かす、そう、ちう、かす、こぬり、買納、あく、ぬり、へ、切、受、用、申候、
 一畑こやし、荏、かす、買納、あく、切、ませ、用、申候、
 一田畑小作并、入、指、米、

- 一上田壹反歩ニ付、 指米壹斗五升、
- 一中田壹反歩ニ付、 右同斷、
- 一下田壹反歩ニ付、 指米壹斗三升、
- 一上畑壹反歩ニ付、 指米七升、
- 一中畑壹反歩ニ付、 指米五升五合、
- 一下畑壹反歩ニ付、 指米四升、

一田畑年季質物ニ入候事、
 一上田壹反歩ニ付、 拾年季金壹兩位、
 一中田壹反歩ニ付、 拾年季金壹兩位、
 一下田壹反歩ニ付、 拾年季金三分貳朱位、
 一上畑壹反歩ニ付、 拾年季金貳分位、
 一中畑壹反歩ニ付、 拾年季金壹分貳朱位、
 一下畑壹反歩ニ付、 拾年季金壹分位、
 一當村名主給米取不申、持高之諸役除相勤申候、

一御年貢米外永七拾五文、米七升五合壹ケ年入用指上候、
 一當村家數七拾八軒、但枝郷共ニ五十貳軒本百姓、貳軒名子、貳拾四軒水吞、此人數四百四拾
 人、内貳百三拾四人男、貳百四人女、壹人山伏、壹人座當、
 一當村ニ馬拾疋、
 一當村ニ牛なし、
 一當村ニ猿引系ひすおろしなし、
 一當村ニ穢多なし、

右之通此度御尋之品々書上申通、少茂相違無御座候、若相違之儀書上ケ候而後日ニ露顯仕候
 へ、何分之曲事ニ茂可被仰聞候、以上、

出羽國村山郡志戸田村名主、

延享貳年丑二月、

- 喜兵衛
- 同村年寄 半兵衛
- 全、 太右衛門
- (外組頭百姓代連名)

長辨、

御役所、

同年九月、將軍德川吉宗職ヲ男家重ニ讓ル、

〔大政秘鑑〕

九月朔日將軍吉宗公致仕、大御所様ト奉稱、右大將家重公へ御讓職。

同年同月、禾穀不熟、米價暴騰ス。

〔樋口宇右衛門過去帳裏書〕

延享二丑年五月より雨降り、土用中降り候、依て稻はらみごろにしふ付れ候、前より無之、大不作と申候、其夏まで米壹俵六百五六十文位、九月より引上壹貫三四百文被成候。

同年十月、要害村三郎右衛門、同村佐藤理兵衛ノ由緒覺書ヲ、長瀨役所ニ啓申ス。

〔佐藤氏記録〕

覺

- 一拙者先祖の代々名字帶刀仕候段由緒之趣、詳ニ書付可指上旨被仰付候ニ付、左ニ御答申上候。
- 一私先祖佐藤豊後憲茂事、最上出羽守様御代米澤景勝公と御挑戦之砌、長谷堂陣ニ而討死仕候由申傳候。
- 一佐藤清十郎後ニ和泉茂實と相改候、右豊後倅ニ御座候、此言最上駿河守家親公御代郷侍ニ而要害村罷有候、尤家親公被下置候御書札之由申傳取紛仕罷有候。
- 一佐藤和泉茂莫前々和泉嫡子御座候。
- 一佐藤利兵衛快右茂莫之嫡子、然所正保年年中は松平大和守様御代御領地之内、始而大庄屋役人御立被爲遊候之砌、右由緒皆及御聞大庄屋役被仰付候旨申傳候。
- 一尤先祖憲清より代々傳來仕候書物之儀、貞享貳年丑八月他火ニて焼失仕候由、尤其節漸々相

殘候最上家親公の御書翰并憲清の傳來之旗武具之類、相殘候迄御座候と申傳取紛仕候、尤右旗之義は委細有之、豊後伯父同名丹後方へ與之候由申傳、近所親類之内ニ取扮罷在候。

- 一佐藤理兵衛茂彌拙者祖父の御座候、貞享年中松平大和守様御代、堀田伊豆守様堀田相摸守様御代迄、大庄屋役蒙仰名字帶刀仕候、其後右大庄屋役享保五子年嫡子權左衛門方江替仰付候、尤理兵衛方への御宛行等罷下置、御家來同様ニ被仰付相勤候内、御紋付時服品々并猶御城内屋鋪等拜領仕候、尤賤家江駕入候御事茂御坐候。
- 一佐藤權左衛門豊雄後ニ理兵衛堀田伊豆守様御代大庄屋相勤候、内高御免則高代金頂戴仕候、右先祖より代々名字帶刀仕候、可申傳候事俱に申上候段、恐多奉存候得共、詳ニ書候様被仰候ニ付、乍恐御披露申上候、以上。

延享貳年丑十月、

要害村、

三郎右衛門、

長瀨、

御役所、

同三年丙寅三月、幕府代官蔭山外記、其管下各村ノ明細帳ヲ徵收シ、以テ施政ノ資ニ供ス。

〔原町村文書〕

延享三年寅三月指出明細帳、

蔭山外記様御代官所、

原町村、

一高七百四十三石八斗壹升五合、 本田畑、
此反別五十七町七反貳畝拾七步、

此譯、

田高五百石八斗貳升四合、

此反別貳拾四町七反壹畝十三步、

畑高貳百四十三石壹升壹合、

此反別三拾三町壹畝四步、

(田畑反別明細省略)

一家數四拾貳軒内百姓貳拾四軒、水吞拾八軒、

一人數貳百人内男百拾人、女九十人、

一當村之儀百姓數無御座候ニ付諸役御赦免、

但松平下總守様御代ヨリ、

一馬、拾疋、駒、

一牛、無御座候、

一米七升、此反別貳畝步、 數年貢、

是は古來より御領主竹藪ニ御座候所ニ、松平大和守様領地之節、元文五申年竹枯候ニ付御

見分罷成、數絶畑年貢ニ被仰付上納仕候、村高外ニ御座候、

一米拾壹石壹斗六升壹合九勺、 夫米、

是は山形領之節夫指出申候、松平下總守様寛文八申年、宇都宮へ御所替ノ節ヨリ宇都宮領
ニ罷有其節より米よて指出候事ニ被仰付、本田畑高百石ニ付五斗宛指出申候、御料罷成本
新田畑百石ニ付五斗ツ、指出申候、

一南原御林、壹ヶ所、 松立ニ御座候、長五百廿四間、
横貳百參拾間、

木數壹萬四千七百十一本、但日通七寸廻りより八寸廻りまで、漆山御役所御改、

小物成銅錢貳百文、 下草刈來申候ニ付前々々定納、但年數相知不申候、

小物成銅錢三百五拾文、 下草刈來申候ニ付、寶幢寺分愛宕門前々當村へ定納、但數年以前

々定納仕候か、年數相知不申候、

一八幡山御林、壹ヶ所、 松立ニ御座候、此反別七町九反拾六步、

木數七拾本、目通貳尺五寸廻りより三尺廻り迄、

小木七百五十本程、目通五寸廻りより七寸廻り迄、

一越王山御林、壹ヶ所、 松立ニ御座候、此反別五町七反拾步、

木數百五十本程、目通貳尺廻りより三尺廻り迄、

此御林之内かくま御拂代永七百五拾文、前々より定納壹年置ニ蒞來申候、但延享貳丑年々

増永六拾八文壹分上納仕候、何年以前々蒞來候哉年數相知不申候、

一小物成調錢三百三拾六文、 上納青苧畑御役錢、

此反別壹反壹畝六步、 但壹反ニ付三百文、

一小物成調錢壹貫五百三拾文、 年々不同漆木御役錢、

此木數貳百貳拾本内半枯貳本、但生木壹本ニ付七文、半枯壹本ニ付四文、此漆木村方地付ニ被仰付自由仕候。

一調錢貳百七拾貳文、上納ノ山野年貢。

是ハ宮村孫左衛門御支配所、荻野戸村山野へ先規ハ入來候ニ付、寛文八申年ハ同御支配所分郷、下原町へ上納仕來申候。

一當村改出反別無御座候。

一酒造屋無御座候。

一鍛冶桶屋大工山伏座頭、其外諸職人無御座候。

一猿曳るひすおろし無御座候。

一穰多無御座候。

一醫師無御座候。

一惣テ諸浪人住居仕不申候。

一名主持高三拾八石五斗六升、村役相除き申候。

一名主給無御座候。

一組頭持高も村役等相除き來り申候。

一筆取給米拾俵、但三斗七升入。

一境無御座候。

一小歩無御座候。

一惣テ名所舊跡之類無御座候。

一市町立不申候。

一御鷹巢山無御座候。

一竹類無御座候。

一近村へ御用人馬相勤申義無之候。

但諸大名様方御通之節は、天童へ助人馬指出申候。

一藥種ニ成る本草無御座候。

一御高札切支丹御制禁之札壹枚、前々郷方藏門前へ建有之申候。

一用水堰之外船渡等無御座候。

一田作植付之節ハ、半夏前より半夏過迄植付申候。

一畑方夏作紅花秋作麥、其外大豆烟草仕付申候。

一稻刈揚之節は、例年秋彼岸ハ早稻刈揚ケ申候、晚稻は彼岸十日過より蒔揚ケ申候。

一田畑見取場無御座候。

一野原無御座候。

一在上納貳叭四升五合、但在壹升五合ニ付、米壹升つゝ被下置候。

一大豆納無御座候。

一六尺給米無御座候。

一餅米上納無御座候。

- 一 淺草御藏前入用高百石ニ付金壹ツ、上納仕候。
 - 一 種貸米夫食米、私領之節年々拜借仕候。
 - 一 秣場無御座候。
 - 一 山野草野奈良澤村、古來ノ無役ニ入來申候。
 - 一 堤、壹ヶ所、長六十間、中五十間但貫津用水當村御田地貳反歩ニ用水。
 - 一 稻草、ブンゴ、定石、サン助、白稻。
 - 一 田壹反歩ニ付種粃四升程。
 - 一 耕作之外男稼無御座候、女ハ田畑野草ノ稼ニ、外着用布木綿少々仕候。
 - 一 田畑之内四町余旱損場ニ御座候。
 - 一 小作直段、田壹反歩米、三俵壹斗位ヨリ貳俵五升位まで、
畑壹反歩米、壹俵半ノ壹俵壹斗位まで。
 - 一 小城跡無御座候。
 - 一 郷藏、壹ヶ所、長八間、横三間但除地も無之御引も無之、高壹丈、御年貢米村方よて濟上納仕候。
 - 一 御城米津出場、藏増村川岸へ道程貳里余。
 - 一 田方へ木綿麥作仕付不申候。
 - 一 畑方へ木綿少々作付少々仕候。
 - 一 御水帳、五冊。
- 是ハ奈良澤村ノ寛文九酉年、松平下總守様御代官之節、當村へ寫來申候。

- 一 御朱印反別相知不申候。
- 一 除地無御座候。
- 一 八幡宮、境内五反歩程。
但八月廿五日同廿七日迄祭禮御座候、近村者少々參詣仕候。
- 一 牢屋無御座候。
- 一 山野、是ハ宮村孫左衛門様御支配所、貫津村奈良澤村奥山、先規より茅柴秣無役よて苧取入來申候。
- 一 絹紬仕候者無御座候。
- 一 隣村へ道程、居村長八丁三十間、内五丁三十間ハ當村、參町分郷下原町村。
東奈良澤村へ拾町、南荒谷村へ拾七町程、西北目村へ拾六町、北貫津村へ拾町程、尾花澤御役所まで七里半、漆山御役所まで壹里五町、東根御役所まで三里程、寒河江へ貳里半、大石田へ七里、山形へ三里、山寺へ壹里半。
- 一 漆山御領宮村孫左衛門様御支配所。
- 一 分郷下原町村、家數十七軒、人數九十七人。
是ハ寛文八申年漆山御領ノ相分申候、野御田地入會ニ御座候。
- 一 用水、東善寺出水貳町余、貫津村堰水貳反歩程。
- 一 堰壹ヶ所、立谷川通天童堰、當御田地貳拾町余ノ用水。
但堰村内五百拾間幅三尺程。

- 一 當村之内川除御普請所無御座候。
- 一 掛樋無御座候。
- 一 獵師鐵砲無御座候。
- 一 金銀銅鐵鉛山無御座候。
- 一 一切支丹類族無御座候。
- 一 蠶仕者無御座候、惣て男女之稼田畑野草苧申候。
- 一 材木薪伐出可申山無御座候。
- 一 砥石釜石烟焔諸礦火水石白土石灰之類無御座候。
- 一 他所へ出作高七拾石程仕候。
- 一 他所より出作仕不申候。
- 一 田畑質直段。
- 上田壹反金壹兩壹分位、 上畑壹反金貳分位、
- 中田同、 壹兩位、 中畑同、
- 下田同、 貳分位、 下畑、下々畑、
- 一 召仕候男女壹ケ年給金貳兩貳分位、女は壹兩位ニ御座候。
- 一 惣て拜借物無御座候。
- 一 古來より檢見取ニ御座候。
- 一 往還駄賃無御座候。

- 一 口留番所無御座候。
 - 一 寺院無御座候。
 - 一 馬喰馬醫無御座候。
 - 一 道掃除場無御座候。
 - 一 御通秣并御預ケ者無御座候。
 - 一 桑楮茶木無御座候。
 - 一 上納漆無御座候。
 - 一 田畑土色黒く御座候。
 - 一 田こやし壹反歩ニ在粕小糠、金壹分代位程入申候。
 - 一 畑こやし壹反歩ニ在粕川のみ。
- 右之通此度御尋之品々書上申候通、少も相違無御座候、若相違之儀書上候は、何分之越度も可被仰付候、以上。

羽州村山郡原町村、

延享三年三月、
 名主、 兵 藏、
 組頭、 徳兵衛、
 百姓代、 善太郎。

同年四月、山形城主堀田正亮下總國佐倉ニ、同城主和泉守松平乗佑山形ニ移封セラル、正亮山形領四萬石ヲ分領シ、乗佑(石内)山形領三萬七千石ヲ領ス。

〔諸邑留書帳〕

一山形城主堀田相摸守様

延享二年丑ノ八月御老中、依之下總國佐倉江延享三年四月御所替、御知行十萬石、内六萬石佐倉、四萬石最上、元山形十萬石之内。

一下總國佐倉城主松平和泉守様

延享三年寅ノ四月山形江御所替、但し六萬石、内三萬七千石山形ニ而。

〔雜錄〕

同三丙寅年總劾佐倉所替〔堀田正亮〕同年五月七日山形御城渡し、同日五組之大庄屋小庄屋不殘、山形七日町佐久間善藏宅ニ而村々相渡る、關根、新山、行澤、八森、草谷、倉土坂、神尾、船町、今塚九ヶ村、寒河江御代官所山本平八郎支配御領所ニ成る、同七月二日長瀨御代官所柴村藤右衛門支配ニ渡る、殘四萬石相摸守領ニ成る、吉原村ニ陣屋建支配之所、同年四萬石之所小笠原土丸領棚倉分柏倉ニ陣屋建て支配す、同年九月五日長瀨御領之内、新山行澤二ヶ村、松平和泉守領ニ入る。

同年同月、私領巡見使山口勘兵衛、神保新五左衛門、細井金五郎、御料巡見使長谷部安五郎、鶴田乗助、小知藤右衛門等、米澤ヨリ村山郡ニ入り諸村ヲ巡見ス。

〔諸邑留書帳〕

一當將軍家重公様御代替ニ付御巡見様

山口勘兵衛様

但御案内村郷境限リ。

神保新五左衛門様

細井金五郎様

延享三年寅四月廿六日、根際村ノ山野邊村馬繼ニ而、長崎村寒河江天童御泊リニ候、御料御巡見様、

長谷部安五郎様

但御案内村郷境限リ。

鶴田 乗助様

小知藤右衛門様

延享三年寅四月廿六日柏倉御泊リ、廿七日御逗留、廿八日下原御晝、根際村ノ深堀、山野邊ノ長崎村御泊リニ候。

〔畑谷村文書〕

御巡見様御通之御尋覺書帳、長瀨領。

延享三寅四月廿六日御晝休、畑谷村。

延享三年寅四月廿五日上ノ山御泊リニ而、長谷堂村菅澤村柏倉村門傳村木澤村ノ、同月廿六日畑谷村御晝休被遊候而、築澤村新田村山野邊村ノ、同日天童御泊被成申候。

御巡見様御休御支度三御本陣役割、

一山口勘兵衛様

御宿、助右衛門

御同勢四拾七人、

御給仕人袴着三人、 勝手世話役貳人、
御下給仕人無袴五人、 御せうし拾五人、

一神保新五左衛門様、 御宿、 作右衛門、

御同勢貳十八人、

御給仕人袴着三人、 勝手世話役貳人、

御下給仕人無袴五人、 御せうし十五人、

一細井金五郎様、 御宿、 傳右衛門、

御同勢三拾七人、

御給仕人袴着三人、 勝手世話役貳人、

御下給仕無袴八人、 御せうし十五人、

御晝休献立、

平、
御汁、

壺、
引物、

香の物、

一人馬繼之様子上ノ山々畑谷村迄畑谷村ノ山野邊村迄參山野邊ニ而人馬繼申候、

駕籠六挺内壹挺山駕籠、

長持四棹、

御荷物、 三十七駄、

人足、 四十八人、

かちま、 四十人、

一御宿ニ罷成候家居從御上被仰付御見分之上御普請被遊候先格ニ御座候、

御巡見様御私領之節御通筋、

一長谷堂村御泊ニ而畑谷村晝御休ニ而築澤村之内鳥越道ノ若木村四釜村沼木村南館村田町
ノ御入被遊旅籠町御泊ニ被成申候、

御領之節は、

上ノ山御泊ニ而畑谷村御晝休築澤村新田村山野邊村ノ天童御泊ニ被成申候御領御私領之
時節ニ而御通筋相違も御坐候、

御私領之節、

御巡見様御宿被遊候節御詰被遊候御役人様御本陣附、

由比善兵衛様、 中川 小八様、

池浦三郎兵衛様、 黒澤 善治様、

前田徳左衛門様、藤川 丹治様、
 日置清右衛門様、馬割櫻井 治助様、
 吉田 半治様、
 池田 久助様、

同年五月、堀田正亮山形城ヲ松平乗佑ニ交付ス、上使戸田彌十郎、御目附小倉十兵衛之ヲ監視ス、同月乗佑法度ヲ領内ニ頒布ス。

〔袖中雜錄〕

一松平和泉守乗佑、左近將監乘邑 是男六萬石

延享三丙寅年下總佐倉カ、同五月七日御城引渡、上使戸田彌十郎、御目附小倉十兵衛

〔雜錄〕

堀田相摸守様御領村分之次第、

一關根村落合組ニ候處、寶永三丙戌八月十九日より平清水組ニ成る、元文三戊午十二月廿五日迄三拾貳年ニ成る、同年十二月廿五日カ關根組ニ成る、延享三丙寅四月五日迄九ヶ年、鈴木刑左衛門様支配村數十八ヶ村之處、相摸守様下總佐倉御所替ニ付村々分る也、前田村小白川松平和泉守様御料、寶澤上下釋迦堂妙見寺堀田相摸守様御領、平清水小立青田岩波御同料草刈與總左衛門様支配、關根新山行澤八森草谷倉土坂神尾青木總内様支配、寒河江御代官山本平

八郎様御預所ニ成る、但し右之内行澤新山二ヶ村、山形御領ニ成る、殘る五ヶ村（關根、八森、草谷、倉土坂、神尾）寛延貳八月十二日伊達之大森御代官川田玄蕃御料ニ成る。

〔志戸田文書〕

一主人ノ忠を盡し、親ノ孝を致そへし、郷中町中にて人も存知たる忠義の者、孝行の者有之は申出へし、諸親類ノむつまじく致へし、惣而百姓ノ不似合者かしき儀一切仕間敷事。

附他所人わ不及謂、諸奉公人ニ對し慮外致すへりらに、尤山形町中馬に乗べからざる事。

一御傳馬は不及謂馬繼助人馬之儀、無滯可相勤候、常々村々配符送物等、晝夜に不限宿繼無滯相届へし、惣而往還之旅人江對し聊疎略不仕、人馬川越人足等之儀、先規之通滯無之様ノ可仕候事。

附往還の道橋常々念を入、損し候所は早速可令修補事。

一邪宗門之儀別而御制禁之儀候條、前々之通相改養子縁組等仕候に付而は、別而念入可申候、万

一鳥乱之儀有之は早速可訴出事。
 一火之用心常々油斷すへりらに、若火を付る者有之は召捕、早速山形役所江召罷出へし、惣而風立候節は番人は不及謂、役人繁々廻り火之本稠敷申付へし、常々申合置若出火之節は、早速火消道具持參精に入消可申候、盜賊又は狼藉者有之は是又右之通申合、相圖の鳴物次第早々懸合搦捕、山形役所江召罷出へき事。
 一徒黨かましき儀、并たくみを以て公事等いさし候儀堅御禁之、自然かやうある者有之を及承候は、早速訴出へし、存知ありら其分よいし置候は、曲事に申付へき事。

一他領入相之村は勿論、常々萬端相慎隣郷親しくいさし、出入なき様に仕へき事。
 一田畑少茂荒し申間敷候、若不作之所有之は、庄屋組頭遂相談作付致すへし、用水并堤川除井關等の普請、前々之通油斷仕間敷事。

附山林は不及謂、居屋敷の竹木までも伐荒し申間敷候、無據入用にて伐取候は、役人江相届差圖に任すへき事。

一田畑山林落地有之は、改出次第早速申出へし、若隠し置候は、曲事たるべし、常々農事油斷なく相勤へし、博奕其外賭の諸勝負堅く令停止之、勿論宿をいさしニ者同罪たるへき事。

一喧嘩口論堅相慎へし、荷擔の族有之は其科本人よりおもかるべし、若人をあやめたる者有之節は不取通様にいさし、早々山形役所江召を罷出へき事。

一諸役人并輕き役人に至るまで、一切賄賂致すまじき事。
 右條々堅可相守之、若於令違背は急度申付へき者也。

延享三年寅五月、

同年七月、降霜雪ノ如ク、禾穀大害アリ。

〔樋口氏記録〕

寅年は玉虫と申す虫出て、漆の葉かつの葉栗の葉不殘喰ひ申候、依て栗の木漆はりれ候、此年如何なる年にてり、七月十一日の夜霜降りて雪の如く、田方大に悪作。

同年十二月、幕府村山郡御領山寺村ト、立石寺領山寺ト、河原林境界諍論ヲ裁決ス。

〔立石寺文書〕

出羽國村山郡山寺村、立石寺與同村河原御林地境論裁許之事。

立石寺訴趣門前南側新町家之場所。

御朱印地内名所瀧尻江近年御料寺領家並取立候、去丑年御代官宮村孫左衛門改之節、御料百姓案内にて右名所を御林内に改を請、其外門前之内南院拾軒中院四軒御料百姓拾四人之居屋敷も古來は院内にて、慶長年中洪水之節居屋鋪及亡所院内地先に差置候、慶安二年山形城主より屋敷年貢被申付、夫より御年貢差出來候、右之内三吉屋敷裏に、古來院主寺と申寺地迄茂持分に申立候、立谷川通對面石際高橋は、立石寺より掛來寺領に紛無之、御料所に成候而は御朱印地致減少段訴之、御料百姓共答は、去丑年御代官より御林改之節、寛文十二子年檢地之御林境書物を以改を請候、殊南側河原町野年貢御料江相納、新町屋道通を限御林内南院拾軒中院四軒之百姓居屋敷、并三吉持地に相違無之候、對面石際之橋懸替之節は、立石寺よりも材木差出旨答之、右論所以繪圖面就難決、御代官齋藤喜六郎、竹垣治部右衛門兩手代差遣令地改處、立石寺門前新町屋之場水牒名所瀧尻畑反別相違無之外に瀧尻と申名所無之に付、今吟味處八反歩余有之、立谷川通對面石よりかんまんが淵通、八王子前迄古川跡有之、南は河原御林内古川より北新町屋迄之内反別相改、古來之檢地故餘歩茂可有に付、論外古畑相改余歩之割合差加候て、茂有反別多候間、一鉢境内と申段難立且名所中之坊畑反別請所之場、水牒名所高次同所院内と有之、右高次院内は、高に宿上を隔、南之方に有之河原と場所遠ニ付、申分難立、八王子前壹畝貳拾壹歩之請所、水牒に引合川欠に成候得共、當時川床に成欠殘地續に空地茂

有之、御朱印地減少之譯無之、南院拾軒中院常力多右衛門仁兵衛三吉都合拾四人居屋敷は院内之由候得共、山形城主屋敷年貢申付節其通差置、其上寛文中檢地請させ、今更寺領之旨旁以難相立、御料百姓申立寛文中檢地之書付所持いたすといへ共、東南之境斗有之北之境通不書記證據難取用、南側新町家より御料江野年貢納旨、是は御林下草錢にて御料寺領之無差別、新町家限納候證據無之、右町家之内宇右衛門居屋敷御林之内、右畑字河原古來繩請にて北側中院之内三吉傳治助五郎榮七與市屋敷は、三吉先祖河原畑繩之處屋敷に致、三吉方より右四人江貸地に致置、寛文中先祖屋敷請之地所は、當時居屋敷裏之畑其外持傳之由申に付、令地押處善右衛門所持之畑繩請は文七にて、同人子孫六郎右衛門より元文五申年買請賣渡證文に、御林内河原とは名所違にて、買請候地所は夫々之命所にて、河原内之畑は文七繩請之地には無之、場所引違善右衛門江相渡置段不埒付、善右衛門茂此度地改證文之通之名前にて地所請取上は、河原御林内七畝六歩之畑は、古來三吉宇右衛門持分之處、地所取失ひ當時居屋敷を繩請と心得候儀に聞候、勿論宇右衛門分は繩請源四郎にて、三吉分茂源四郎と有之、善右衛門只今迄所持之畑三畝歩と、四畝拾六歩貳枚合七畝拾六歩余歩の割合相當、水牒名順并反別筆順茂符合に付、右畑宇右衛門三吉持分に相見、三吉居屋敷と外四人江貸地賣地に致置所は三吉地所に無相違、屋敷裏繩請之畑其外持傳と申畑共に立石寺境内之處、三吉切開に相決候、河原御林内切開田畑此度相改出、反別御料寺領百姓四拾七人にて致所持御年貢不相納候、依之今般衆議之上相定趣、境之儀は對面石より古川諸通行留、當時八王子前を流候立谷川江引付境を限、北は立石寺領南は御林内たるへし、夫より西方は立谷川流に隨ひ、用水路江取付用

水を限り、南は御林内に相決、早次八王子前川欠殘空地、自今畑に開水牒繩請之反別起返地にて致、新町屋之内宇右衛門、中院之内三吉居屋敷は、古來繩請畑といへ共、御林内古畑此度地押之上、善右衛門所持致候畑貳枚にて七畝拾六歩之地所、全古來宇右衛門三吉兩人之繩請畑に無相違出、反別之割合差加反別相當候間、右之内三畝歩之畑壹枚は、三吉繩請三畝拾六歩之代に相渡、自今兩人致所持御年貢御料江可相納、榮七屋鋪中程より東三吉傳治助五郎等居屋敷貳畝拾貳歩之分は、三吉持分にて中院四軒之内に付、御年貢只今迄之通、自今共に南院拾軒中院之三軒並に御料江相納、三吉裏に有之畑は立石寺境内たるべく候、將丈對面石より懸候橋は御料寺領向後共に橋普請立會に可致、河原御林内切開畑改反別貳町四段八畝拾貳歩は、只今迄御年貢不相納間、御代官吟味之上土地相應之御年貢可相納、御林際宇宮崎空地反別六歩古來用水堀石置之場之處、藤十郎居屋敷之上は、是又自今村並屋敷御年貢可相納、仍而後證繪圖面引墨筋各加印判令裏書、双方江下授條永夕不可違失者也。

延享三寅年十二月二日

松 河内印

御用方無加印

逸 出羽

御用方無加印

神 若狹

神 志摩印

馬 讚岐全

能 肥後全
山 因幡全
大 越前全
小 伊勢全
秋 攝津全

同四年丁卯二月、山野邊村羽黑山派修驗蓮乘院慶遵、同山末派ノ現状ヲ、羽黑山別當役所ニ上申ス。

〔常照寺文書〕

覺

出羽國村山郡最上山野邊村羽黑山修驗頭

日吉山常照寺 蓮乘院

慶遵

子供 蓮光

長淵御役所御支配地

寺内 貳反三畝步

此御年貢米四俵五升出ス

佛殿 南北七間、東西五間

居間 南北七間、東西四間

藥師堂 壹宇 九尺四面、林三拾間四方

山王宮 三間四面

社内 東西三拾間、南北貳拾五間

旦那 減罪貳拾三人、祈願三百人

支配下 拾人

蓮乘院支配下自性院後住

一高力攝津守御領大寺村 善行

屋敷 四畝步

此御年貢米貳斗

家 東西七間、南北三間

祈願旦那 拾人

此分善行支配 蓮乘院支配下福性院後住

一高力攝津守御領大寺村 智泉

屋敷 壹畝步 子供 智行

此御年貢米三升貳合

家、東西五間、南北貳間、
祈願旦那、九人、

此分智泉支配、

蓮乘院支配下東光坊後住、

千手院、
子供、日、赦、

一高力攝津守御領大寺村、
屋敷、

壹畝五步、
此年貢米五升、

家、南北七間、東西貳間半、御年貢米出ス、
觀音堂、貳間四面、林貳拾間四方、

祈願旦那、拾人、

此分千手院支配、

蓮乘院支配下、

一寒河江御役所御扱所北目村、
屋敷、

四畝步、
此御年貢米五斗、

家、南北七間、東西三間、
八幡宮、壹間四面、林十五間四方、

大性院、

此分大性院支配、

蓮乘院支配下、

一米澤御預所山野邊村、

金剛院、

屋敷、四畝步、
子供、右、膳、

此御年貢米壹俵、

家、南北六間半、東西三間、

三島明神宮、宮壹間四面、社內五間四方、

祈願旦那、

此分金剛院支配、

蓮乘院支配下、

一米澤御預所山野邊村、

和光院、

子供、佐、門、

屋敷、村除地、

熊野社之内ニ罷有候、

家、東西六間、南北三間、

熊野宮、四尺四面、

祈願旦那、拾五人、

此分和光院支配

蓮乘院支配下

一米澤御預所山野邊村、澤仙

屋敷、村除地

地藏社之内ニ罷有候

家、東西三間、南北五間

地藏堂、六尺四面

祈願旦那、六人

此分澤仙支配

蓮乘院支配下

一最上山形村松平和泉守御領内志戸田村、寶藏

屋敷、五畝步

此御年貢米壹俵

家、南北六間、東西三間

熊野宮、壹間四方

祈願旦那、五人

此分寶藏支配

蓮乘院支配下本學院後住

一上叒佐倉堀田相摸守御領内北作村、本壽院

屋敷、村除地

村祈願故

佛殿、貳間四面

家、南北六間半、東西三間

祈願旦那、三拾五人

此分本壽院支配

蓮乘院支配下

一上叒佐倉堀田相摸守御領内北作村、中諦坊

子供、嘉門

屋敷、五畝步

此御年貢米貳斗五升

家、南北九間、東西四間半

鳳龍權現堂、九尺四面

祈願旦那、貳拾人

此分中諦坊支配

右今般本末并分限御改被、仰出候ニ付、吟味之上村役人加印仕書上候通リ、少茂相違無御座候、以上

延享四丁卯二月、

山のへ大寺村、

運乗院、

羽黒山御別當、

御役所、

同年五月、上山城主松平信將ノ領民見目原ニ蟻集シ、將ニ課役免除シ、且民害ヲ掃蕩セン
トス、十日町大庄屋山田藤右衛門、醫師宇留野春庵等走セ往テ之ヲ諭解ス、執事山村縫殿
助其請ヲ許可シ、且ツ米金ヲ散シ窮民ヲ賑恤ス、事乃チ鎮定ス、

〔上山見聞隨筆〕

拾五ヶ條之事、

- 一金納直段御所相應之直段ニ被仰付度事、
- 是は年々御他領より、甚直段高直に被仰付候故、
- 一御免定御引渡之通に被成下掛り來候處、御はづし被下度候事、
- 是は毎年づきんかゝり候而、はづれ不申候故、
- 一津留之儀、九月より三月迄に被遊、餘月は御舍免被下度候事、
- 是は近年七月に相立、翌年五月末迄明け不申候故、
- 一山方之奉行下役人衆御止被下度候事、
- 是新法之事に而此役人中私欲多、下々迷惑候故、

一駒頭役儀御停止被下度候事、

- 是も近年新丁新八ニ被仰付、甚百姓に難義仕らせ候故、
- 一濟し萱御家中寺社方へ、買上に被成被下間敷候事、
- 是は御作事直段にして、所々へ被下候事故、百姓迷惑に候故、
- 一御作事へ濟し候材木萱等、參着次第に御請取被下度候事、
- 是は早朝ニ持參候而も、割付皆參り候迄、日暮迄被爲待候故、
- 一松木下枝根松等、下々にも取候様に被仰付被下度候事、
- 是は山方役人餘り嚴敷く、ごもし用もとらせず候故、
- 一御組足輕中御用筋往來庄屋へ立寄被下間敷候事、
- 是は何御用ニ而、出候而も、道々庄屋へ寄酒飯を費し出錢ニ入候故、
- 一山形出し炭薪等、他所留御免し被下度候事、
- 是は當市炭薪直段上候付、他所留に成り出す事不相成候故、
- 一町中役馬不足に而、百姓ニ傳馬多く當り候儀御免之事、
- 是は近年馬代御借不被下候故、役馬不足に而百姓計り役馬勤候故、
- 一宗旨御改帳面村々に而、自分筆者にて調申度候事、
- 是は宗旨方役人衆計り頼み、物入多候故、村々ニ而書調申度候事、
- 一未進百姓御取上奉公人、國勤五俵江戸拾俵被下度候事、
- 御先代は國六俵江戸拾貳俵つゝ、御代は其半給ニ及不申候故、

一 濟登是迄は九尺向六尺三寸繩之事。
一 奉公人衆之御給米、御買上被下間敷候事。

以上。

此通り不殘御叶被下、其上上中一郷へ金子參百兩米千俵被下、或は高割或は人別割等に而、御領分中皆配分して拜賜す、又十日町庄三郎、吉野屋長兵衛、後藤彦三郎三ヶ處に、下直米賣候而、町在共ニ役人之相判を以、壹升參拾九文つゝ、調申候間、一日暮の者共も心安く罷成、此米は山形和泉守様(松平)御拂米百兩ニ參百俵つゝ、龜金右衛門參り候而買入申候。

桃園天皇、同年八月將軍德川家重、寺社領證判ヲ立石寺ニ給與ス。

〔大寶院文書〕

出羽國最上郡金井庄大寶院領、同郡中野村之内三石六斗事、任先規寄附之訖、全可收納、并寺中竹木諸役等免除之、如有來永可有相違者也。

延享四年八月十一日。

同年十二月二十一日、上山城主松平信將、去六月見目原嘯集ノ魁首、牧野村庄屋太郎右衛門父子、上關根村庄屋總左衛門、新丁百姓仁左衛門、二日町百姓與平治等五人ヲ誅戮ス。

〔上山見聞隨筆〕

見ル目原は、延享四年丁卯五月十七日、郷村中の百姓打集り篝火をたき、鯨波の聲をあげて騒動のありし處なり、其時大庄屋十日町山田藤右衛門はしめ、宇留野春庵、神野忠右衛門等馳せ

參り此騒動を取有め、總百姓の願ひ拾七ヶ條を取次、御家老山村縫殿之助殿の御了簡を以、右拾七ヶ條の願ひ、野間届に相成りしなり、右騒動張本人は牧野村庄屋太郎右衛門、同く子太吉、上關根村庄屋總左衛門、新丁の仁左衛門、二日町與平治等の五人、後ち御糺ありて同年十二月廿一日御仕置に相成りたるなり。

寛延元年戊辰九月、山寺村、農作物ノ竊盜ヲ患ヒ、相圖リテ議定書ヲ定ム。

〔山寺村文書〕

掟

一 田方稻作之儀、苜取仕廻無之以前、何れ之田へなり共、用事無之ふミ入込申間鋪候、若老若ニかさらず及違背、壹はニ而も切取、ひろいぼたり共仕候者有之候は、吟味之上過慮金三兩急度差出し可申候、尤みかけ候者有之、ミのかしニ仕候者有之、脇々相知レ候ハ、ミのかし人過慮金貳兩急度可申付候、其外如何様之越度ニも可申付候事

一 畑方作付物かうすの類、并大豆小豆なるふらこんにやく、其外仕付物之品々少ニ而も、ぬすミ取候者有之候ハ、ぬすミ物之品々吟味之上、過慮金右同前ニ差出可申候事、若ミのかしニ仕脇々相知レ候ハ、當人は不及申ニ右同前たるへき事。

附惣而何れ之畑成共、手前所持之畑ニ而無之候は、堅入込申間敷候、畑主案内ニ而有之候は、不苦候。

一年々漆木のミの儀不及申ニ、ひろい木の實一切仕間敷候、若違背仕ひろい取儀有之候は、吟

味之上手前所持之木々もきどり候、杯申候而、一言之申譯立不申、過慮金三兩急度差出可申候事、全ミのかしニすへからさる事、

一博奕并賭之諸勝負、從御公儀被仰出候通、一切仕間鋪候事、

附他所參候牢人、或は隣村之者召集メ宿申間敷候事、若違背仕口論等出來候は、吟味之上急度可申付候、

一宵過ニ罷成老若ニかきらす、内々村々内或は門語申間敷候事、

一惣而不依何うせ物等有之候は、吟味之上當人之者いヶ様ニ茂可申付候事、

一晝夜ニかきらす内外ニ而も、夫婦口論等仕間敷候事、

附父母之御意、并わにおやかの御意違背申間敷候、

一宵過ニ罷成屋鋪廻リニ而も、ものもうの居合仕間敷候事、

附屋敷小作さるん等、少ニ而も相さわり申間敷候、

寛延元歲辰九月、

同二年己巳二月、奥田多兵衛、庭坂林八郎等、柏倉ヨリ米澤へノ通路ヲ修繕セントシ、畑谷村ノ意見ヲ徴ス。

〔畑谷村文書〕

差上申口上書、

一柏倉村ヨリ米澤江通候道筋、只今迄歩道有來候處、牛馬通兼候場所茂御座候、右道筋之田畑各

村地内ニ而道繕、牛馬通路能様仕、商荷物柏倉ヨリ米澤江差遣申度と、柏倉々願出候者御座候

ニ付、畑谷村地内道繕候茂、村方江相障リ筋無之や之旨御尋ニ御座候、右場所道繕と仰付候而

茂、當村江相障候筋は無御座候、以上、

寛延二巳年二月、

畑谷村組頭、

彌五兵衛

全 全、

源左衛門、

全 庄屋、

傳右衛門、

奥田多兵衛殿、
庭坂林八郎殿、

同年八月、幕府、堀田正亮屬領村山郡吉原村以下、二萬石二十五ヶ村ノ地ヲ停メ、代ルニ下野國內ノ地ヲ以シ、吉原村外九ヶ村八千石ヲ、宇都宮城主松平吉十郎ニ、上山家村外拾ヶ村一萬二千石ヲ、島原城主戸田因幡守ニ賜フ、明年二月之ヲ受授ス。

〔舊領石高調〕

一高貳萬石

吉原村御陣屋持、

村數

寛延二巳年八月野呂江替地被仰出、同三年二月四日御代官山本平八郎様江御引渡、

右御代地元宇都宮領野刃、鹽谷二郡之内櫻野御陣屋

内

八千石、

壹萬貳千石、

宇都宮松平吉十郎權領知
吉原村九ヶ村
島原戸田因幡守權領知成、
洲木村庫屋新田、
上山家村外拾四ヶ村

〔諸邑留書帳〕

寛延三年午二月四日、

一吉原領主堀田相摸守様御知行所替り、吉原領貳萬石内壹萬貳千石、肥前島原城主戸田能登守

様、此村々要害組大庄屋佐藤三郎右衛門、船町、沼木村、上反田、下反田、深澤、北作、江股組大庄屋(姓名欠)
陣場、新田、吉野宿、植木、大野目、山家、

一八千石野刃宇津宮城主松平吉十郎様、此村々谷柏、前明石、平清水、成澤、山神、高湯、

御役所沼木村、

戸田能登守様内

郡奉行、

白井 清太夫、

御役所吉原、

松平吉十郎様内、

山本作右衛門、

御上使、 山本平八郎様御内、

古川幸七、

同年某月、代官山本平八郎罷り、柴村藤右衛門代官職ニ任ズ、

同年十一月、東叡山覺王院信解院、立石寺山内龍光坊以下、金錢貸借以下ノ訴訟ヲ裁許シ、

請狀ヲ徴ス、

〔立石寺文書〕

申渡覺、

出羽國村山郡山寺立石寺、

妻帶、龍光坊、

訴訟人、

同 龍城坊、

承仕、無量、

彌宜、立寶院、

一衆徒極樂院儀、地藏堂村仁兵衛方々金貳兩貳步借り請、立寶院若松村幸七兩人爲證人加判仕候處、極樂院出奔以後右金子之儀立石寺本坊江訴出、彼是吟味之上金主方江は、本坊々不殘返濟證文取戻候上、半金宛加判兩人引請候様申渡候處、立寶院儀右借金證文加判仕候覺、曾而無御座候由申ニ付、本證文爲見候得は私印形ニ而無御座候故、半金引請之儀御免被成下候様相願候ニ付、本坊ニ而申渡候は、印形之墨濃候故印形違候様ニ見候得共、大サ古文字之様子相違

無之相見候、然ハ 御朱印地面致書入候證文加判仕間敷所、致加判置其上覺無之由ニ而謀判之様ニ申成シ、本坊之申付候儀を違背仕候ニ付、三里四方追放申付候由申渡之、立寶院儀は無違儀奉長候旨請仕候、然所妻帯并承仕神子大工之諸給人相集、本坊之御詮儀相殘、其上追放之儀不得其意候ニ付、右之者共立寶院追放之請不仕、當山江御吟味奉願候旨去春中訴出候得共、其節不取上願書差戻本坊江相願候様ニ申渡候、然所又々去年五月中四人之者共參府仕、妻帯以下之者共不殘連判之訴狀差出、御吟味奉願候ニ付委細被遂御吟味候處、立寶院加判仕候覺會而無御座、其上證文之印形明白ニ茂無之由申之ニ付、段々及糺明候處、會而存當リ無御座由申ニ付、借リ主極樂院致似判候哉、左候ハ、極樂院尋出候様申渡候處、立寶院申上候ハ、御尋被仰付候得共、何國ニ可罷在哉、難斗奉存候故、尋之儀甚迷惑仕候間、御免可被成下候、然上ハ、私名前印形有之候儀不運ト奉存候ニ付、半金壹兩壹步本坊江差上可申候間、何卒追放、御免被成下候様奉願候旨、書付を以願上候得共、金子ニ拘リ追放申付候筋ニ而茂無之候得ハ、半金差出候共追放赦免難成筋ニ相聞候、依之何レニ茂極樂院尋出召連不申候而ハ、印形之真偽難相分候ニ付、去年十二月極樂院尋之儀、四人之者共江被 仰付、當已二月十日迄ニ召連參上可仕旨申渡、當春二月中參府仕所々相尋候得共、行衛相知不申候旨申出候、依之猶又尋被 仰付、八月初迄之内極樂院召連參府仕候様申渡候處、八月中四人之者共參府、國々手分仕相尋候得共、極樂院行衛相知不申候旨書付を以申出候、何レニ茂極樂院不尋出候而ハ、立寶院加判之真偽難相知候間、此度此一件ハ御裁許不被 仰付候間、四人之者共出情仕極樂院尋出、來ル午年六月中旬比迄ニ急度極樂院召連參府可仕候、若此以後於不尋出ハ立寶院申披難立候間、急度

相尋可申候事

- 一 立石寺 御朱印高千四百貳拾石、諸配當如有來可沙汰與、御朱印之表ニ御書分被下置、何茂地方ニ而頂戴仕候旨訴出候、御朱印之表御書分與申儀紛敷相聞候、配當之儀、御朱印之表御書分者無之、諸堂役料學頭料衆徒料、其外諸配當如有來可沙汰與、御文言有之、具成御書分者無之候、古來ハ依役之多少配當高下有之、具成書分ハ如役田帳諸配當迄、從 公儀御書分被下候筋ニ而ハ無之候間、此段承知可仕事、
- 一 開山慈覺大師被御定置候通、諸堂社之出仕數多有之候旨訴出候ニ付、御吟味有之候處、御定與承傳候故、其段申上候御定書ハ會而無御座候旨四人之者共申候、不慥成儀を慥成様訴狀ニ相認候段不埒之至ニ候、古來ハ御定書無之候得ハ、慈覺大師御定與申儀者傳斗ニ而慥成儀無之候事、
- 一 慈眼大師御條目空坊可爲學頭之斗與有之、無住ニ罷成候得ハ學頭之目曲尺を以、早速住持被申付候古法ニ御座候處、近代ハ空坊數多罷成現住不足仕候由訴出候、右御條目空坊可爲學頭之斗與有之候ハ、住持之有無隨時宜可申付事故、可爲計與申御文言ニ而、早速住持申付候御文言ニ而ハ無之候處、猥成儀申上候段不届之至ニ候事、
- 一 妻帯空坊四ヶ坊之内、大門坊七年以前若松村正行院奉納金差出、右坊跡取立候様ニ學頭申付候一件ニ付、委細訴出候得共、此儀ハ六年已前及 公訴於評定所被 仰渡相濟候儀、猶又紛敷願出候段不届之至ニ候事、
- 一 妻帯乘蓮坊六年以前相果、實子松之助與申者有之候得共、跡式不被申付知行取上候ニ付、右跡

式松之助江被 仰付被下候様ニ奉願候旨、乘蓮坊儀病死ニ而茂無之不埒成跡式、殊ニ松之助幼少故學頭了簡を以段々及成長候由ニ候、右跡式不埒與ハ乍申 御朱印地面質地書入之筋ニ而茂無之候故、此已後松之助年齢相應ニ相成候ハ、學頭了簡茂有之被相伺候品茂可有之事、

一 承仕告昌跡式真覺院代申付候得共、歳米拾貳俵相渡候ニ付、古來之通知行地方被下置候様ニ奉願候旨先告昌儀 御朱印地面質地書入仕剩致出奔、重々不埒成跡式故一論及斷絶候得共、真覺院代了簡を以相伺、別段ニ取立候而歳米拾俵被下之候、其上當學頭近年貳俵増加畑相添相渡候由ニ候得ハ、其方共願之筋難相立候、告昌儀大役ニ而難相勤段申出候得共、出役之分ハ不殘本坊ハ差出候得ハ、告昌迷惑仕候儀ハ無之事ニ候、然共掃除場廣殊ニ 大師江勤役之者ニ候得ハ、追而學頭了簡を以被相伺候ハ、其節可有御沙汰候事

一 當學頭唯識院代年々大木伐取候趣訴出候、御吟味有之候處、住職以來伐取候諸木帳面相認、委細學頭ハ被差出候、或ハ修復入用、或ハ風折爲苗木植付伐取候儀顯然ニ候、慈眼大師御條目ニ猥ニ不可伐與有之候得ハ、右之通譯有之伐用候故、猥ニ伐取候ニ而ハ無之所、學頭不埒之様ニ訴出言語道斷不屈之至ニ候、又御條目ニ住山之人ハ、受學頭之内儀可辨所用與有之候得ハ、山上山下共ニ山林伐取候儀ハ、學頭江相窺可有吟味、學頭之職分故猥ニ伐取候儀可有之儀ニ而ハ無之候、向後雖爲修復入用表向目立候大木伐取候儀可爲無用事、

一 五年以前丑年參詣之道者江爲山役壹人ハ六錢宛取之、都合貳百貫文程相納候由訴出候、御吟味有之候處爲修復料爲致勸化山役與申ニ而ハ無之、都合九拾貫文有之候由、其節掛り性相院

差出候帳面有之儘成儀ニ而候處、貳百貫文程相納殊ニ山役與申候段、甚相違之儀申出、不埒千萬之至ニ候事、

一 同年中堂爲修復、開基以來之秘佛本尊致開帳、貳百貫文程相納候由訴出候、右秘佛之儀御吟味有之候處、古來ハ秘佛ニ申儀曾而無之、貞享四年英海代開帳有之、近年真珠院楞伽院代々茂開帳有之候之故、五年以前致開帳候、尤願之者有之節ハ、平日茂爲拜候由ニ候處、開基以來之秘佛與無證據之儀申出不屈之至ニ候、且又散物之儀開帳中參拾六貫文程有之、其節掛り性相院金乘院相納候帳面有之、明白之儀ニ候處、貳百貫文程有之由夥敷相違之儀訴出、重々不屈之至ニ候事、

一 御坂切石ニ申付候ニ付、諸方ハ奉加金取集切石茂出來不申候旨訴出候、御吟味有之候處、先澤之院先金乘院掛りニ而、切石壹坪代金貳百疋宛施主有之、其場所江定杭建候而切石申付候、本坊ハ何方江茂奉加差出候儀、曾而無之旨役僧申之ニ付、學頭江茂相尋候處、右之通相違無之候、然處奉加之儀道者宿ニ而相勤候帳面、本坊江相納候由ニ而、其帶以下之者共方ハ本坊役人請取書有之候、印形之帳面差出候ニ付、猶又御吟味有之候處、山上衆徒并相方、他方擅中勸化物帳面相認學頭ハ被差出、且又道者宿川原町仙右衛門與申者頭取世話仕定抗建、去ル寅年唯識院在府中切石出來候、披露有之候通相違無之旨、書付を以學頭ハ被申越候、右本坊役人請取印形之帳面之儀ハ、學頭始役僧共ニ會而不存儀ニ候、定而其節役人坂田半左衛門一分ニ而申付取付集候哉、半左衛門儀先年從 公儀御追放被 仰付候得ハ、右奉加帳之儀存候者無之、左候得ハ學頭始役僧不存儀殊ニ掛り先澤之院先金乘院不存儀ニ候得ハ、半左右衛門私欲與相開

候右奉加從本坊不申付旨明白ニ候處、學頭之私欲ケ間敷申出候段、重々不届之至ニ候事、
 一 毎月 慈覺講慈惠講山王講彌陀講、右講日古來ハ講筵有之候處相止、壹人ハ五百文宛學頭江
 取納候、且又右法事之節者先代迄學頭導師相勤候處、當學頭導師一切不相勤候由訴出候、御吟
 味有之候處、饗應相止講筵料差出候儀ハ、貞享年中以來學頭始山上下不殘料物差出候、右講筵
 相止料物差出候儀ハ、元文四年中行事御改之節御書載有之候得ハ、有來通向後共ニ料物可差
 出候、且又當學頭導師一切不相勤與申儀御吟味有之候處、古來ハ定候通病氣差合、參府之外ハ
 急度導師相勤候由ニ候處、偽之儀申上不届至極ニ候、彌陀講之導師ハ先々ハ金乘院鷲峰院寺
 役ニ而相勤、妻帶之導師學頭相勤候儀無之候故、向後彌有來之通、金乘院鷲峰院寺役ニ而導師
 相勤可申事、

一 四月中ノ申山王御祭禮古來ハ作法有之上頭下頭之闌取候而相勤候處、眞珠院代相止田樂斗
 相勤候處、當學頭代七年以前ハ田樂茂相止候ニ付、古來之通上頭下頭田樂相勤候様ニ奉願候
 旨訴出候、御吟味有之候處、上頭下頭ハ古來ハ山上下ニ而相勤候處、坊別ニ相勤候而ハ祭禮料
 米三拾貳俵金貳兩錢五百文有之候得共、其分ニ而ハ相濟不申物入多難儀之由ニ而、正徳六年
 眞珠院代山上下ヨリ願ニ付、夫已來ハ於本坊上頭下頭之祭相勤遣來候處、此度相止候段訴出
 不届之至ニ候、先年依願右之通相定年々本坊ニ而其作法有候得ハ、相止候ニ而ハ無之候、向後
 共ニ有來通本坊ニ而取計可有之候、且又田樂之儀七年以前ハ相止候段訴出候得共、是又衆徒
 ハ願出相止候節、妻帶共茂及承衆徒同然追而願出候ニ付、學頭吟味之上法樂ニ仕替、衆徒妻帶
 共ニ田樂相止承仕之役儀ニ申付、其以後ハ承仕壹人ニ而田樂相勤候、左候ハ七年以前願之通

相止候儀を、學頭ハ相止候様ニ申出候段、甚不埒之至ニ候、勿論承仕相勤候得ハ相止候與申儀
 ニ而茂無之、衆徒分限不相應之祭故願之通申渡、妻帶共茂右ニ准シ相願候之故、右之通成來候
 處、學頭非儀之申付候様ニ訴上候趣不届ニ候、依之上頭下頭田樂共ニ有來通ニ而相濟候故、此
 度願之通ニハ不被 仰付候、向後共ニ只今迄之通相勤可申事、

一 享保十九年被下置候御下知狀之表、衆徒無主坊或ハ兼帶、又は學頭支配之寺院茂有之候間、借
 金相濟候ハ、早速住持申付、有來通地面相渡候様ニ被 仰付候得共、于今住持不被申付候旨
 訴出候、御吟味有之候所、元文四年山麓一同奉願候節御下知狀被下置、右空坊料を以急務之修
 復、并不埒致置候田畑取戻修復相濟候ハ、空坊之内寺有之分ハ修復相加、住持可被申付候與
 有之御下知狀之通、眞覺院代弟子久成房儀金乘院看坊申付寺役爲相勤、當學頭入院以後修復
 現住申付候、觀明院儀ハ至極零落故當學頭新規造替、弟子大進看坊申付先寶幢院後見申渡置
 候處、去ル寅年寶幢院出奔ニ付、大進若年故致無住置候得共、看坊ニ而罷在候、右二ヶ寺修復建
 立成就ニ而住持有之候處、住持不被申付候旨申出候ニ付、御吟味有之候得ハ、妻帶以下四人之
 者共申候ハ、住持看坊共ニ何比被申付候哉、申渡無御座候故曾不奉存候由申之、依之役僧共江
 相尋候處、前々ハ妻帶以下江ハ其段不申渡候、先格故申渡ハ無御座候得共、不存儀ハ無之筈ニ
 候由申之、向後ハ先格無之候共、山麓共ニ、住職ハ勿論看坊共ニ向々江可申渡候、且又享保十九
 年雖御下知狀有之候、元文四年御下知狀之節、右空坊料修復料ニ被仰付、殊ニ寺有之分者致修
 復住持申付候得ハ、學頭兩度之御下知狀相違之儀、少茂無之處、偽を以紛敷申上不届之至候事、
 一 享保十九寅年楞伽院御代、衆徒妻帶一同奉願候節、御下知狀被成下候譯ハ、無主空坊之分者、其

年之物成米を以山上下ニ而立會勘定仕立石寺御藏江預ケ置段々借金相濟候は、本坊學頭江相願寺院坊跡相立候様ニ與之御下知狀ニ御座候旨訴出候趣、御吟味有之候處享保十九年被下置候御下知之表、右躰之御文言會而無之候處、右之趣訴狀ニ三ヶ所迄相認候段、其罪科不輕儀ニ候、此度四人之者共江右御下知狀之留書爲讀聞、委細御吟味有之候處、御下知茂無之儀を、御下知與申上候儀之、私共承傳候計ニ而相認之忽成儀申上、何れ茂奉誤候旨一札差上之候、此度は御憐愍を以其分ニ被差置候以後、ケ様成不届之儀無之様ニ、急度相愼可申候事、
 一 妻帯拾壹ヶ坊之内、四ヶ坊空坊ニ被致、妻帯料之物成學頭江被取納、住持不被申付候由訴出候、此儀は享保十九年元文四年御下知狀被成下、念佛堂入學頭入修理料ニ被 仰付置候、立石寺一山被下之者共不存儀は無之筈之處、此度猶又願上候段、重々不届至極ニ候事
 一 承仕預り宮之初穂之儀、古來之通承仕仲ケ間江、被下置候様ニ奉願候旨訴出候、御吟味有之候處諸堂社散物之儀は、貞享年中爲修復料本坊江納來候、然所楞伽院代爲修復學頭江取納候段、申出候儀甚心得違之儀ニ候、右之通故諸堂社散物只今迄之通、本坊江相納候様ニ被仰付候事、

右拾七ヶ條妻帯以下之者共訴上候處、山上衆徒之分は、一列不仕候旨書付を以學頭迄申出候段、神妙之至ニ候、今般訴上候趣ニ付、役僧并學頭名代被 召出、數回被逐御吟味學頭江茂御尋有之候處、從古來之役田帳年中行事、并元文四年御改被下候年中行事之表を以委細答上、其外書付ニ而申上候趣顯然明白ニ候、學頭之申分享保十九年、元文四年御下知狀之表、少茂相違之儀無之候、此度妻帯以下願上候訴狀之趣、大概其品享保十九年元文四年願出候同様之儀、其節

御下知相濟候儀を猶又奉願候段、言語道斷誑惑邪曲之至、其上學頭私欲之様ニ申成し候段、誠ニ奉輕當山之御下知、且受支配候學頭を致茂如其罪科重々ニ候、依之今般急度可被 仰付候得共、畢竟御下知狀之趣精細敬承不仕候而願上候儀故、御憐愍を以參府仕候、妻帯承仕三人之者共逼塞被 仰付候間、歸國仕急度相愼可罷在候、尤 慈眼大師御條目ニ茂、山之僧俗企公事不可致一列、與有之候處、每度一列訴狀差上不届至極ニ候、向後右之ヶ條別而末四ヶ條之儀於願上は、急度可被處罪科者也、

寶延二己巳年十一月、 覺 王 院。

信 解 院。

右被 仰渡候趣何を茂敬承仕奉畏候、依之印形仕差上之候以上。
 出羽國村山郡山寺立石寺、 妻帯、

龍 光 坊。

同、

龍 城 坊。

承 仕、

無 量。

彌 宜、

立 寶 院。

右妻帯以下之者共江被 仰渡候趣、拙僧并役僧一同承知仕奉畏候、依之奥印仕差上申候、以上、
出羽國村山郡山寺立石寺學頭、

唯 識 院、

立石寺役者、

圓 乘 院、

同三年庚午二月、村山郡深堀、大寺、高楯三ヶ村地頭高力若狹守卒ス、男大學襲ク、

〔諸邑留書帳〕

寛延三年午二月八日ニ、

一 高力若狹守様御逝去被爲遊候、

同五月六日出之御狀申來候、

一 高力大學様御家督、

御書奉拜見候、上々様方倍御機嫌能被爲遊御座、恐悅至極ニ奉存候、乍恐

殿様御家督被爲蒙 仰幾久敷目出度御儀奉存候、則三ヶ村總百姓江申聞候所、重疊恐悅至極

ニ奉存候、右御祝儀ニ三名々主之内壹人爲總名代罷登候様被 仰付委細奉畏候、恐惶謹言、

名主、

午五月廿一日、

源 藏、

全、

久右衛門、

全、

助十郎、

後藤三郎右衛門様、

同年五月、盜アリ、村山郡立石寺學頭唯識院大僧都宣雄、及ヒ衆徒中性院ヲ斬殺シ、衆徒極
樂院寺吏岸村織江等ヲ傷ク、宣雄ノ立石寺ニ住スルヤ、諸事非法多ク山徒服從セス、數々
之ヲ東叡山ニ訴フ、敢テ聽容セラレス、是ニ至リコノ難ニ罹ル、

〔山寺一揆記〕

立石寺學頭唯識院ハ、元來日光山ノ坊中ニ住職して、曾テ金銀の貯もなかりしが、生得慾心ふ
かく、立石寺ハ御朱印高も多く、其上諸人渴仰して富貴ある靈場あれば、住職いたしたき願望
なり、然共立石寺本坊學頭ハ、院家よテ三位ニ昇進の事なれば、堂上方のゆかりニあらされハ
叶かたく、何とぞ金銀を以取こしらへたき心かけあるに、金四五百兩も用意あくては成就し
かたく、色々工面して心安いたしたる日光山の坊中、またハ東叡山の法類などへ無心して、よ
ふ／＼金子調、達立石寺へ端なく入院して、學頭唯識院大僧都宣雄と稱し、されども心に
まりせりたきハ金銀よテ、殊に思ひの外本坊への收納物すくなく、其上何角入用多く、やとな
く金主より催促しけくなれども、中々返濟いたすへき手段見へざるゆへ、此上ハ面々の配當
所務のうちを押領して、段々と本坊へ引上、借金をすますより、外の方便なしと心付、邪欲をか
まへ外の手のかゝりあれハ、事をたくみ難題をいひりけ配當の高を減し、又は一山諸堂社の掛

物古へより山内の者共、それ〱助成し仕來りし所をも、彼是と申かけ本坊へ押取いたし、或は少々不調法がましき筋もあれば、非道の取計ひを以事を重くいたし、咎きびしく其品により一山を追放し、其外家督などもなるたけ無躰に取潰し、終に理非正しきもの〱本坊への出仕を差押へ、心のまゝに非法を働さけるゆへ、一兩年のうちに甚難義におよひ、路道にまよひぬへき躰の者ありて、既〱一山のもの悉く退轉も及へきやと、歎き悲む事ともかきりなし。學頭唯識院入院以來、物毎不法の取計ひの〱にて、一山のもの次第に難義におよび、止事を得て一同〱相談して、本山の御事なれば一山より惣代を以て、東叡山へ學頭の非道を訴ひ出るといへども、邪智ぬりき學頭なれば、巧を以て却て一山のもの、不届〱申立いたすよふに、兼て心安き法縁の方へ内通いたし置けるゆへ、登りあけなく一山の存念届兼けるおそ是非もなし、去りれども月々に相續成りたきほどに、行詰りしをもふければ、苦しきのあまりに公儀へ訴けるり、是以て兼々學頭油断なく思慮をめぐらし、内々にて手を回し取繕ければ、差越たる筋になり御沙汰も及れず、いたしかたなく〱と國歸せり、しかるに公訴の事者山伏正行院立寶院頭取なればとて、此にくし〱にて學頭より、正行院をは本坊への出仕を止め、立寶院は一山を追放しける。

儲寛延三年庚午五月廿五日夜半過、立石寺本坊へ何ものともしれず、面を黒又ハ丹などにて堅鉢巻、たすきりけに身こしらへして、明松を持、鎗斧或ハ刀脇差の抜身を提げ、上段の椽の戸障子蹴放し踏折押入ける。學頭者上段蚊帳のうちに有けるり、四方より蚊帳を切落しければ、學頭外〱出んとする所を一同に立かゝり、おこしもたてず切付ける。衆徒中性院ハ日比學頭の

側をはなれず、次の間に衆徒極樂院も一所〱臥居たりしが、兩僧ともに未年若くよく眠り居たるが、中性院物音におどろき、風と起あがりけるに、上段けしからざるよふすなれば、其所〱有合ふしゆるほうきを提げ、上段の間へ馳入けるを、左右より切付學頭も切臥られければ、何とぞ取置たく〱思ひども、大勢に切付られ深手を負いたしかたなく、學頭の上へ覆に成て切殺されける。極樂院ハ中性院從跡〱立出けるが、肩先へ切付られ途方を失ひ逃去ける。臺所役人壹人おどろき起出る處を、切先にて鼻の上より、口の下まで切下ケられ、されども薄手ゆへ逃去(略中)爰に諸事を取計ふ役人岸村織江廿七歳、御朱印守護なりら、平日其近まの一箇に臥、其夜無所化正三位兒鶴千代一所に臥居たりしに、明松振立て枕元を貳人通けるゆへ、織江跡をしたひ上段間近き所にて追付、何者なりと聲をかけしに、壹人振りかへりさまにおのれのかさしと、右の方月代より額へかけて切付る。織江深手なれば氣を取のほせ眼くらみしが、脇差抜合けるに全壹人も切てりゝる。織江無證に切結び、二人もしどろになり、上段のまにて追立らる。此所〱ハ一同に押入たる者共居合、織江を切臥んと我も〱と切てかゝる。織江ハ深手を屈せず(略中)死身に戦ひければ、織江壹人に切立られ、明松も投ちらしくらかりになりて、手負同士討もあり、其中にハ深手負たるもの有て、事危しと思ひけん、手負のものを引立て一同に引退ける。

同年七月、幕府漆山代官平岡彦兵衛ニ命シ、立石寺殺害ノ事ヲ糺彈セシム、彦兵衛即チ手代青島善藏ヲ遣ハシ、之ヲ裁決セシム、善藏漆山ニ到リ、衆徒無量坊常樂坊ヲ捕縛シ其實

ヲ得タリ、首謀正行院龍常坊龍法院龍光坊等、往日奔竄遂ニ獲ル能ハス。

六八

〔山寺一揆記〕

立石寺最寄の御代官へ仰付られ、差心得ある手代ニ吟味いたさせ、若又吟味仕寄兼るとき、差圖の勘辨も有へしと評義決着のうへ、山寺村ハ立石山領分郷ニテ、平岡彦兵衛御代官所なりゆへに御勘定奉行一色安藝守掛りにて、七月三日彦兵衛へ其旨申わたしける。

〔漆山御代官記〕

一寛延三年五月廿五日夜、山寺村立石寺騷動夜打、學頭様并小僧壹人殺害極榮院手負、并代官織衣手負、江戸表へ御注進ニ成る。依て同七月十五日御吟味役として、青島善藏殿御下着也。

〔立石寺騷動記〕

然に無量の詰牢へ押入れ、氣も治りけるにや忙然として居たりし(中略)今の何をかつゝみ申さん、學頭の積悪に一山の遺恨りさなり、鬱憤を晴さんと當三年以來、申合いたせしもの多しといへども、恨の輕重も有て、一通りの申合いたせしのみよて、其外者共ハ學頭を殺害いたすへきほどの存寄までにはあらざるに、正行院立實院無量告昌立城坊常樂此七人者、壹命を捨てもうらみ止事を得ず、其上一山追放に成し立實院へ御尋の筋あれば五月限尋出すへし、若尋出さるにおわてハ學頭を相手取、たび々出訴いたしたる一山總代の者、重き御咎及はるへきよし、東叡山よりの御下知通れりたく、されども小勢にてハ本望遂かたりらんと、寄々一味を催せしが、一命にかゝる大事なれば、容易に得心するものなく、空しく月日を過す

うち、五月も末に成けれぬもはや手延ニ成かたぐ、宇右衛門小兵衛も學頭に恨あれば、無理に加勢いたさせて、非人頭の伴も壹人たのミ入れ、五月廿五日夜立光坊宅にて支度いたし、拾人一同夜半過本坊へ忍入、無二無三に學頭をば、無量初太刀を切付て、それより一同渡り合切て回りける、然に岸村織江に防かれ、何とそ渠を切留んと、何れも追々切てかゝるに、明松も打消互に手を負利同志討いたし、頭取の正行院深手負申合の手配混亂となり、其上正行院置ては後難遁るへきよふなければ、一同に介抱して漸々本坊を引退き人目にりゝるへきほど手を負たる者は、其場より別れ別れに立退て、其後對面せざるよし、委細白狀に及ける。

同年八月、代官柴村藤右衛門罷メ、蔭山外記代官職ニ任ス、因テ外記并ニ漆山代官平岡彦兵衛ニ命シ、漆山尾花澤兩代官所附ノ諸村ヲ支配セシム。

〔西村山郡史〕

一高四萬五千九百七十九石七斗四升九勺、羽州村山郡ノ内。

高貳萬貳千貳百四十三石七斗七合九勺、漆山附。

七浦村、貫津村、奈良澤村、柴橋村、谷澤村、中郷村、古川村、沼山村、青柳村、澤口村、貫見村、北目村、黒森村、小柳村、小清村、片生村、大暮山村、北山村、大谷村、小見村、志津村、根子村、大井澤村、柳澤村、月山澤村、砂子關村、小泉村、高野村、島村、澁江村、灰塚村、金澤村、小鹽村、平鹽村、仁田村、高屋村、寺津村、藤内新田。

高貳万貳千八百五石四斗三升三合、尾花澤村附。
 工藤小路村、前小路村、松橋村、楯北村、楯南村、楯西村、入間村、足助新田、本道寺
 村、本尾寺村、水澤村、八兵衛新田、岩根澤村、網取村、間澤村、海味村、柳澤村、石
 田村、熊野村、宮内村、幸生村、白岩村、田代村、留場村、
 右者此度各當分御預所ニ成候間、柴村藤右衛門江相達從當午年物成郷村請取之、御仕置可被
 申付候、存寄之儀於有之者、重而可被而伺候以上。
 午八月、連名十六人。

蔭山外記殿。

平岡彦兵衛殿。

寶曆元年辛未三月、漆山代官所傍近ニ托シ、山寺村龍成坊ヲ捕獲セシム、後又若松坊ヲ捕
 獲センコトヲ求ム。

〔高楯村名主久右衛門留書〕

一午ノ五月廿五日晚、山寺ニ而院家弟子共ニ切殺され候ニ付、御公儀様ハ漆山御役所江、役人衆
 御下り被成候而、七月十日比ハ御尋被仰付候、但衆徒并ニ天童若松別當御尋ニ罷成候。

一山寺村龍成坊御尋ニ御座候處、左様成者當村江參り不申候、爲念如此ニ御座候、以上。
 高楯村名主、

寶延四年未三月十七日、

久右衛門、

平鹽村、

平綠寺、

御遺衆中、

一山寺龍成坊御尋ニ御座候處、左様成者當村江壹度も參り不申候、爲念如此ニ御座候、以上。

高楯村名主、

寬延四年未三月十七日、

久右衛門、

平鹽村、

又七殿、

一天童村若松坊御尋ニ御座候處、當村吟味仕候へ共、左様成者居不申候、以上。

高楯村名主、

七月晦日、

久右衛門、

東根六日町、

伊藤六右衛門殿、

同年七月、代官蔭山外記轉任、天野市十郎代官職ニ任ズ、

同年同月、船町村百姓等、村費割宛ノ項目ヲ定ム、

〔阿部文書〕

差上申一札之事、

船町村之儀前々小役米并諸出錢諸人足等面割ニ而、尤其内欠代割斗高割ニ而御座候所、小高百姓迷惑之由願出申候所、大高百姓前々ノ古法、相破申儀成兼候段申出、依之内々ニ而相濟不申、要害村大庄屋祐右衛門殿御吟味之上、左之通被仰付双方得心之上、相濟申候所相違無御座候。

- 一 郷御役人方御賄入用、高割
 - 一 大庄屋元々之諸入用、同斷
 - 一 欠代割之儀、同斷
 - 一 郷御藏普請入用、同斷
 - 一 小役米之儀前々古法之通、面割
 - 一 御年貢米運送并諸人足前々古法之通、面割
 - 一 御高札場并番所入用右同斷
 - 一 不意之出入雜用之儀前々割合之通
- 右ヶ條之趣相守可申候、若此末縱何様之儀出來致候共、子々孫々ニ至迄、少茂違亂申間敷候、爲後日連判仍如件。

寛延四辛未年七月、

船町村百姓連印

庄屋、吉右衛門殿、組頭、

七右衛門殿

同、

清右衛門殿

同、

仁左工門殿

同年十一月、眞覺院鑑古、唯識院宣雄ノ後ヲ繼キ、山寺村立石寺住持職ニ補セララル。

〔立石寺先住〕

唯識院宣雄、大僧都、

寛保二戊戌日光南照院移轉、寛延三午年五月廿六日寂、四十九歳(凶徒ニ害セララル)

眞覺院鑑古、

寶曆元未年十一月廿四日住持被仰付、翌申年三月入寺、從江戸法華寺轉住、同十一月己年二月廿日於上野勸善院寂、年七十一歳、

同年十二月、代官天野市十郎轉任、辻六郎左衛門代官職ニ任ス。

同二年壬申三月、是ヨリ前、上國貨物ノ米澤山形ニ輸入スルモノ、皆ナ漕運ヲ酒田港ヨリ最上川ニ仰ク、問屋元川船方ト窃ニ相謀リ、貨物ヲ過載シ船脚ヲ減少シ、以テ奇利ヲ得ス、是ニ於テ破船頻繁損亡甚タ夥シ、荷主總代阿部孫市等酒田ニ抵リ、問屋元小田屋次右衛門等ニ迫リ之ヲ調査セシム、是ニ至リ口上書ヲ出シ之ヲ陳謝ス。

〔船町村阿部文書〕

口上書

一御荷物爲御登方之儀ニ付、問屋元川船方両様及近年ニ甚不取締ニ相成、御荷主中御迷惑相嵩、既ニ御業休ニも被爲抱候趣を以、今般各様御荷主御總代ニ御下向、諸向取締御調方御指圖ニ隨ヒ、追々調書を御應答申上候廉々、以來は仲間一同堅敷申合、聊不心得之儀無之様取計可仕候、然る處去午未兩年ニ三拾艘余之破船莫太之流失、右船々積荷取調書差出候様被仰聞候得共、右兩年之破船取調仕候得は、積合問屋之内心得違之者可有之、右御取調ニ罷成候而は、問屋株式ニも相抱り、業体難相立儀も出來可申哉、歎敷奉存候、右兩年破船之儀は御勘辨を以、取調之儀幾重ニも御用捨被成下度奉願上候、尤右之内去未九月、利右衛門七郎平船破船之儀者、格別之儀ニ付御指圖次第取扱可仕候間、何卒兩年破船之儀、前申上候通御聞濟被成下度奉願候、以上。

最上方問屋總代、

申三月、

- 酒屋 長八、印
- 本間屋長三郎、全
- 中川屋吉郎兵衛、全
- 根上 善兵衛、全
- 尾關 又平、全
- 燈屋久右衛門、全
- 大沼 平八、全

年番

- 五十嵐七郎右工門、全
- 小田屋次郎右衛門、全

米澤景上御荷主御總代、

- 阿部 孫市様
- 阿部三右衛門様
- 阿部 孫七様

山形御荷主御總代、

- 淺野喜四郎様
- 高島藤左衛門様(山形殿治町)

同年六月、漆山代官平岡彦兵衛ニ命シ、立石寺衆徒無量坊、常樂坊、光昌坊以下ヲ同所ニ誅戮セシム。

〔漆山代官記〕

無量坊成ニ常樂坊、打大工宇右衛門打首、小平遠嶋光昌坊、牢死仕候右之者共、同申ノ六月十三日ニ、山寺地藏堂入口ニテ御成敗ニ罷成候、但漆山牢ニ三ヶ年入牢仕候、右欠落の者共不相知の處ニ、天明年中ニ若松正行院は、忍ヒに當國へ下着、關山村ニ隠れ居死去仕候、其外は行方不知なり。

〔諸邑留書〕

一山寺坊御仕置申六月十三日、
はりつけ、無量坊、
こんもん、常樂坊、

打くび、
こせう坊、
大工

打くび、
宇右衛門、
はくち打

遣流、
小兵衛、
ゆうせう坊、
追放、

〔山寺一揆記〕

扱立石寺騒動及ける狼藉もの、同類白状吟味決着し、其砌より逐電せし者共は、遠國へ逃忍びけるよや行衛しれず、されば平岡彦兵衛より、同年中冬中吟味之趣申上、御仕置を伺けるに格例もなきよしにて、奉行所におゐてもどろく評議決兼けるにや、吟味筋の尋もなく、寛延四年に成けれども、春夏も過秋冬ニ至りても御沙汰なく、明れは同五年(實暦)申の夏御下知有けるは、山寺村地内空地の場所におゐて、無量は磔、常樂并鹽詰にいたし置たる告昌は獄門、宇右衛門斬罪、小兵衛は伊豆の大島へ流罪、其外一件吟味掛り合のものども、追放所拂押込過料、或は役儀取放御叱、又は御掛なき者迄も、此一件御裁許につき、凡御仕置一遺残りなく吟味之筋

ニ準じ、それ〴〵仰付られ落着相濟、夢のさめたる心地にて、一山塔の思をなし、太平の御代なれば、ほ、となくもこの繁榮に立歸り、末世の今に至まで、慈覺大師の御威徳あらたなりける靈場と、有かたたくこそ感しけれ。

同三年癸酉正月、村山郡陣場古切支丹徒兵助死去ス、同郡中野村浄土眞宗浄蓮寺之ヲ葬ル、陣場村ハ肥前國島原領戸田因幡守ノ屬邑ナリ。

〔江股文書〕

指上申一札之事、

一出羽國村山郡之内、嶋原領陣場村百姓古切支丹久内三女本人、同前めこ男作兵衛悻、浄土眞宗拙僧旦那ニ而、右同國同郡江股村ニ居住候處、寶曆三癸酉年正月十日、六拾六歳ニ而病死仕候ニ付、爲御檢使増野丹藏殿、大井佐市兵衛殿被遣、死骸御吟味之上、病死ニ紛依無御座候、右之死骸請取引導仕、則寺内、江土葬ニ取置申候處、實正ニ御座候、若以後相違之儀も御座候は、拙僧如何様之曲事ニも可被仰付候、爲後日仍而如件、

寶曆三癸酉年正月十日、

村山郡上ノ山領中野村、

浄土眞宗、

浄蓮寺判

林 友左衛門殿、
小林由右衛門殿、

〔舊領石高調〕

一壹萬貳千石、

島原戸田四幡守様成り沼
木村陣屋新築
上山家村外拾四ヶ村

按上山家村外拾四ヶ村、戸田家所領ニ屬シタルハ、
寛延二年巳八月以降ナリ、

同年二月、幕府米澤城主上杉重定ノ所管、山野邊杉下達磨寺長崎寒河江ノ九ヶ村ヲ、長瀬
代官千種清右衛門ニ附シ、重定ヲシテ更ニ越後國岩船郡内ノ地ヲ管領セシム。

〔上杉家記〕

二月三日、出羽國村山郡ノ預所ヲ罷メ、更ニ越後國岩船郡ノ内ヲ預ケラル。
越後國岩船郡之内郷高帳之覺、

一高九千九十六石九斗五合、

竹垣治部右衛門御預所より可請取分、

一高五千貳拾七石八斗五升五合、

牧野駿河守御預所より可請取分、

高合壹萬四千百貳拾四石七斗六升、

右者此度割替ニ付、御預所ニ成候間、右兩人江相達、從當酉年物成郷村請取之御仕置可被申付
候、存寄之儀於有之は、重而可被相伺候、以上、

實曆三百年二月、

〔諸邑留書〕

一酉ノ三月今年方

米澤上杉大炊頭様御預所、山野邊杉下、達磨、長崎、寒河江九ヶ村、長瀬御代官千種清右衛門様御
支配ニ罷成候。

同年同月、立石寺門前町ヲ檢地ス。

〔立石寺文書〕

御門前町棹帳、 當學眞覺院鑑古代、

檢地御棹、

不動尊瀧尻

一俵間四拾貳間、

一表間四拾五間、

西奥行四間三尺、

東奥行六間三尺、

裏百四拾四間三尺、

此坪八拾壹坪壹合貳勺五才、

此人足八人、

定右衛門、

空地

一表間口三間壹尺、

奥行町並有、

裏は、三間壹尺、

右者定右衛門庄三郎間ニ大石有之、依之除地致置。

一表間口五間四尺、

西奥行七間、

東奥行七間壹尺、

裏間口五間四尺、

此坪四拾坪壹合三才、

此人足四人、

庄三郎

久右衛門

一表間口六間五尺、

一西奥行七間壹尺、

東奥行七間壹尺、

裏間口六間五尺、

此坪四十八坪九合、

此人足五人、

空地

一表間口壹間、

奥行町並有、

表間口壹間、

右者久右衛門五右衛門間ニ不動尊みよらし行者道有之、仍而除地いよし置候。

五右衛門

一表間口六間、

西奥行七間壹尺、

東奥行八間、

裏間口六間、

此坪四拾五坪五合、

此人足四人、

空地

一表間口壹間、

奥行町並有、

裏は、壹間、

右者五右衛門藤兵衛間用水道ニ致置。

一表間口六間四尺

西奥行八間四尺

東奥行七間壹尺

裏間口六間四尺

此坪五拾貳坪七合七勺七才

內貳間四方用水有之仍而除

引而

四拾八坪七合七勺七才

此人足五人

一表間口四拾貳間

西奥行九間三尺

東奥行拾壹間四尺

裏間口拾壹間

此坪百貳拾壹坪七合壹勺

此人足拾貳人

一表間口拾三間

惣右衛門

惣兵衛

西奥行拾壹間四尺

東奥行拾貳間

裏間口拾六間

此坪百七拾壹坪五合八勺

此人足拾七人

一表間口四間五尺

西奥行拾貳間

東奥行拾貳間五尺

裏間口五間

此坪六拾壹坪四勺

此人足六人

市郎兵衛

一表間口貳間五尺四寸

西奥行拾貳間

東奥行拾貳間三尺

裏間口四間五尺

主膳

此坪四拾七坪六勺、
右主膳儀無役被仰付候。

一表間口六間、

西奥行拾貳間三尺、

東奥行拾壹間貳尺、

裏間口六間、

此坪七拾壹坪五合、

此人足七人、

喜内。

一表間口六間、

西奥行拾壹間貳尺、

東奥行拾貳間、

裏間口五間五尺、

此坪六拾九坪貳勺、

此人足七人、

重右衛門。

一表間口拾間五尺、
西奥行拾貳間、

孫助。

東奥行拾間、

裏間口九間三尺、

此坪百拾壹坪八合三勺、

此人足拾壹人、

次郎兵衛。

一表間口八間、

西奥行八間、

東奥行五間、

裏間口八間、

此坪五拾貳坪也、

外七坪表方有、

貳口、五拾九坪也、此人足六人、

此表ニ石垣場所尤有來候、石垣共ニ壹間三尺西方也、東折廻し貳間は、有來石垣共ニ除地致置候。

一表間口六間三尺、
東奥行三間、

藤兵衛。

西奥行四間、

裏間口六間三尺、此人足貳人、

此坪貳拾貳坪七合五勺、

但し傳八上屋敷地也、

右屋敷酉七月拜領被 仰付候也、

一表間口貳間三尺、

東奥行八間、

西奥行八間、

裏間口貳間三尺、

此坪貳拾坪也、

此人足貳人、

榮七、

與市、

一表間口八間、

東奥行八間、

西奥行九間、

裏間口八間、

此坪六拾八坪也、

此人足七人、

坪數千四拾坪八合六勺貳才、

人足百壹人半、

外 貳人 藤兵衛出ス、

所部伊右衛門拜領地居屋敷、

新七、

一表間口拾間、

西奥行九間、

東奥行八間、

裏間口拾間、

此坪八拾五坪、

此人足八人半、

清助、

一表間口五間壹尺、

奥行八間、

裏間口五間壹尺、

此坪四拾壹坪三合、

此人足四人、

權三郎、

一表間口八間三尺、

奥行八間、

裏間口八間三尺、

此坪六拾八坪也、

此人足七人、

一表間口六間、

奧行八間、

裏間口六間、

此坪四拾八坪也、

此人足五人、

一表間口六間三尺、

東奧行八間、

西奧行六間、

表間口裏同斷、

此坪四拾五坪五合、

此人足四人半、

一表間口八拾七坪八合、

此人足廿九人、

右者所部伊右衛門可差上人足也

權四郎

孫惣

都合百三拾人半、

右居屋鋪屋今般拜領被爲 抑爲付難有奉存候、尤私共應坪數人足可相勤候様被爲 仰付奉
畏候、毎月不限多少被爲仰付次第、未明の相勤可申候、御扶持之儀茂於
御本坊様被下置段難有奉存候、然上者御用之人足いり様被爲仰付候共、無違背急度相勤可申
候、并町並御觸事急度可奉承知候、右人足相勤不申候者有之候は、何時ニ而茂御地面可被召上
候、其節一言之儀不申上、早速引退可申候、爲後證仍而如件、

實曆三癸酉年二月、

定右衛門

庄三郎

久右衛門

五右衛門

藤兵衛

傳兵衛

惣右衛門

市郎兵衛

喜内

重右衛門

孫助

次郎兵衛

榮 七
與 市
伊右衛門
傳八屋敷分
藤兵衛

御本坊
御役所

同年三月、山形城主松平乘佑城市七日町失火シ、元三日町檜物町桶町ニ延燒ス。

〔採訪史料〕

寶曆三年酉三月廿七日七半時分、

一山形七日町大火、元三日町、檜物町、
桶町、大元、平田彌太郎。

同年四月、代官辻六郎左衛門轉任、風祭甚三郎代官職ニ任ス。

同年五月、東海林某常燈明ヲ若松觀音堂ニ寄進ス、立石寺靈泉爲ニ表白文ヲ起草ス。

〔若松寺文書〕

若松寺觀世音常燈明新挑表白、

一切恭敬、自歸依佛、當願衆生、自皈依法、當願衆生、自皈依僧、當願衆生、如
來妙、世間如來色、一切法常住、是故我歸依、

抑常燈新挑之場獻備供養之砌、爲嬰受法味隨喜勝會來臨、勸請神祇百靈、殊扶桑國宗廟、天照皇
太神宮八幡春日神靈、別當山權現峰麓林野一切幽儀、爲各倍增威權擁護佛化一切神分、般若心
經 大般若經者、

慎敬白、一代教主釋迦牟尼佛、西方能化彌陀種覺、東方教主藥師善逝、八萬法藏重聖敬、別而當山
本尊觀世音大士文殊普賢等、諸大薩埵身子目連等、賢聖僧衆慈佛眼所照、三寶境界而言方今南
閩浮提、扶桑朝關東以北、出羽州村山郡鈴立山若松寺觀音寶殿、特結壇場新挑常燈、願主旨越如
何者、夫當山觀世音者、人王四十三代元明天皇御宇、和銅元年戊申三月、行基時四十歲、奉勅於北
陸山陰之間創建梵宇、安置尊像爲降伏東夷北狄之暴惡、除滅國中人民之疫癘、巡行當國之次、最
上川泛舟泅流、遠望東北山際積翠霧鎖、嶮岨巖頭瑞雲靄々、聽有振鈴之聲、生奇異之心、念躋攀尋
求有巨靈木、今觀音堂地也、乃自彫刻觀音尊像、有何深意、自封爲秘佛、不許衆人之拜、從爾以來中
絕過一百五十二年之星霜、于時日東國台宗第二祖慈覺大師、大勇金剛開基立石寺、同年貞觀二
年中興當山初後合一千四十五年古靈場也、施現當二世利益中、殊國人奉祈除病延命、消除災難
如響應聲、其利益著明故、本州及隣國老若男女運步連踵、尊崇信仰如各々氏靈神、月神日新若斯
靈場、古有一關寶前燈明故、一山大衆年來歎之希之晝夜不斷、永代不朽之燈明、非靡巨多金錢不
能故、有其志願空過歲月、因緣時熟、哉有大信心善男居士、天童三日巷東海林藤左衛門爲其發願
之首、其餘十六人信士盟言同志結、常燈施入一萬人講、廣募當所及近鄉隣邑、金米錢隨施聚之、未
三年比積五百緡、分割三百緡永充常燈料田、及司燈明侍者一口衣食、固其資料之基、而後又新鑄
冶燈籠二基、鎮本尊壇上之左右、嗚呼大哉、供養三寶無過香華燈明、諸佛菩薩其膚金色由因位、獻

燈明光耀於三寶善報矣。昔佛世有一盜賊夜入蘭若，依將所帶矢鏃，挑佛前燈，因緣却得生天。此乃無仰信志，為已盜物，生天如此，何況起實心善根，寧不廣大彼盜惡。此信善黑惡，白善趣向大異。為恭敬供養其功德力，高於須彌深於大海。豈三寶諸天隨喜納受容疑也。然則大願主東海林居士等十七人，其功難測。今沙門鑑古告誡居士等曰：莫此善苗全謂已々功績出，若聞誇他之謂，只從及法界發願祈念，其功德不可思議。俯乞願主善信男及一念隨喜，施入男女等，蒙觀音薩埵大慈悲之哀愍，現世所願益不唐捐。後生善處如視，其掌一毫不疑功德有餘。當山安全佛法興隆，四來縑素各願成就，乃至沙界法雨普潤。

衆生無邊誓願度，煩惱無邊誓願斷。

法門無盡誓願學，無上菩薩誓願證。

惟時寶曆第三癸酉年五月二十七日。

立石寺學頭 大真覺院室沙門。

鑑古靈泉 謹白

右五月廿七日新挑常燈供養發願表白也。因願主東海林居士之懇望書以授之。

真學院

鑑古

同四年甲戌二月、奧羽諸侯、酒田湊定藏宿人名ヲ啓申ス。

〔船町村阿部文書〕

御大名様方御藏宿之覺。

一山形松平大和守様御藏宿。

加賀屋 與助。

上林勇右衛門。

鑑屋惣右衛門。

西野長兵衛。

永田茂右衛門。

一新庄戸澤上總介様御藏宿。

加賀屋 與助。

鑑屋總右衛門。

永田茂右衛門。

一同銅御藏宿。

加賀屋 與助。

一上山松平山城守様御藏宿。

加賀屋 與助。

上林勇右衛門。

上林 源七郎。

本間 彦四郎。

鑑屋總右衛門。

一米澤上杉大炊頭様御藏宿、

鎧屋總右衛門、
西野 長兵衛

一同新潟江御廻米御藏宿、

油屋又兵衛

一柏倉小笠原内膳様御藏宿(棚倉小笠原)

加賀屋 與助

一沼木戸田能登守様御藏宿(肥前島原戸田)

加賀屋 與助

一深堀高力大學様御藏宿、

加賀屋 與助

一東根松平大和守様御藏宿、

鎧屋總右衛門、

上林勇右衛門、

谷口 九兵衛

大和守御國替以後、當時御用無御座候、

一吉原堀田相模守様御藏宿、

加賀屋 與助

上林勇右衛門、

鎧屋總右衛門、

西野長兵衛

相模守様御替地當時御用無御座候、

右人數之内古來之御藏宿株之者、

加賀屋 與助

上林勇右衛門、

鎧屋總右衛門、

西野 長兵衛

谷口 九兵衛

追々相加候藏宿之者、

永田茂右衛門、

二十八年巳前未年新庄

御藏宿江加申候、山形

御藏宿は四年巳前未之

年、相加申候、

ノ山御藏宿江加申候、上

三年巳前申ノ年上ノ山

御藏宿江相加申候、

去四年方米澤御藏宿江

相加申候、

上林 源七郎

本間 彦四郎

油屋 又兵衛

是は〇〇〇已前戊二月御尋之節書上申候。

同年閏二月、上山城主松平信將、置賜郡河井忠右衛門ニ囑托シ、領内ノ租米一萬俵ヲ抵當トシ、以テ金千六百兩ヲ毎月ニ割當シ之ヲ借ル。

〔讀史堂叢書〕

一金千六百兩。

借用高。

是者當三月より十二日迄、壹ヶ月百六拾兩宛、江戸屋敷江成共上山表江成共、金主最寄之方江差出候様被仰合可被下候、右月割高之儀、月により増減可有御座候、其節入用之金高、金主江可申達候。

- 一米貳百五拾俵 十日町
- 一全百俵 二日町
- 一全百五拾俵 裏町
- 一全貳百俵 北町
- 一全百俵 長清水村
- 一全百俵 河原期村
- 一全三百俵 高松村
- 一全百五拾俵 河口村
- 一全貳百五拾俵 藤吾村
- 一全貳百俵 阿彌陀地村

- 一全貳百五拾俵 小穴村
- 一全百五拾俵 細谷村
- 一全百俵 下關根村
- 一全百五拾俵 中關根村
- 一全百五拾俵 下關根村
- 一全貳百俵 皆澤村
- 一全百俵 榑下村
- 一全百俵 正部村
- 一全百俵 大門村
- 一全百俵 大久保村
- 一全百俵 原口村
- 一全貳百五拾俵 牧野村
- 一全貳百五拾俵 上生居村
- 一全貳百俵 中生居村
- 一全貳百俵 下生居村
- 一全百五拾俵 宮脇村
- 一全百五拾俵 金澤村
- 一全參百俵 仙石村

〆五千俵

是者當戊十月より段々取立十二月限上山藏元ニ而可相渡候、又者同國大石田河岸並酒田港於兩所之内請取、金主勝手之筋ニ候は、運送申付右河岸港渡にも可致候。

- 一米五百俵 内表村
- 一米五百俵 中野村
- 一全貳百俵 鯨洗村
- 一全四百俵 新田村
- 一全五百五拾俵 溝延村、市郎左衛門方
- 一全四百五拾俵 全 品右衛門方
- 一全四百俵 全 忠藏方
- 一全貳百俵 全 嘉左衛門方
- 一全參百俵 全 藤左衛門方
- 一全參百俵 全 傳右衛門方
- 一全貳百俵 田井村
- 一全參百俵 小泉村、武助方
- 一全參百俵 全 金右衛門方
- 一全參百俵 日和田村
- 一全百俵 箕輪村

〆五千俵

是者例年村方より相願金納に仕來候付十一月より十二月限代金取立、正金ニ而可相渡候。右之通千六百兩引當領内上郷貳拾九ヶ村、中下郷貳拾九ヶ村、中下郷拾五ヶ村、收納米之内に而可相渡候間、當十一月より右米請取人差下置、此方取立役人江立會、先々納米請取候共、又者此方に而取立置藏詰致置候共、何れにも金主任望に可申候、且又右金萬千六百兩之内八百兩者、元利共中下郷五千俵金納之分、年内可致返濟候、上郷五千俵者、年内片付兼申儀に候間、來三月限相拂殘金八百兩、元利共請取積に相心得候様、被仰合可被下候、尤壹前俵之米に而、當暮之米直段により、若利足之内不足ニも相見候は、其分米高相増候而相渡可申候間、何方に而成共、儘成仕送御取持可被下候、金主方江相渡候證文之儀者、先方望次第に相渡可申候、宜様に御取合可被下候、以上。

松平山城守内

山田恒右衛門、出府

寶曆四年戊閏二月

谷野 小太夫、判

淺野 藤太夫、全

菅野 忠兵衛、全

堤三右衛門殿

按 本郡中當時上山松平氏所領メ、リ、ハ、内表村、中野村、鯨洗村、新田村等ノ各村ナリ。

同五年乙亥五月、築澤畑谷兩村、黑森山境界ヲ議定ス。

〔畑谷村文書〕

黑森山築澤村畑谷村與之境相改、取替し置申證文之事、

東は築澤村地内、

山東は見通塚境、西は畑谷村地内、

北は築澤村地内、

一黑森山、但峰々、

南は畑谷村地内、

山西は峰々見通ニシテ、東は畑谷村地内、

西は築澤村地内、

右黑森山築澤村與畑谷村與之境先年々境相々有之候得共、數十年之境通儀不分明ニ茂相成候而者、以來双方之爲ニ茂不相成候付、此度兩村申合庄屋組頭山守不殘立會境相糺し候處、南方畑谷村地内みこり窪境ニ古來有之候古き土手見通しニ境可有之所、右之境通不分明ニ付、双方申合之上右古き土手峰迄見通しニ、此度新規ニ塚三つ築立境と相定候、然ル上者自今以後相互ニ境通せり不申、勿論境通猥ニ立木等伐採申間鋪候、右之趣村中之者共へも急度申付、堅爲相守可申候爲後日爲取替證文如件、

寶曆五乙亥年五月、

築澤村山守、

平治郎、

同、

治郎兵衛、

組頭、

傳八、

同、

平四郎、

庄屋、

彦四郎、

畑谷村庄屋、

傳右衛門殿、

組頭、

源左衛門殿、

同、

甚左衛門殿、

山守、

六兵衛殿、

同、

藤右衛門殿、

同

治 助殿

同年十月、暴民山形城主松平乗佑ノ城下肴町、薬師町、小白川等ノ富戸ヲ濫妨ス、乗佑町奉行ニ命シ之ヲ鎮定セシム、暴民忽チ四散ス。

〔管井日記〕

一十月十九日夜、山形ニ而さりな町の久助、やくし町、小ちら川右四間つよし申候、山形家中七日町口にてふせき、町ぶきう仰らるに、願の筋申せと仰けきは、百姓共物わいつ、依家中衆百姓共をたゞきける、百姓たけにうをふざをふに走行。

同年同月、暴民等漆山領天童一日町穀商等ヲ破却シ、遂ニ他ニ及ハントス、佛光寺住僧某邀テ之ヲ解諭ス。

〔全〕

一十月廿二日、天童一日町ニ米屋貳間つよしける、又たんの伊兵衛の所へもおしよする、たんの傳兵衛の處へもおしよする處に、佛光寺様通にむりへはひすれば、百姓共きかぬ時、傳兵衛酒ふるまへし所に、うらのこやか出火上る。

同年十一月、藤澤寺一願禁官覺書ヲ、出羽國總末寺ニ頒布ス。

〔佛向寺文書〕

覺

一去ル申年愚老參 内以後、惣末寺禁官之儀御執奏、綾小路前中納言俊宗卿江内意申入、年々春秋兩度或者三ヶ度宛、令上京相願申候處於 禁裡御差合之義多ク段々及延引、當年迄四ヶ年之間致辛勞候、然處九月十六日從綾小路御家飛脚札度來被仰付候者、内々之願書差出候而、可宜時節ニ候之條早々可罷登之由申來候、依而早速乞支度致上着願出差上候得者、御加筆ニ成被下候故、左之通相認差上候得は、則綾小路殿轉奏、柳原大納言發廣、柳大納言殿御兩卿江直參有之、九月廿八日於 御殿中轉奏衆議奏衆、亦官之諸卿御評定之上、一々御吟味有之、尤成願たるよしニ而御取上、十月朔日ニ關白一條殿御攝家方御無會之席ニ而、關白殿江御披露被成候處、御披見之上尙又御細談有之、愈遂奏聞可然之段被仰出而、則願出達備 叙聞候上、關白殿九條殿并ニ姉小路大納言殿御取成宜御座候而、同十四日

勅許被成下、早速拙寺被召出兩轉奏、被仰渡候、依之同十五日禁帝様、并關白殿兩轉奏衆議奏衆御四人、姉小路殿職基之辨官衆御肩方、綾小路殿附御家中不殘、冥加金相應差上途御禮、十六日ニ御暇申請合備寺候、寔四百年來不及其沙汰、新儀之願難叶事ニ候得共、元祖上人之冥加ニ而時節今到來、一宗永々之面目他郷之外聞、生前之大幸不過之存事ニ候、各可被致恐悅候、然ル上者宗門一派之再興ニ御座候間、各出情有之一兩年之内、御繪旨頂戴候様ニ可致相勵候、尤條目拜見之上可被得其意候、以上。

同阿。印

一願。花押

羽州

同年十二月、今茲奥羽年セス人民大ニ苦ム、傳テ寶五ノ飢饉ト云フ、左ニ當時ノ諸記ヲ抄録シテ參照トナス。

〔上山見聞隨筆〕

一寶曆五乙亥年諸國凶作、季候不順にて夏中ひとへもの着たること四日なり、八月十六日大霜ふる、きんにて米壹俵代貳貫九百五拾文といへり。

〔落葉曲尺〕

一寶曆五乙亥年大凶作にて田畑ミのらす、子細ハ早春より雨繁ク降り續ク故に、青田に羽蟻の如くなる虫夥しく付キ稻を喰倒し候、拾二年以前西國にて青田ニ蟻虻と云はねある虫夥しく付キ、人民は申ニ及はす牛馬をもさし殺事有て、諸大名より皆無等の御届有之由日本に隠れなく沙汰有りて、既に西國にて何れの人リ發句を申と聞ゆ、「亥子わろくもうくよかれ丑のとし」十二年回りにて天の災ひ、東國に至るならんなど申あへり、然るに七軒丁山崎兵八と云仁頭取りをして、近村の百姓共出錢して林泉寺を頼み、春日大明神の宮にて大般若修行し、面々の田に札をたてしゆへ、虫うすくなるといふ、此事流布せし故下長井邊村々々、郡代森平右衛門所江願出方故に、白子大明神の宮にて、別當大行院祈禱し、五穀成就之れを諸村肝煎に相渡す、然れ共稻のありるむ事なければ、此祈禱にてはあらんと、諸寺院も古例をひきて様々に沙沙有し事なり、斯て諸村江見分人被指出候得は、御年貢皆無或は五分三分六七分ニひけ

方相立故ニ、御藏入多分引け方相立上に、村々へ夫食代等被成下、御藏納も濟下り有之故、御扶持通りは少々宛御藏、正米にて相渡り候云々。

〔樋口宇右衛門記錄〕

寶曆五年亥年四月九日より雨降り晝夜止ず、夏の土用寒きこと冬の如し、秋に至てもはれず田方不殘青立、此年手前（樋口宇右衛門）にて稻四千束程かり申候へとも、米漸く七俵程とり前代に無之大不作故に世間に餓死多し、當村築澤村畑谷村三ヶ村にて死するもの、子の七月までに百三十六人、死するもの何れも殊の外大食仕候て相斃る、米亥の暮に壹貫七百文位ニ御座候、春に至て段々に引上、五六月比には二貫七百文に被成候、扱又子の年種蒔きの、處種粗悪しく候て生立不申三四度蒔く、手前にて者古粃三度めに蒔付申候、是にて田植仕候、個様の事も有之候は、古粃蒔方專一にて御座候、此凶年故世間乞食多く、家財其外不殘賣拂はさるもの拾一分位ニ有之候。

〔大日寺記錄〕

寶曆五年乙亥年大不作。

一前年戌暮雪も餘りふり不申、正月ニ到ても深雪ニも無之候處、寒は累年之一倍さむく、水事飯粒はせる程なり、二月ニ成而も例年之様に暖に無之、折々雪嵐にて寒事以外年也、其が段々三月四月ニ成ても寒故、山野の草木花迄も開りね、こぶし山櫻つゝじなど累年様〇〇〇其故山々嶽々の雪も消かね、寒き故朝々霜なり、草木の若も（ワカ）も焼枯し、別而桑の葉杯不宜、就夫苗も黄

色ニなりて、卅三日過ても長ク短ク、横手のころに有歟無歟也、「こりい(養)も初さむく家々火
 たきを上ケ前になりても毎日雨ふり、露葉に而皆々上申候、夜晝ふり申候、迷惑なり、「田植
 候節少々日和〇〇五月十七日時分降初候雨、夏中秋九月十月迄押通ての長雨也、仍而五六
 月は節々比洪水、小橋大橋乍皆流失申候、其故川の水夏迄も減らす、降火ニ面川せる不成、「田は
 壹番草取ても稻色肥立不申、植付七拾五日過ても一本の出ほ無之、秋彼岸中も五本拾本之様
 ニ出ほ相見申候、自其段々冷氣ニ成而稻色は頭本よりわらくさり、黒クうんか付候様ニなり
 候、雨の降内ニも少々之間も暖候へは、籾の口明花掛り候、然共無間ふり候得者口閉かね、
 中へ雨入候而空になり候、此内ニも稻草に依而少々實入も有り、兎角こい少ク淺田砂地方計
 少々能方ニて、こい澤山(肥料多)深田の分就中實入無之、「土用中も平生の通り別而暖ニ無之、
 帷子不入年ニ有之候、天氣惡敷土用干物不成年也、諸鳥虫蜂蛇等迄不出、然故畑作も大豆も水
 燒ニ成、細實そばも半實入、長小角豆坏は種もなく枯申候、茄子植付儘ニて花も不咲枯也、たま
 く花咲生りても一二三位、植付候分半分過は枯花、瓜類左之通り、いふがほは少々生りて、な
 んばん少し生立と虫喰倒し、是も水負不生皆枯也、唯畑物は蕪大根計随分ト克候、大根は勢根
 次第二年分も取也、畑芋も悪し、依之盆には茄子いふかは小角豆等町へ誂、然共町ニも茄子拂
 底無之、唯當所之作物逆もなたさ、げ計有之也、白百合花最中也、赤百合は壹本も不開、是以遲
 事累年は赤計最中ニ而白花は落花也、「夏中酒を用ニ能年也、冷氣候へは食物ニひくさりも、
 前年の様ニ無之候、ひがん過候而も冷氣日増彌實入無之、唯稻は一本もこさます、籾の内見〇
 〇散々成様子なり、諸人は如何成事哉と歎キ悲ミ、出合者咄逆は不作事計目も不被當次第

就夫町ニても一町々々ニ米直上り、食物段々とかこいの心付申也、貯籾の有之者は不出、何と
 なく穀物大事なり候、夏米直段金子壹分三斗位、其の段々直上り八月比は、五升ニ付貳百六七
 文位上ル也、其故山のかてミづふき、又はよもぎ、土葉、あざと何となく、人々取るなり、「九十月
 比ぶなくなるミ、はしばと大生り家内不殘取出也、撫實は人々みにて吹取也、能取者は一日ニ壹
 斗五六升も拾申也、其實を能煮うすにてつき、何ニ而もつきまじへ喰物とす、或は汁ノ代りに
 すりのべても吉賣時は五升ニて八十文位、「御上へ申上稻刈不成、九月末ニ漸檢見過稻刈也、
 田ぐろに而火をたき蒭也、折々雪みそれふりつめたし、漸蒭仕舞はせに上るも、毎日雨そきと
 不干、「九月晦日蒭上餅不食勿論、新酒秋振舞無之、「九月十七日酒禁杯と成、在家ニも少々
 賣酒有之候へ共、十月成候而は一切なし、就夫大根盗かて盜杯有之難義也、「十月廿六日ニ方
 丈の種籾村中借用ス、家々の勝手次第、「霜月朔日五晝置ニ粥たき村中へ御振舞、男女子共
 老人不殘上ル、五日十日十五日廿五日晦日と也、後程人數大分也、百人位也、「極月は村中
 へ籾壹斗ツ、被下也、米ニ而五升之當也、「霜月中夫食願出殊外委細御吟味、男女人數老若共
 皆乍人別御改六敷事ニ候、其後極月廿八日ニ又々願出る也、此時も御吟味計にて仰渡無之。

〔漆山御代官記〕

一寶曆五亥年七月雨降續キ、田方大凶作ニ而、御檢見として御代官平岡彦兵衛様御下着、御年
 貢定免取ニ候得共、惡作故御檢見御願申上候得共、御坪刈被遊候而、三分之損毛ニ行届不申由
 ニ而、定免ニ被仰付候、田方不殘青立なり、剩秋ニ至り候而も、雨降つゝ、例年ニ無之、十月十三

日か稻かり立候間、過半雪下ニ相成候、上稻は貳俵半位中は壹俵半又は貳斗位、畢竟青立致故
實法不申候、百束ニ而如此し、米直段は金拾兩ニ付拾七俵半、大豆代錢壹貫九百文位、青大豆は
壹俵壹貫六百文位、蕎麥壹俵壹貫五百文、このか切升三斗ニ而代錢三百六拾文位、山形は米壹
俵三貫文と申事ニ候、依之村々飢饉いたし、渴命れもの數多し、木の葉草の葉類かてに不喰も
のいなし、大豆餅又は松の皮のだんこ等、悉く能き食物ニ御座候、米の粉のかは(也)相應より直
段も安く、且能かてに候とて大分賣れ申候ニ付、商人共買出し、それへ木挽くつ、次入て賣候間、
それをかてに喰候者共多く、死候と風聞いたし候。

同年某月、堀田領畑谷村、山木實納稅請書ヲ具申ス。

〔畑谷文書〕

指上申御請證文之事。

畑谷村御林并山野ニ有之候山漆實、年々實之時節ニ至り候得は、晝夜番人付置右漆實熟候時
分ニは、御役人様方御越被成村方人足差出、前々之通ニ實取ニ被仰付候、然所ニ右番人付置
并漆實取候折柄は、農業專之時節ニ而、村中難儀仕候趣被及御聞候、依之當亥年々來ル卯年迄
五ケ年之内、壹ケ年代錢拾貳貫五拾文宛ニ而、代錢納定納ニ被仰付候間、勝手ニ茂相成り候は
、右之通代錢ニ而定納可仕候、若又代錢納ニ而、迷惑之筋ニも有之候は、前々之通ニ年々實
取ニ可被仰付旨、被仰渡候趣承知仕候、右被及御聞候通、年々實取ニ被仰候而は、人足大分ニ相
掛り、農業之障リニ罷成候而難儀仕候間、代錢納ニ被仰付被下置候は、村中一統ニ難有仕合

ニ奉存候、被仰付候通、當亥年々來ル卯年迄五ケ年之内、壹ケ年代錢拾貳貫五拾文宛ニ而急度
上納可仕候、然ル上は漆實如何様ニ惡敷年ニ而も、御年賦之内は少茂預ケ間敷義申上間敷候、
御定之通無滯急度代錢上納可仕候、右之通五ケ年之内、代錢納ニ被仰付候得共、漆木之儀は只
今迄之通り、随分大切ニ仕、縦令小木たりとも、兼末ニ不仕猥成義無之様ニ可仕、村中へも急度
可申渡旨、被仰渡奉畏候、爲後日村中連判を以御請證文如件。

畑谷村、

寶曆五乙亥年、

惣百姓。

同組頭、

兵左衛門。

同、

源左衛門。

庄屋、

傳右衛門。

同六年丙子八月、畑谷村北作村ト、入會山ノコトヲ代官所ニ訴訟ス。

〔畑谷文書〕

乍恐以口上書申上候御事、

一畑谷村と米澤御領萩野中山村と、古來々野山相互ニ入合ニ致來り申候、中山領こくう藏山

境通之山、七ヶ所ニ而柴薪伐採申候、中山村ニ而は畑谷村之内、黒森山峠さのミ海道上萱草蒭來り申候、然所ニ當五月廿八日之朝中山衆、右之黒森山之内峠ニ而草蒭申所ニ、北作村之者共不圖罷越、中山衆之草蒭馬鎌共ニうはへ罷取申ニ付、同日中山村ハ馬主使兩人指添斷申候は、如前々入合山ニ而草蒭申所ニ、北作村衆大勢來り馬鎌共ニ押取申候、如何様之子細ニ而ケ様之儀ニ候ト申越候ニ付、草蒭場所見合則中山之使兩人ニ、當村之者壹人指添北作村江申越候は、中山村江は從先年入合ニ付而、今朝草蒭ニ參候所ニ馬鎌押取申儀は、合點無之被致様ト存候間、馬早々被相返候様ニ申遣候、右一卷同廿九日ニ中山ハ委細以書狀申越候ニ付、北作村江茂度々馬被相返候様ニ、以人申越候得共相返シ不申ニ付而、六月三日ニ右之子細爲御披露大庄屋迄罷越申候、同日ニ北作村ハ茂大庄屋江罷越候、其節先年ハ入合之子細申上候、其以後度々中山村ハ當村江之書狀參候、則先達而御披見ニ入申候御事、

一 右黒森山峠さのミ海道之上、從先年中山村江斗入合ニ致置申候所ニ、北作村ハ右之山江入申由以口上書申上候ニ付、畑谷村ニ而茂入合之子細北作村築澤村ニ而は、先年ハ畑谷山江入不申段、口上書指上ケ申ニ付、双方六月廿一日ニ於御役所御願之上、右口上書指上ケ申通り、中山村斗入合ニ致來り、北作築澤入申ハ儀は無御座候段、委細申上候事、

一 七月廿三日ニ中山村ハ以書狀相斷申候は、先達而申入候通先年當村山續之者、其村之衆中之山刀鎌押候節、其御村ハ御斷御座候ニ付、當村ニ而取量相返し申候、然所ニ入合場所ニ而草蒭馬鎌北作村衆押申ニ付、早々御斷申入場所迄御目合置候ニ付、御同國之儀ト申御取量馬爲御返可被成ト存候所ニ、埒明不申ニ付以來山入合之儀相止申從斷申候、則書面御披見入申候、畑

谷村之儀は嵩下山内惡地不作ニ御座候間、右入來り申中山領ニ而、柴薪伐取致商賣、御年貢之たしめニ茂仕、其上飢命を送り、一村之百姓相續罷有候所ニ、只今に至而入合相止申候得は、畑谷村薪山無御座、渡世送り可申様無御座、迷惑奉存候、先年之通中山村江入合申様ニ、被仰付被下置度奉願上候、以上。

子八月、

畑谷村、

惣百姓、

同村組頭、

清 藏、

同、

勘兵衛、

庄屋、

助右衛門、

御代官所様、

同七年丁丑四月、漆山代官平岡彦兵衛、去々歳以來凶荒ノ情ヲ陳シ、米八千二百石ヲ公借シ、又毎歳返納スル所ノ舊債米四百二十二石、金百拾三兩余ヲ七年居置ノ後、二十ヶ年賦壹ヶ年米四百拾石返納トナシ、以テ窮民ヲ救濟セン事ヲ請フ。

〔覺書集〕

私御代官所高五萬石余、羽州村山郡六拾五ヶ村之義、去々亥年何拾年ニも無御座凶作ニ而、檢見伺之上御引方被下置候處、檢見後相續日並惡敷刈入相後候内、大雪降積立毛數日雪下ニ罷成、皆損同前御座候付、再見分願出一統相歎候得共、檢見相濟候已後之儀ニ御座候へ者、願取上不申利害申渡、伺之通御取箇申付候處、年内夫食取續兼候、百姓數多有之段々願出吟味仕、差掛候分私諸入用金之内を以、手當仕漸取續候、去子春夏ニ至一統及飢渴夫食貸被仰付、又者草木之根葉を給漸露命取續候得共、全躰亥年少々手取候米穀給込、御物成米金上納差支、是又去冬中迄子年作德米金を以取立、御憐愍を以石代金之内米納年賦等被成下、亥年御物成皆濟仕候、去子年之儀及飢渴長々、飽食脾胃を痛病死人も數多有之人少罷成候上、多分病人躰に而耕作仕付手入相後れ、去秋立毛實法甲斐なく、檢見之上是又御引方奉伺候得共、作德米之分前年之御物成ニ相納候付、萬端差支其上去冬中より村毎ニ時疫流行、當時農業相働候もの人少ニ而、當作付可仕方無御座、殊夫食不足仕種夫食作付夫食拜借被成下候様再三相願候得共、年々御救之上之義ニ御座候得は、無際限義ニ而難申立旨利害申渡願取上不申候得共、去々亥年國中一統凶作仕候ニ付、諸石代直段何拾ヶ年ニも無之、三増倍余石代金高多く取立差支、其上納不足之分可相償手段無之、持高等迄賣代替當時種夫食無之、勿論作夫食無御座義相違無御座候、右村々之義近國城下往還、馬繼宿々助人馬差出候處、持馬不足仕他領地村より雇買上等迄ニ仕、相勤別而難儀仕候、

一 羽劔之儀一統石、盛三拾貳ヶ斗代御座候得共、御取箇關東之見合ニ而は、厘附貳ヶ前後ニ而釣

り合可申處、多分四ツ五ツ之厘附ニ而甚高免相見候ニ付、私初而廻村仕候節、土地廣狹等之様子檢地繩心等迄心を附見合候得共、地面差而相替儀も無之、殊寒國ニ而右村々之義は、同國中ニ而も多分山形ニ而秋、雪降積、春作仕付難儀成田方一毛作之場所ニ御座候、外ニ浮所務稼等も無御座前々御取付相糺候處ニ、長谷川庄五郎御代官所之節、享保八卯年初而定免吟味有之、夫迄拾ヶ年御取箇附之内、寅年高免ニ増米を加定免申付、其節寅年高免ニ相増候而は、難引受ニ付増米免相願候處、已來右摺米之外決而増方申付間敷旨ニ而、年季限ニ引請候由村方申候、其後小林小左衛門御代官所ニ相成り、享保拾三申年年季切替ニ付、郡中一統村高ニ貳分七り増を以定免申付候ニ付、長谷川庄五郎時分已來増米申付無之筈ニ而、引請候段申立候得共、村高へ相掛り、御料所一統之増方ニ候旨申渡候由ニ而引請候由申候、陰山外記御代官所ニ罷成、寛延二己年大凶作ニ候處、定免居り米金上納差支、家財諸道具は勿論、何ニ而も代替可申品相拂候而も不相届、高利之借米金致才覺、其上御手當拜借米被成下、漸上納仕候由申候、夫々耕作手入等も相届兼候哉、打續不作ニ而右増米金利金相加致返濟候ニ付、年々跡引ニ罷成段々困窮相募、潰百姓數多出來仕、其上寛延三午年外記吟味之上、前々より永荒無反別之場所取米申付、凡寶永年中御取箇より、當時見合候處一倍余相増候、村方多分有之村々甚相痛候得共、前々御代官所吟味之上、多分定免相極引渡候得者、三分損毛之定法を以取計、既酉年不作付破免願出不相當候分引方不申立候、畢竟七年已來私御代官所ニ被仰付候刻、右困窮相續等儀存寄可奉伺處、御取箇之儀、取^ト下候而は、又末々引上候儀容易ニ難成儀ニ付、引付を相用何分村入用等、其上外百姓費無之様指略仕、爲取續取立上納之儀も勤辨仕、皆濟致候而御取ヶ不相減

様可仕奉存候其節相續之存寄不奉伺段今更恐入奉存候隨分心を付取計候得共全体壹ケ年之御物成其年之産物ニ而皆濟相届不申過半借り入金等之償前々跡引ニ罷成候處去々年亥年大凶作ニ而相痛去子年々當年ニ至必至と差支此上百姓相續可仕様無御座候一貳拾ケ年來潰百姓千五百拾人有之此持高壹萬百五拾壹石余前々村總作ニ申付定免高之内ニ而取米凡三千貳拾九石余御座候銘々持田畠さへ手入不行届仕付差支候躰ニ候得は植付候迄ニ而手入不行届右總作物之分は實法兼候得共定免之義歩刈一村平均吟味仕候得は三分已上ニ不相當總作之分凡米貳千五六百石程ツ、年々百姓償ニ仕來候へ共檢見之節勘辨仕引方等相立候而者自然と上ケ田地相増總作高格別相募御不益之筋ニ御座候付前々右之趣を以吟味仕定免通申付候村償多尤通例之年柄相續キ候は、納方ケ成ニも取續候得共亥年大變ニ而必至と差支困窮相募銘々持田持も手入怠り當丑年ニ至り候而者潰百姓彌相増人少ニ罷成田畑荒地離散退轉之義歷然ニ奉存候依之相續之儀種々相考候得共外ニ取續可申手段無御座候右六拾五ケ村之内拾貳ケ村者里方ニ而紅花青苧等少々宛依之御年買償之助合ニも罷成候得は此村々相除キ殘五拾三ケ村之義何ニ而も外稼無御座勿論紅花青苧等も一向出來不仕悉ク相痛相續可仕處無御座候間爲御手當米八千貳百石拜借被成下置候様奉伺候五拾三ケ村高五萬貳千三百石餘之村々百姓小前持高人別相當之割合借渡可申候右御手當大造之石高ニ御座候へ共去子年之義も去々亥年上納方へ作德米取立六千石余相納候付子年々上納可仕分全不足仕種相續は勿論作德米引越相納候故殘貳千石當時作夫食種相續等ニ不仕候而難取償候故多之石數ニ罷成候少分之御手當ニ而の中々相續不罷成候

格別之筋を以書面之通御手當米拜借被成下置候様仕度奉存候返納之義ハ右躰相痛候上之義ニ御座候へ前々夫食種貸拜借等之返納多壹ケ年之米四百貳拾石余金百拾三兩余年賦返納有之候得は急ニ取立返納仕候而御手當被成下候詮も無之様ニ罷成候間右前々返納相濟候迄當丑々七ケ年過申卯迄貳拾ケ年賦壹ケ年米四百拾石ツ、取立返納被仰付候様仕度奉存候依之奉伺候已上。

丑四月、平岡彦兵衛。

〔漆山代官記〕

一同年極月俄に江戸へ御奉書到來いたし御手代衆不殘御引爲登御役所は御代官天野助次郎様當分御預平岡彦兵衛様御手代衆は如何様の譯ニ候哉江戸表ニ而不殘あかり屋へ被入被成候と申事ニ候翌丑ノ年四月中平岡様手代衆歸參被成候而本のとく御支配ニ御座候。

按 代官記、漆山代官所手代江戸召サレコトヲ記ス、蓋シ年貢滞納ノ事ニ關セルナラン、然レ其事未ダ得テ之ヲ詳ニセズ、同記又名代官預ノ事ヲ記ス、以テ實五以來、郷村衰頹ノ狀ヲ察スヘシ。

同年五月、馬見崎川暴漲、山形城下旅籠町十日町ヲ流失ス、本郡諸川洪水頗ル被害アリ。

〔菅井日記〕

一五月朔日は事に大雨に有り、二日に山形ニては豆りさきやふら水をましよて、また十日町あり、
一同二日ニ寒河江川之石川川原水よけをし出され、下川原田川原水ましよて、家をしまひどりの上様々あけよけり、依之田畑おひたしく、様々たりけるとあり。

同日、下川原作平と申者家をありされ、はしらよ手をかけ、水よまさせてありれ行。

〔漆山代官記〕

一寶曆七年丑年四月廿一日より雨降り續き、五月三日に漸々天氣ニ相成候、晝夜二十日の大雨ニて洪水、長崎達磨寺津島村ト、高屋仁田館洗水揚り田畑大損し、外ニ中野目灰塚も過半損し、此時ニ寺津館洗嶋高屋仁田灰塚六ヶ村漆山領也、手代衆御見分江戸表へ申上、田畑川欠高多ク引田畑押流し、百姓夫食に差詰り、御願申上御拜借いたし候、返納ハ十八ヶ年賦ニ被仰付、畑麥實法不申漸々百束ニ而、貳斗位ハ壹俵位迄取申候、紅花ハ例年の五ヶ一取不申候、直段ハ百目ニ付五六拾文位也。

〔漆山代官記〕

五月廿七日ハ六月六日迄、晝夜大雨降りツ、大洪水村々大損し、就夫上ノ山大損し、家數四拾軒余押流し、人數六十人の余死去、町の中大川ニ成、所ニよりて淵と成り、ごあみを打候と申聞ニ候、館洗中野澁江灰塚寺津藤内島高屋仁田九ヶ村大損し、江戸表へ御注進申、平岡彦兵衛様御下着。

〔菅井日記〕

一五月十九日ハ長雨ふりつゝ、廿五日ハ大水ましにて、まつ最上川にては、長崎より寒河江新宿まで一面にありにける、西は高松にこそそのまやふれ海面、東ハ天童あたこ山計にのこり町中川中に也、それよりこくぞふ堂の下迄一面に也、北は寒河江川是も大水ましにて、石川原

おしやふられ、下川原石川田川原仁田本楯迄、高屋前郷の分はみな海になりにける、事に庄内ハのあきんと舟は貳そう馬せ山にひりへたり、その夜の水になりされ、まのうらにとままりける、水にもまれてこんなちんになる、左澤には家六間なりされ人多くしす、尾花澤には楯岡ハ小泉まで是も一面海のおもてにそなる、舟まちにては北は長崎、南は上之山之左右に水まし、寒河江ハ上の山まで一面に、その道七里ハ間海にぞなりにける、京都にたどハ伊豆の七里ハ舟渡ににたりける。

一最上川寶曆七年の出水ハ、平水ヨリ高キコト三丈餘、古來ヨリ稀ナリト傳フ、別圖(省甲)の如ク一時流路を遷シ、該川沿岸數十町ノ土地流亡セルヲ以テ、官費ヲ以テ修繕ヲ加ヘ、數年ナラスシテ復川セリ。

同年六月、是ヨリ前、最上川運漕船再ヒ破船ノ害多シ、荷主等協議シ、檢視ヲ各地ニ派遣シ、以テ行舟ノ狀ヲ觀察セシム、今茲三月、古口着船々脚甚タ沈重ナルヲ怪ミ、停メテ之ヲ檢査ス、果シテ積載過量ナリ、仍テ舟子ヲ糾問シ、船主奸惡ノ實ヲ得タリ、荷主等之ヲ公訴セント欲ス、總代阿部孫市先ツ書テ、酒田港川船方上林勇右衛門等ニ與ヘ、狀ヲ報シ、決答ヲ求ム。

〔阿部文書〕

口上書ヲ以御願申上候。

一先年爲登荷船追年莫大之破船有之、既ニ去ル午未兩年ニ者四拾四船之破船、諸荷物流亡夥敷、

荷主共難立行罷成候ニ付、去ル申春中其筋江及掛合相對を以取締仕法向組立候處、同年已來破船無之様相成安堵罷在候所、又々去子秋分少破船ニ付、荷主共評議之上當春中登船取締之ため、川通向々江人數差出置情々仕候處、御城米壹番川船船頭正名七兵衛、長助達九艘屋内二月十五日出帆、漸三月中古口河岸着通船見分仕候處、甚船足重相見得雪解出水之折柄危体ニ御座候間、船々引留相糺候處、右屋内之内七艘ならて登船不仕、其上積荷取調候處、多分之過荷物積入有之候ニ付、船頭共篤と相糺候處、全清川迄積荷九艘屋内ニ而罷登内貳艘之荷物類船七艘江積入登船いたし、則貳艘之空船御用船江差向候様、船主小柴傳七申付候、清川古口迄之川路兩山嶮岨之里數、引船竿指之働不相成帆風而已相便、別而春水之通船危不容易場處、萬一之儀有之候節、如何可仕所存ニ候哉、大膽之致方譯而當春之儀者、夫喰鹽初諸荷物相嵩爲登方差支、無據例年分外之積荷相増船足重候間、不安心ニ存罷在候處、無其辨も貳艘之積荷類船江過積いたし候段、不得其意其節及察當候ハ、御用之御差支も難計奉恐入候間、御用船相濟候上、右貳艘元合海古口河岸迄引戻、同所ニおゐて元積九艘之積口ニ相直し爲差登候ニ付、前後數日之日後差支ニハ相成候得共、兼而川附村々江人數差出置候ニ付、取調も出來危難之愁相通申候、左も無之候ハ、如何様之難事難計、右様之不埒捨置候ハ、大勢之船持並船頭共見習之種々之我儘増長仕、取締相立不申候間、其筋江御吟味願申上度旨、荷主共申聞候得共、不容易儀ニ付一先差留各様江御願申上候儀者、右傳七儀船持總代長之役も相勤居候身分ニ而、御大切之御領主様御參府、御用船船持御割請等閑差心得、御國恩を忘却仕荷船を以差繕、剩御急之御廻米達及延着勿論、差急キ候商荷物、多分之運賃を以積受合候處、諸向を欺

一己之利欲ニ泥不屈を相犯、同人儀を是迄も不正之筋有之候、其都度勘辨致置候を不相辨、右体不容易取巧ミ、素々深相企候義と相見得、右九艘屋内不殘傳七手内之船ニ而、則船頭七兵衛長助儀は傳七舍弟共之趣ニ而、兄弟馴合之いたし方、此末如何様之儀仕出し可申哉、難計内外取締ニ相拘候間、御糺之上、急度御沙汰被下度御願申上候、尤荷主共任存寄不苦候ハ、御奉行所江願立候様取計可申哉、無御遠慮被仰聞可被下候、以上。

川越方御用達、

荷主總代兼、

丑六月、

阿部 孫市 印

川船方御掛、

上林勇右衛門様、

北村與四兵衛様、

松田六右衛門様、

西野 長兵衛様、

同年七月、檢使野村監物、宮川源内、町野左兵衛江戶ヨリ來り、寒河江領以下諸領水害地ヲ檢ス、柴橋代官天野市十郎、白岩代官風祭甚三郎、尾花澤代官辻六郎左衛門、長瀨代官川田六左衛門、漆山代官平岡彦兵衛等寒河江ニ來會ス。

〔菅井日記〕

一七月十六日ニ江戸表方、御檢使様御下向ニつき、寒河江乘圓寺ニ御宿スル、依之寒河江御見分として、

一野村監物様、

御上下拾人、

一宮川源内様、

御上下七人、

一町野左兵衛様、

御上下七人、

一貳拾四人之足立にて有之、

御荷物、

御長持、

三棹、

御駕籠、

三挺、

兩掛挾箱、

三荷、

御荷物、

七駄、

御合羽籠、

壹荷、

一津田平次郎様、

御上下貳人、

右之通御檢使様御下向被成候而、村々御見分有之、其上川欠御見分御座候而百姓難儀に有之

此節寒河江ニ柴橋村ノ御代官御下向有、

柴橋、

天野市十郎様、

白岩、

風祭甚三郎様、

尾花澤、

辻六郎左衛門様、

長とろ、

川田六左衛門様、

うるし山、

平岡彦兵衛様、

右五頭御下向有之、寒河江ミヤコにかりにけり、

同年八月、諸檢使諸代官等、名主以下ヲ召集シテ民情ヲ尋問ス、相集ルモノ四五百人、人心頗ル動擾ス。

〔全上〕

一八月十八日ニ又候先達而御檢使様御下向有之候而、羽州御代官所不殘、五頭の名主百姓等召出御吟味被遊候、其節寒河江ノ庄ニ於りて被願出候人々ニハ、

阿部重兵衛

先ず、ミ出テ願申候、此節ハ御陣屋井田庄九郎、安彦久右衛門、井田文右衛門、庄兵衛、六郎兵衛
と宿仕候中ニも御陣屋ハ御本陣ニ有之候處、百姓四五百人もあつまり願申中にも、十兵衛と
云ふ致ニ付代官ニ目あてられ、其後書上ニ被仰付ことごとくかんきにおよぶ。

〔漆山代官記〕

七月十六日ニ御勘定乗の内、野村庄助様、宮川源内様、御目付町野左京様御三人御下り、但水場
長辨料尾花澤料柴橋料へ御下着被成候、右順見乘川西初りそれより川東へ廻、高玉泊り中野
御休ミ、山形御泊り御道也。

同年九月、村山郡藏増村、將ニ最上川洪水被害堤防ノ、復舊工事ヲ起サントシ、用材ヲ請求
ス。

〔藏増村文書〕

覺

一 築立普請諸場所、但シ 長サ九拾間、
數九間壹ク所、

高サ壹丈貳尺、
馬踏三間、

此坪數千八拾坪、但シ壹坪七人掛り之積り、

此人足七千五百六拾人、

杭木千三百貳拾本、但シ 杭打場所百拾間、壹間三本宛壹丈三尺杭、
口通之積り、

此人足六百六拾人、但シ壹人貳本打之積り、

人足八千貳百貳拾人、

右者當夏中洪水ニ付、最上川通切所築立普請場所目論見、内改人足木數積書面之通御座候、依
之木數之分當村御林松木被下置度奉願上候、以上。

藏増村

寶曆七年丑九月

名主、忠治郎

全、新右衛門

全、彌兵衛

高野村

名主、長左衛門

長瀬

御役所

同八年戊寅十一月、南北藏増村高野村名主等、洪水復舊工事帳ヲ、幕府代官川田六左衛門ニ
啓申ス。

〔藏増村文書〕

御普請所出來形帳

最上川通

字前野、

高壹丈、

一堤長八拾間、

平均 馬踏貳間、

敷 六間、

一松木百五本、

長貳間半、末口三寸、箒杭、

是ハ右長八拾間之内七拾間分、川表根通箒かけ候積り、但右木貳ツ伐貳百拾本ニシテ間ニ送リ三本打、

一籠朶七拾束、

五尺繩ニシテ箒籠朶、

是ハ長七拾間分高三尺柵、此平均三拾五坪、但壹坪ニ貳束ツ、

右者當村最上川通切所御普請御願申上候處、御手當^{不明}□□御手當松木被下置候ニ付、村人足ニ而御目論之通皆出來仕候、依之出來帳差上申候、以上、

北藏増村、

實曆八年寅十一月、

名主 忠次郎

同 新右衛門

組頭 喜兵衛

同 彦十郎

百姓代 七左衛門

同 久藏

南藏増村、

名主 彌兵衛

組頭 庄兵衛

百姓代 傳四郎

高野村、

名主 長左衛門

組頭 長三郎

百姓代 八兵衛

同九年己卯五月、幕府村山郡諸代官ニ令シ、石代金納法ヲ更メ、其標準價格ハ十月十五日以降同三十日ニ至ル、山形新庄東根左澤酒田等、各市場ノ平均價格ニ據リ、金壹兩ニ米三斗高ヲ以テ定石代トナサシム、

〔採訪史料〕

向後相場書左之通、

一山形、新庄、東根、左澤、酒田、

上新米十月十五日ハ同晦日迄、平均直段を用セリ上金高壹兩ニ付米三斗高、

但右所々相場之儀、私領町相場之分、領主役人與判之書付取之可被差出候、

石之通石代金納當卯ハ、定法相改書面之通被致旨、松左近將監殿被 仰渡候間、可得其意候、以上、

卯五月、

同年七月、幕府、諸國料所百姓奢侈風ヲ爲シ、制禁頗ル頽廢セルヲ以テ、命シテ之ヲ矯正セシム、諸代官配下各村ニ令シ、名主以下連署ノ請狀ヲ徵收シ、以テ弊風ヲ戒飾ス。

〔江股文書〕

總而諸國百姓衣食并身持稼業等之儀ニ至迄、前々々數度悉ク被仰出、御制禁之筋も有之、其節御代官所御預所役人ノ申渡、五人組帳ニも記置御制禁被仰出候儀者、遂一相守可申事ニ候處、年を経候ニ隨ひ、おのつからゆるみ怠り候哉、國所ニ衣食住共ニ不應其身且身持等迄不宜もの有之趣、相聞不屈之事ニ候條、以來相改前々々御制禁被仰出候趣、忘却不致急度可相守候、此上若違失之者於有之は、吟味之上嚴敷咎可有之候條、村々庄屋名主共其旨相守、末々百姓名子家抱水吞等迄、平日無懈怠吞込候條、申含爲相守候様ニ可仕候、其上ニも令違背もの於有之ハ、早々可申付者也。

右之趣各々御代官所、御預所村々江可申渡候、以上。

卯七月、

右被仰渡之趣一々奉承知候、御代官所御預り所村々庄屋名主共ハ勿論、末々百姓水吞躰まで不殘、右之趣奉承知、前々々御制禁、被仰出候趣、無忘却急度相守候様ニ可仕候、此上違失之者有之候ハ、吟味仕申上候様ニ可仕候。

一私共之内陣屋無之者共江、御代官所御預所村々組合之内、總代庄屋名主兩三人宛、呼出し急度

申渡、組合村々庄屋名主委細申聞、銘々村中總百姓名子家抱水吞、各躰之者迄不殘具ニ爲申含、村限御請連判證文差上候様ニ仕、當檢見廻村之節所々ニおひて、村々庄屋名主共江尙又直ニ巨細ニ申渡、末迄急度爲相守候様ニ可仕候。

一陣屋有之者は早々申遣、御代官所御預所村々組合限、總代之者陣屋江呼出、先ツ元ハニ右之趣爲申渡、村限ニ御請連判證文差上、其外前條之趣取計候様ニ可仕候、以上。

卯七月、 在府御代官、

一村限總代之者御請申上候一札之事、

右之通此度委細ニ被仰渡奉承知候、私共組合村々爲總代罷出御請仕候上は、右委被仰渡之趣以來忘却不仕之様ニ、村々總百姓名子家抱水吞等迄、巨細ニ爲申聞急度相守候様ニ可仕候、尤一村限總百姓連判御請書差上可申候、若以來違失之者有之候ハ、如何様之曲事ニも可仰付候、爲後日證文差上申所、仍而如件。

年号月日、

出羽國村山郡、

總代名主五人、

御役所、

同年同月、堀田領各村名主等、請狀ヲ啓申ス。

〔江俣文書〕

一村限御請申上候一札之事、

一前々々數被仰渡候趣、急度相守可申處、相違仕候者茂御座候段、御奉行所々達而御聞候ニ付、爾

今相改前々御制禁被仰出候儀共、遂一急度相守可申旨被仰渡候趣、村中一統奉承知逸々奉畏候、前々被仰出候書付、名主宅ニおいて讀之、村役人惣百姓名子家抱水吞迄一統奉承知候趣、左ニ御請申上候。

一 百姓其身ニ不應家作不仕、衣類は庄屋は妻子共ニ絹細布木綿脇指、百姓は布木綿斗り着し、此外はるり帯等ニ茂不致、染色は庄屋百姓共々紫紅梅ニ染間敷、外は何色ニ而茂かゝなし、染着可仕候事。

一 米は猥りニ不食常々雜穀を用ひ、且又諸事五穀之費被成候商賣不仕、名主惣百姓男女共ニ乗物御停止、佛事祭禮ニ至迄不似結搆仕間敷候事。

一 百姓之職ニなき藝能を翫ひ、或は高持拾石以下之百姓田畑配分仕、都而御代官御檢見之節、名主庄屋以下御手代御役人中江相頼、其禮物は村中出シ相贈候ニ付、御取箇は年々下免にて古來御免合ニ不引合、然共村方賑ひ候様ニは御見請不被遊、此等之類私之事共申合、音物計ヲ届ケ始種々之物入多キ故と被及御聞候間、自今以後急度相改、若又此旨百姓共は改候而、御代官御手代御役人中御改不被成候ニおいては、御代官様江御訴可申候、若御手代役人中ため、是迄之通りニ致都而御取箇高免之御訴訟等申上候者は、多年之罪科を御糺明被遊、急度重科ニ可被仰付事。

一 名主庄屋等惣百姓共江對し、無理非法之事共有之由被及御聞候、是又音物付届ケ、一向ニ仕べからざる旨被仰出候、若違犯之者は贈候者も、請候者も同罪ニ可被仰付事。

一 御代官様々御渡シ被遊候御割付諸帳面、小百姓共迄奉拜見印形致し候事、古來之御定メニ候處、近年は百姓共は委細之事は不存、庄屋名主私事共有之村方、物入之費多ク小百姓及難義候由被及御聞候、以來割付は勿論村入用之事共、一々小百姓共得心仕印形致、御代官様御吟味請可申事。

一 山林竹木猥りニ伐取候儀、是又古來御定候所、近年村普請等之節、不相應之太木猥りニ伐取候由被及御聞候、自今はたとへ御奉行御役人中御申付候共、心得がたき儀は早々御代官様江可申上候、尤竹木伐取候跡、御林は勿論百姓之林、りとも時節を不違苗木植立候様ニ可仕候事。

一 御普請所自普請所江不限、近年請負之者出來、當分利徳を専らニ致し、程なく破損可有事を不願、差路多年々御普請怠る事無之候、自今請負之者一切御停止ニ被仰付、其村自普請又は御代官様御吟味之上、御普請ニ可被仰付候、惣而御普請所之無差別、諸百姓力ヲ合大破ニ不及様ニ心掛可申事。

一 御普請之御奉行御役人様諸事被成方御差路有之、堅固ならざるは勿論御入用猥りニ多ク、或は百姓共江被下候米金を不被下置、私之事共於有之は、早速御代官様江可申上事。

一 村々大庄屋割元惣代之儀、村入用相掛大勢之中、不宜もの有之、身の上を高ぬり私事ヲいとなみ、御手代御役人中江申合、末々百姓共ニ及難義候由被及御聞候、自今大庄屋割元惣代御停止ニ被仰付、其村之名主庄屋五人組申合、諸事相慎可相勤候、若大庄屋之類無之候而不叶村方は、御代官様江可申上事。

一 惣而公事訴訟之旨有之時、御手代御役人中、其村名主庄屋押置候様ニ被及御聞候、筋あき口論と意見を茂可申聞候得共、是等之儀茂なく一向差押置儀、小百姓及難義候、又候御仕置茂不行

屈所も有之候、自今名主庄屋之類私の計ひとして押不置、御代官様江申上御裁許可請事。
一 御年貢納方ニ付御藏役人之方ニ而相滞り候様子も被及御聞、又御用ニ付御城下〇罷出候ニ
茂、御手代御役中之所縁を以、百姓宿定過分之入用多ク、百姓及難義候由被及御聞候、自今如何
様之子細ニ候共其事之次第、御代官様江訴可申事。

一 公事訴訟有之時、御役人中迄申入本望相叫候由を申、又は御加増所替等之節、其御掛り之御役
人中江取成を頼、其御禮物之料として無量之費有之由被及御聞候、御公儀様御沙汰之事、内
證ニ而不相叶事之候、其道理を分別仕、自今何方様之被仰聞候事たりとも、信事仕間敷候事。

一 田畑配分之儀、高拾石地面壹町〇すくなく分ケ候儀御停止ニ候、尤分ケ方ニかきらす、残り高
も此定〇少ク相殘し申間敷候、然上〇高貳拾石地面貳町〇少キ田地配分不相成候間、厄介人
有之者〇在所ニ而耕作之働ニ而渡世爲致、或は相應之奉公ニ差出可申事。

一 新田出來之儀、宜候得共古田畑之障りニ不成所開發可被仰付、且又食物は勿論其外諸色潤澤
ニ候共、猥りニつかひすて申間敷賣買仕候、諸色別而不成と申者も無之處、此上物數多仕出
し候、迎人々分限を越て物を遣ひ候得〇事〇り不申國々之衰となり、不益之事ニ被思召候、米
穀并藥種之外〇諸事新規之品〇勿論有來ル物ニても、相増仕出候儀猥りニ仕間敷候事。

一 有來ル之外遊女見せ物賣買等ニ而、人集メ候義其所之賑ひを申立ルと云共、猥りニ申付候儀
仕間敷候、且又無謂諸商物俄ニ高直ニ仕間敷候、尤商物一所ニ請込下直ニ賣出し申間敷、國々
所々〇出候諸色運送等不自由ニ候歟、又〇途中之煩ひ無之様ニ可仕事。

一 百姓之子共を始侍奉公ニ出し、其後在所江引込刀差候儀、先主〇合力請候共力差候儀不相成
候、都而村方新地不可佛像建立、并百姓博奕諸勝負は不及申ニ、遊事等御停止ニ候事。

一 前々被仰出候御法度之趣、兼々私共江被仰聞候由ニは被思召候得共、末々之者は一通り被仰
渡候斗りよては、心ニ留メ覺候者は稀ニ而、御法度ニ違イ罪科ニ被仰付候は度々之事ニ候、剩
身之誤りを茂奉存者有之候、就夫在々ニ手跡之師坏は可有之候、左様之者申合手習之間ニ、重
々御法度書を始五人組帳、或は人々教ニ可成事手本ニ茂仕、讀覺候様ニ仕可然被思召候事。

一 近年度々水損ニ付御物成減し候得共、百姓共願次第、爲御救夫食種貸等爲之候、近年之義作茂
出來方いり、可有之候哉、風水早無損亡之程、茂難計事ニ付、尤損毛の品々〇御救之義も可被
仰付候得共、年々願之通りニ御救難成義ニ候間、兼而百姓共其心得仕夏中も勤辨いさし、先つ

は損毛ニ付不及御救ニ取續候様ニ、心りけ可申旨被仰渡候之事。
右之通前々〇被仰出候儀共、尙又此度村役人讀候而、村中惣百姓名子家抱水吞迄一統ニ奉承
知、此度之被仰渡共々名主組頭ヲ始、村中一同ニ奉畏候、然上は銘々妻子召仕等迄具ニ申合、自
今以後忘却不仕急度相守、聊以違背仕間敷候、若以來右之趣相背候は、何分之御咎ニも可被
仰付候、村中連印之御請書證文差上申所、仍而如件。

寶曆九年卯七月、名主組頭惣百姓、連印

同十年庚辰四月、將軍德川家重、職ヲ世子家治ニ讓ル。

同年九月、長崎村名主久五郎等銘細帳ヲ、幕府代官所柴橋役所ニ啓申ス。

〔長崎村文書〕

寬文十二子年、松平清兵衛様御檢地御水帳七冊。

一高三千六拾九石貳斗七升八合、田畑屋鋪共、

此反別貳百五拾三町貳反壹畝三步。

田高貳千三拾貳石九斗七升六合。

此反別百廿貳町八反貳畝拾七步。

畑高千三拾六石三斗貳合。

此反別百三拾町三反八畝拾六步。

此譯。

高壹石六斗。

郷御藏御陣屋鋪引。

高百貳拾三石七斗七升五合。

畑方前々川欠引。

高五拾四石壹斗七升五合。

畑方已寅戌亥川欠引。

高三拾七石七斗七升八合。

田方去^ル已溜井鋪引。

高九石八斗壹升四合。

田方戌溜井堀堤鋪引。

高五石貳斗九升。

畑方已溜井堤鋪引。

高拾三石六斗貳升七合。

畑方去子川欠引。

高三石六斗八升六合。

田方戌石砂置引。

高貳百六石貳斗三升貳合。

田方去丑石砂置引。

高貳百拾石七斗三升貳合。

畑方去丑川欠石砂置引。

小以六百六拾六石七斗六升八合。

高貳百四拾四石五斗七升。

此^レ已^レ付。

石盛^{廿、廿二、廿三、廿四、廿五}

上田拾壹町五反七畝五步。

七町三反九畝五步。

森廿。

分米百四拾七石八斗三升三合。

壹町八反五畝九步。

森廿貳。

分米四拾石七斗六升六合。

五反壹畝七步。

森廿三。

分米拾壹石七斗八升四合。

壹町壹反廿九步。

森廿四。

分米貳拾八石三斗壹升貳合。

六反三畝拾五步。

森廿五。

分米拾五石八斗七升五合。

高七百八石五升。

中田三拾八町貳反壹畝拾三步。

此^レ已^レ付。

石盛^{十七、十八、十九、廿、廿一、廿二、廿三}

四町貳反七步。

森十七。

分米七拾壹石四斗四升。

廿六町九反壹畝五步。

分米四百八拾四石四斗壹升。

壹町壹反壹畝廿三步。

分米貳拾壹石貳斗三升六合。

五反九畝八步。

分米拾三石八斗五升三合。

四町八反五畝拾六步。

分米百六石八斗壹升七合。

五反三畝拾四步。

分米拾貳石貳斗九升四合。

高七百九拾九石七升壹合。

下田四拾八町五反七畝六步。

此口。

貳町三反壹畝九步。

分米三拾四石六斗九升五合。

三拾八町四反九畝拾四步。

分米六百拾五石九斗壹升五合。

森十八。

森十九。

森廿。

森廿貳。

森廿三。

石盛十五、十六、十七、十八、十九、廿。

森十五。

森十六。

貳反四畝貳拾七步。

分米四石貳斗三升三合。

壹町四反廿三步。

分米貳拾五石三斗三升八合。

三町貳反六畝九步。

分米六拾壹石九斗九升七合。

貳町八反四畝拾四步。

分米五拾六石八斗九升三合。

高貳百八拾壹石貳斗八升五合。

下々田貳拾四町四反六畝廿三步。

石盛十五、十六、十七、十八、十九、廿。

此口。

廿壹町七反八畝貳步。

分米貳百三拾九石五斗八升七合。

貳反八畝壹步。

分米三石六斗四升四合。

壹町壹畝拾五步。

分米拾五石貳斗貳升五合。

八反貳畝廿八步。

森十七。

森十八。

森十九。

森廿。

森拾壹。

森拾三。

森十五。

森十六。

分米拾三石貳斗六升九合

五反六畝七步

森十七

分米九石五斗六升

高百八拾石貳斗八升三合

上畑拾八町貳畝廿五步

石盛十

高百廿三石四斗八升三合

中畑拾三町七反貳畝壹步

石盛九

高三百五拾八石八升

下畑四拾六町壹反三畝拾步

石盛六、八

此わけ

四拾町六反四畝步

分米三百廿五石壹斗貳升

五町四反九畝拾步

森六

分米三拾貳石九斗六升

高貳百廿四石八斗三升四合

下々畑四拾町九反五畝廿壹步

石盛五、六

此わけ

貳拾町四畝廿六步

森六

分米百貳拾石貳斗九升貳合

貳拾町九反貳拾五步

森五

分米百四石五斗四升貳合

高四拾八石貳斗貳合

屋敷拾壹町三反八畝拾九步

石盛十三

高壹石六斗

屋敷壹反六畝步

郷御藏御陣屋敷引

田反別百貳拾貳町八反貳畝拾七步

高貳千三拾貳石九斗七升六合

合 畑反別百三拾町三反八畝拾六步

高千三拾六石三斗貳合

一高貳百貳拾九石三斗壹升六合 同所新田

此反別廿七町九反八畝九步

高百六拾三石貳斗五升壹合

内 拾四町八反四畝三步 田方

高六拾六石六升五合

拾三町壹反四畝六步

畑方

此譯

高百六拾三石貳斗五升壹合

下々田拾四町八反四畝三步

石盛十一

壹畝三步

前々川欠引

内 分米壹斗貳升壹合

成川欠引

四反壹畝拾五步

分米四石五斗六升五合

高百五拾八石五斗六升五合

殘拾四町四反壹畝拾五步

高貳石壹斗三升

下畑三反五畝拾五步

石盛六

高六十五石九斗三升五合

下々畑拾貳町七反八畝廿壹步

石盛五

壹町四反壹畝廿四步

前々川欠引

分米七石九升

内 八反五畝步

成川欠引

分米四石二斗五升

九石四畝六步

去々丑石砂買引

分米四石七斗壹升

高四拾七石八斗八升五合

殘九町五反七畝廿壹步

寬保元酉年、佐山半次郎様御檢地水帳壹冊

一高五拾貳石壹升九合

大瀧原新田

此反別貳拾壹町五反六畝貳步、地主、源右衛門

内

高拾石六升壹合

去々丑川欠引

此反別三町三反六畝廿貳步

殘高四拾壹石九斗五升八合

此反別拾八町壹反九畝拾步

延享貳丑年、上杉民部大輔様御檢地水帳壹冊

一高六石三斗三合

中川原

此反別壹町八反三畝三步

去々丑石砂置引

一田七反八畝拾六步

見取

一畑八反貳畝廿六步

同斷

此取米八斗貳升九合

一米貳斗

川窪之内、野御年貢

一永三拾四文

漆之代定納

一永拾壹文、
同實之代定納、
鳥捕札御改永、

一永九貫九百貳拾貳文五分、廣瀬川窪、草萱御年貢、

此反別御檢見地帳ニも無御座候得共、反別六十三町歩於テ、古來申傳迄ニ御座候、御役永銘持ニ候、上納仕候、

當村、他村へ越石高、

高四石六斗五升六合、
寺津村へ、

高七石貳升五合、
中野目村へ、

高壹石七斗三升九合、
達磨寺村へ、

高四拾九石四斗貳升壹合、
金澤村へ、

高七拾九石五斗五升五合、
柳澤村へ、

高七拾三石壹升壹合、
土橋村へ、

高五百五拾貳石六斗七升五合、
岡村へ、

高五拾九石四斗五升貳合、
小鹽村へ、

高四拾壹石貳斗八合、
平鹽村へ、

高三斗四合、
山野邊村へ、

高六石四升壹合、
寒河江へ、

高壹石三斗七升七合、
高屋村へ、

八百七拾六石四斗六升四合、

一御除地畑三反七畝步、但寺中門前外畑共ニ、
同宗圓同寺、

二右同斷田五反廿貳步、
同宗天性寺、

一右同斷屋敷壹反貳畝步、
淨土宗頼圓寺、

一御陣屋敷六畝步、
是は陣屋御座候而御引高罷成、御年貢上納不仕、尤高懸り諸入用は、村方ニテ相勤申候、卅年以前町方出火之節、燒失仕御屋鋪罷有候、

二郷御藏三軒、但壹軒、
壹軒、
壹軒、
此敷地壹反步古來、館跡ニ御座候、御年貢上納不仕、諸入用村方ニテ相勤申候、尤修葺等村方ニテ出錢相勤申候、定番壹人付置御米供置候節は、村方、晝夜加番仕候、

二御高札場、但御札數四枚、

二市日、每月六齋、
八日、十四日、十八日、廿四日、廿八日、柳町、

外六月廿八日、晦日迄、三日之内、市相立申候、此節は他國ノ者入來申候、

一馬市、七月朔日、同七日迄、古來、立來申候、

此節は他所他國、賣馬參り賣買仕、尤關東江登り馬は、松原口通御判申請候ニ付、馬代金壹兩ニ付、鑑八拾文、差上、右馬形錢取立之儀は、馬宿共、直段書附差出、右者共吟味仕、下手形

差上ケ通り御判申請候、尤其節御役所より、御役人様御壹人御出役被遊候、

二橋四ヶ所

是は村方悪水落來り、村方四方へ爲往來通路、入用村方ニテ相勤申候、其外小橋五ヶ所入用ニ、右同斷勤申候。

一溜井貳ヶ所

是は御支配所同村土橋村入會、山野之内ニ御座候、尤諸入用人足等村々割合ニテ、水下反別高ニ割相勤申候、大破之節は組會村割ニ御願申上、修葺仕來申候。

一同貳ヶ所

是は御支配所金澤村山之内ニ御座候、諸入用人足等長崎村、柳澤村、土橋村、右四ヶ村割合勤來申候、大破之節は組會村割ニ御願申上、修葺仕來申候。

一溜井壹ヶ所

是は御支配所柳澤村山之内ニ御座候、入用人足等之儀は、四ヶ村ニテ相勤申候。

一新溜井壹ヶ所

是は長崎村地去ル已年御願申上候、堤敷高承引被成下御年貢御免、人足諸入用御扶持米等被下置、つき立土橋村長崎村用水ニ罷成候、尤こみさらへ等仕候節、組會村々助入人足御願申上候、普請仕來申候。

一秣場貳ヶ所

川窪之内、
上川原之内、

一入會山林方之面ニ御座候

是の西へ貳里程、北南へ壹里程、御支配所柳澤村、金澤村、土橋村、岡村、長瀨御支配所小鹽村六ヶ村入會山ニ御座候、草刈干仕候。

一最上川渡船壹艘

但、川巾大ク平均六十間位、
さうへ通庄内六十里越過リ

此渡守六人雇置申候、渡舟入用之儀、村方百姓自分入用を以拵立申候、尤此岸江御城米御船積、酒田へ運送仕候、御支配所金澤村、柳澤村、土橋村、岡村、達磨寺村、平鹽村、中郷村、長瀨御支配所小鹽村、尤須川早水之節、御私領米御舟積御座候、其外商人酒田下シ之分運送仕候。

一須川小渡舟壹艘

但、川巾大ク三十五間程、
寺津村天童通リ

此渡舟入用候、最寄村々割合を以相勤申候、舟賃定も無御座候、相對を以賃錢相懸り通申候、渡守壹人雇置申候。

一古館跡御座候處、御檢地之節畑ニ罷成、堀貳ヶ所居村之内ニ御座候、御田地用水ニ有之候

一御廻米津出之儀、郷御藏、河岸場迄五丁步程御座候、酒田湊迄川路六十壹里程、御運賃之儀者百俵ニ付、右湊迄六俵御上申候、御定ニテ被下置候、湊ニテ藏敷無御座候、瀬行之儀者海船出船之節、賃錢御拂被遊候得共、百姓ハ出錢不仕候。

一馬繼之儀、北寒河江、南ハ舟町、西ハ左澤、右三ヶ所江古來ハ往來之人馬、村方市場之者共六拾軒ニテ繼來申候、御用之人馬賃錢等御定ハ無御座候、近邊往還御定リ之積を以請取申事ニ御座候、尤問屋壹軒給米を吳村方ニテ頼置申候、爲御用と晝夜定番貳人宛町中より、相勤申事ニ御座候。

寒河江道法壹里半。

本馬六拾六文、輕尻四拾四文、人足三拾三文、船町江道法壹里。

本馬貳拾五文、輕尻拾七文、人足拾三文、左澤へ道法貳里半。

本馬百拾貳文、輕尻七拾五文、人足五拾六文、一天水場三拾丁步余、本田新田共。

一稻草おはりぶんご、白稻ぢやうこく、さんすけ餅。

一田畑肥シ下こひ荏粕せうちう粕米糠苧敷等仕候。

一田方種粳壹反ニ付六升位。

一當村土地黒ほこ砂こみ野眞土。

一桑楮茶無御座候。

一田一作ニ御座候、畑作物大麥大豆小豆紅花重作り申候、其外菜大根粟ひへそば青芋たここぼさ少々作り申候。

一絹袖織出賣買仕候者無御座候、尤布木綿少々着用織申候。

一田畑の外稼無御座候。

一百姓四壁桃とも、栗、其外樹木無御座候。

一松材木等之儀、村方へ出不申候得共、左澤山之内へ最上川を流し參候故、少々賣買仕候。

一百姓林無御座候。

一御普請所無御座候。

一薪取場無御座候。

二百姓雜木林壹ヶ所、大瀧新田之内、地主、源右衛門。

一八幡ほこら、右同斷、地主、同人。

一午頭天王宮、別當、長大寺。

一天神宮ほこら貳ヶ所、別當、圓同寺、天性寺。

一山王ほこら壹ヶ所、小仁坊。

二地藏堂四ヶ所。

二熊野堂、壹ヶ所、枝部落合之内。

二くわん音堂壹ヶ所、枝郷新田之内。

一庚申塚三ヶ所、川原之内ニ。

一寺六ヶ寺、本寺、米澤瑞龍院、末寺、圓同寺、同斷、天性寺、圓同寺、柳澤寺、山形寶幢寺、末寺、正法寺、天童佛向寺、末寺、滿願寺、山形尊稱寺、末寺、賴圓寺。

一山伏四軒、當山流、長大寺、小仁坊、本山流、昌常院、光秀院。

一醫師四人、本道貳人、針醫壹人、外科壹人。

一酒屋貳軒、但元祿年中御改造高、三石、利右衛門。

五石六斗貳升五合、源右衛門。

外三軒造高貳石七斗五升、彌左衛門、五石六斗貳升五合、孫左衛門、壹石八斗七升四合、左

次兵衛 近年困窮仕候而相止、罷有酒株所持仕候、

- 一 桶屋貳人、
 - 一 大工六人、
 - 一 木挽貳人、
 - 一 馬喰五人、
 - 一 座頭三人、
 - 一 道心者三人、
 - 一 非人貳人、
 - 一 定番壹人、
 - 一 問屋壹人、
 - 一 馬指壹人、
 - 一 御殿番壹人、
 - 一 升取三人、
 - 一 組頭三人、
 - 一 名主三人、
 - 一 男馬、
 - 一 御林無御座候、
 - 一 御竹林無御座候、
- 給米七俵、
- 給米同斷、
- 給米五表、
- 給米五表、
- 但壹人ニ付五表宛、
- 但壹人ニ付右同斷、
- 但壹人ニ付右同斷、
- 村中拾六疋、

- 一 御朱印寺社無御座候、
- 一 一切支丹類族無御座候、
- 一 鐵砲所持之者無御座候、
- 一 刀脇指名字御免之者無御座候、
- 一 山運上物無御座候、
- 一 浪人無御座候、
- 一 鍛冶無御座候、
- 一 行人無御座候、
- 一 猿引無御座候、
- 一 穢多無御座候、
- 一 牛無御座候、
- 一 家數四百三拾貳軒、
- 一 百姓百貳拾貳軒、
- 一 小高水吞百姓貳百七拾壹軒、
- 一 商人廿五軒、
- 一 寺六ヶ寺、
- 一 山伏四軒、
- 一 醫師四軒、

一人數千九百三十拾貳人、

內千七拾貳人、男、

內拾八人、出家、九人、山伏、

八百六拾人、女、

一枝郷貳ヶ所、文右衛門新田、落合、

右之通長崎村差出明細書上申處、相違無御座候以上、

寶曆十辰九月、

名主、久五郎、

全、治兵衛、

組頭、善藏、

全、七郎右衛門、

全、長太郎、

惣百姓代、

利右衛門、

全、源右衛門、

全、彌次兵衛、

柴橋、

小田切新五郎様、

御役所、

同十一年辛巳五月、奈良澤村長龍寺、越王山官林境界ノコトヲ、幕府代官辻六郎左衛門手代ニ具申ス、

〔長龍寺文書〕

差上申一札之事、

一辻六郎左衛門様御代官所、羽州村山郡奈良澤村越王山御林之義、今般木敷反別御改被成候處、右御林麓拙僧境内有候ニ付、不相分様ニ被思召、拙僧立合可申旨、勿論以來等之謂等、御承知被成旨被仰聞承知仕候、

此儀原町村之義者、奈良澤村枝郷ニ御座候處、天正九巳年高相分り原町村與申者、元祿十丑年ノ寛保二戌年迄松平大和守様御領分之處、同年ノ御料所ニ相成申候、尤拙僧寺内者原町村地内ニ御座候得共、先住ノ申送りニ而、是迄境内ニ持來申候、依之前々ノ申送り候御林境江立會、委細申上候通先年奈良澤村枝郷ニ付、原町村地内住居仕候得共、當寺義者先年ノ奈良澤村長龍寺與相記申候ニ付、奈良澤村原町村與相分り候得共、先年ノ今以奈良澤村與相記申候、

右御尋ニ付申上候通、少茂相違無御座候以上、

本寺羽州村山郡山形領法祥寺、

内方鐵五郎御代官所、

寶曆十一年巳五月廿七日、長龍寺、

内方鐵五郎御代官所、

奈良澤村、利 八、

組 頭、新右衛門、

百姓代、久 藏、

辻六郎左衛門様、

御手代、

古川郷左衛門殿、

飯嶋 三 治殿、

右長龍寺被申候通、私共一同立會承知仕候所、少茂相違無御座候、仍奥書印形差上申候、以上、

辻六郎左衛門様御代官所、

原町村、兵 藏、

組 頭、卯兵衛、

同、又兵衛、

百姓代、喜右衛門、

同年十一月、上山城主山城守松平信將、大坂城山里丸ニ卒ス、年四十一、男信享襲ク、

〔藤井御傳記〕

十一月五日大坂山里丸ニ卒去し給ふ、御齡ひ四十一、御法諡清安院殿前城州順譽和光鳳瑞大居士と申奉る、松光寺へ御送葬なり、君射術を善くし給ひ、常に御居室からひに御書院に巻稿

を設け置き、絶すこれを演し、八分の強弓をもて試み給ふといふ、また和歌を好ませ給ひ、御詠草若干首あり、

同十二年壬午四月、御料巡見使中村友八郎、山本奎左衛門、青木武兵衛、私領巡見使榊原左兵衛、布施藤五郎、久松彦左衛門等村山郡ヲ巡見ス、

〔漆山代官記〕

一寶曆十二年午ノ四月、御巡見様御通行御公料御巡見、四月廿九日漆山御泊り、

中村友八郎様、御宿、善左衛門、

山本奎左衛門様、同、善 七、

青木武兵衛様、同、傳 吉、

御私領御巡見様五月五日山形御泊り、

榊原左兵衛様、中野村御休、淨蓮寺、

布施藤五郎様、同、總 内、

久松久右衛門様、同、光國寺、

人馬共ニ漆山ノ中野村相詰申候、以上、

此度御巡見様御下着ニ付、御案内可仕旨御役所ノ被仰、御私領之御巡見御通行之砌、榊原左兵衛様北之方楯山を御覽被遊御尋之處、天童村楯跡之由申上候へハ、委細御尋故ニ左ニ申上候、

〔省〕

後櫻町天皇、同年十一月、幕府、漆山領上山寺村ト、田麥野村薪山ノ論訴ヲ裁決ス。

〔山寺村文書〕

上山寺村と田麥野村薪山出入裁許之事。

上山寺訴之趣、面白山麓根生山ノ持山ニ而山役永相納、木小屋を掛け炭焼出し候而は、里方用水江障候故薪斗り稼來處、五ヶ年以前二月、田麥野山口兩村より峰越ニ罷越、山稼之道具等取上、木小屋ニ差置薪は焼拂、麓ニ積置薪は押流差障ニ付、人足之内三人留置所、書付差出し相歸シ及出入處、扱人有之及内濟、後四年以前又候山内江踏込、剩炭竈を建木立伐採用水障旨訴之、田麥野山口兩村答之趣、面白山麓西之方、字會澤藤瀧ニ依てろ平竈四勺竈三拾竈、合六ヶ所田麥野山口兩村持山ニ而山役永相納、山續字行澤之兩村并上山寺村入會、五ヶ年以前山道繕ひ、人足大洪水ニ付上山寺地内を無斷通る届を請候故、其旨書付差出し、上山寺村留置人足を請取候、木小屋薪等ニ障儀無之旨答、右爭論以繪圖面就難決、

御代官淺井作右衛門、眞野宗重郎兩手代差遣令地改途吟味處、山内ニ炭竈之跡有之由、上山寺村雖申、炭焼出し候てハ用水ニ障間、薪斗り稼來之訴と不台符合、山口田麥野兩村より山内へ立入新道を付、并ニ四年以前兩村ハ炭竈拾ヶ所相立旨、障申其度ニ書付等も不取置、古道新道之差別も不分明、山内一体持山ニ申儀、上山寺申分離立、田麥野山口兩村ハ、行澤斗り上山寺入會、外六ヶ處ハ兩村持山之由雖申立、右山内ニ上山寺村ニ立石寺之田畑有之、縱今般糺之上初て相辨へ、其上炭竈四拾壹ヶ所ハ役永納來旨雖申、論山限炭竈相立證跡無之、田麥野山口兩村持山たる事是以難相立、薪燒拂又は押流山道具等取上候由、双方爭ひ證據取用ニ

ム、是又右山内江上山寺村ニ立石寺領、并上萩野塔村百姓山役永三百文余上山寺村相納、山口村寶幢寺百姓ハ、山口村一同炭竈役永三貫文相納、并里郷窪之目、成生、久ノ本、亂川、道滿、老野森、小關、天童、五日町、同中町、同小路町、矢の目、拾四ヶ所、山役永ハ不差出候へども、山道普請いたし、危朶枝木等步行持いたし來旨、双方申處無紛、因茲今般評議之上相立趣、訴訟方より二ノ澤、相手方行澤と唱ひ候處ハ、

立石寺領田畑有之、上山寺分たる事明白ニ付、訴訟方、用水川、相手方ニ而立會川唱ひ候處之、道端ニ塚を築、右塚ハ峰通北之方、田麥野山口持山境迄、繪圖面表筋之通、西之方上山寺持山ニ定、立石寺百姓上萩野戸村爲入會、訴訟方、根生澤東なめ澤、大なめ澤、沼澤、小なめ澤、相手方、よて會澤藤瀧ころてろ平竈四勺竈三十竈と唱候六ヶ處ハ、双方入會來段無相違ニ付、入會山極り、寶幢寺領百姓其之外窪野目外拾三ヶ所、并ニ立石寺領百姓上萩野戸村爲入會、山役永山道普請等ニ至迄仕來通りたるべし、勿論田麥野山口兩村炭竈ハ、右入會山ニ貳拾ヶ所、論外山ニ貳拾壹ヶ所、可相立裁許畢、仍後鑑繪圖面裏書各加印形、双方江下授條永守此旨不可違失者也。

寶曆十二年十一月六日、

小 左太
牧 大隅
安 彈正
石 備後

同十三年癸未八月、是ヨリ前、幕府漆山代官所ヲ廢シ、長瀨代官所ニ附屬ス、是ニ至リ高屋、仁田、藤内新田、小關、北目、藏増、門傳、若木、小鹽九ヶ村ヲ上杉重定ニ、七浦、十文字、高野、兩東山、大森、荒谷、貫津、田麥野八ヶ村ヲ尾花澤代官所ニ、鮎洗、中野門傳、成安、澁江、灰塚、島六ヶ村ヲ柴橋代官所ニ隸セシメ、其他ハ長瀨代官内方鐵五郎ヲシテ之ヲ支配セシム。

〔漆山代官記〕

一 寶曆十辰年より御替り也、

長瀨詰手代、

御代官、内方鐵五郎様、

大井五郎左衛門殿、

同、佐藤利助殿、

同、宮田左右吉殿、

同、林 民助殿、

漆山詰、

小島伴助殿、

同、平石林助殿、

此年五月廿二日江戸表ヨリ御代官替り被仰付、漆山御陣屋ハ潰れ、長瀨へ當分御預ニ成、六月十九日ニ御引渡相濟申候、依之翌巳ノ三月中迄、漆山附村々長瀨へ御用相勤メ、三月十三日ニ長

瀨より小島伴助殿、漆山役所御引越也、夫より四月十六日ニ江戸ヨリ平石林助殿御下着被成候、漆山附貳萬九千石餘也、明和元年申迄御支配、五ヶ年之内也、

一同(寶曆十三年)八月漆山附之内、高屋、仁田、藤内新田、小關、北目、藏増、門傳、若木、小鹽合九ヶ村、米澤之御預也。

一同七浦、十文字、高野、兩東山、大森、荒谷、貫津、田麥野合八ヶ村は、尾花澤の御預り也。

一 鮎洗、中野門傳、成安、澁江、灰塚、嶋六ヶ村は、柴橋の御預り也。

明和元年甲申六月、山形城主和泉守松平乗佑、大坂城代ヲ命セラレ、參河國西尾城ニ轉封セララル。

〔山形領主記〕

一六萬石、

松平和泉守乗佑、

寶曆十四年甲申六月九日、於江戸御奉書到來、大坂御城代蒙仰、三州西尾へ國替被仰付候趣、同十五日飛脚ニ而申來ル。

同年七月、村山郡中野村淨土眞宗淨蓮寺、陣場村切支丹宗類族江俣村住百姓三右衛門ヲ埋葬ス、寺ハ上山城主松平信享ノ所領ナリ、仍テ之ヲ啓達ス。

〔江俣文書〕

指上申一札之事、

一出羽國村山郡陣場村百姓古切支丹、久内三女本人同前免、次男七兵衛、三右衛門、同國同郡

江俣村ニ居住仕罷有候所、明和元年七月廿日、七拾七歳ニ而病死仕候ニ付、御注進申上候得者、爲御檢使増野段藏殿、永田伸左衛門殿被遣、死骸御吟味之上病死ニ紛依無御座候、右之死骸請取引導仕、則寺内江土葬ニ取置申所實正ニ御座候、若以後相違之儀、茂御座候ハ、拙僧如何様之曲事ニ茂可被仰付候爲、後日仍如件。

村山郡上ノ山領中野村、

浄土眞宗、

浄蓮寺、

明和元年七月廿日、

福井左兵衛殿、

小林喜藤治殿、

同年八月、酒田港問屋等、最上川通船諸賣買品ノ口錢ヲ増加ス、

〔齋藤氏記録〕

庄内諸賣買物過口錢初覺、

享保八卯年月初、

金百兩ニ付、賣方三分
買方三分

右過口錢被仰付候趣意は、御城米酒田港出舟之節、往古々川舟ニ而瀬取候様、浪風荒キ節は、川舟平田ニ而荒夕御座候旨申立、椀舟廿五艘仕立置、右御用爲番舟ニ付置候、申立を以取之來候、
右願人請負人、

彌次兵衛

丹兵衛

右願ニ付五七年被仰付、其以後、

直御取立ニ而支配人、

加賀屋多右衛門、

玉屋久右衛門、

右兩人貳年相勤候其已後、

酒田町大庄屋、

渡部半内、

右五七年相勤病死其已後、

鶴岡御番屋、

帶刀御免、奥井長兵衛、

御扶持拾人扶持、

然ル處、寶曆三卯年卯年迄七ヶ年、旅人共江御願ニ付、賣買商人とも金壹兩貳朱ツ、相増都合壹兩三分貳朱ニ而、双方三兩三分ニ相成候、
然ル處、

寶曆十四申、

引受支配人酒田町、

取立人、
本間 久四郎、

商人問屋、

板屋喜左衛門、

尾關 又兵衛、

真島 傳兵衛、

根上 善兵衛、

越後屋三右衛門、

本間 幸三郎、

右六人之者共大積り四五千兩位も取立、四千兩も庄内様江差上、其外之儀は世話料ニ相成候與申事ニ御座候。

右出羽最上之義は、庄内御領酒田湊一方口ニ而諸商仕來候、織物之義は、最上運賃其外酒田湊問屋方ニ而藏敷口錢斗取立來り候處、享保八卯年ハ過口錢與御名付、増口錢役新規ニ餘慶之御役、御取立賣買物ニ相成、商人方ニ而百姓ハ買調候、諸雜物江増役出見込勘定仕相成申、商人ハ百姓方へ賣拂、御諸品は増口錢出高直ニ罷成、捌方往古ハは双方別而難手敷、商人一統至極不盛ニ罷成、勿論百姓方ニ而自然與困窮相募り候様成行、難儀其事ニ奉存候、左候へは酒田港一方口ニ而餘國へ指出賣買可仕様無御座迷惑ニ奉存候、庄内様ハ被仰上候ニ而、御下知相濟候上御取立ニ相成候、過口錢之義ニ御座候ハ、御觸等も可有御座御儀トは奉存候へ共、御上

様之義は不奉存、庄内様ニ而新規ニ御取立之義與奉存候間、臨時之事故御料私領、最上一統難義彌増次第ニ、困窮可仕與歎敷奉存候。

申ノ八月、大石田ニ而差上ル、

上ノ山、原田 團藏、新庄、澁谷九郎兵衛、

山形、小清水庄兵衛、左澤、安藤 甚兵衛、

小條長右衛門、大塚又左衛門、

市村 市郎治、高橋御宿、佐藤 忠藏、

柏倉、中村 伍兵衛、天童、仲 忠七、

賣口錢は百兩ニ付壹兩貳分、過口錢は百兩ニ付壹兩三分貳朱也。

同年九月、是ヨリ前、山形城主松平乗佑ノ移封セラル、ヤ、幕府陸奥國若松城主松平容綏ヲシテ之ヲ番守セシメ、代官前澤藤十郎ヲシテ、乗佑所領ノ郷村ヲ支配セシム、是ノ日乗佑執事水野宗右衛門、杉戸次郎左衛門ヲシテ、城地ヲ容綏ノ將武川助右衛門ニ、郷村ヲ藤十郎ニ交付セシム、上使松平藤十郎、御目附松田善右衛門之ヲ監視ス、幕府又容綏ニ命シ、山形城ニ三兩郭ヲ破却シ、獨リ牙城ヲ留存セシム、市民嘆惜セザルハナシ。

〔山形領主記〕

明和元年甲申年九月廿八日霽上、松平藤十郎御目附松田善右衛門立合、御代官前澤藤十郎、松平肥後守家老武川助右衛門、松平和泉守家老水野宗右衛門、杉戸次郎右衛門、御城地引渡相濟、

上使、松平藤十郎、

七日町、旅宿、清水水庄藏、

御目附、松田善右衛門、

旅籠町、後藤小平治、

御代官、前澤藤十郎、

同、佐久間善藏、

十日町、

御城番、武川助右衛門、

同、佐藤長右衛門、

但壹年切交代、城外之者城内へ出入を禁す、其後二三ノ丸新田開發被仰付候ニ付、城番を御本丸計相勤、小清水水庄藏脇へ陣屋立、(代官前川藤十郎陣屋ナリ)

一江戸表の御下知之由ニ而、御城内二三ノ丸四壁樹木、御居屋百間藏、并家中屋敷不殘御拂、其跡新田開發町中江被仰付候處、町方ニテ四五人致請負、二三ノ丸平地悉く田畑ニ致し、前代未聞之事共也、右四壁之樹木、并一家中之屑屋之分り、皆薪ニ相拂候故、當年は薪甚下直ニ相成候、

同二年乙酉七月、矢野目村名主等、山寺堰引水ノコトヲ、長瀬役所ニ請願ス、

〔矢野目村文書〕

乍恐書付を以奉願上候御事、

一矢野目村當夏大旱損ニ付、先達山寺堰通水之儀奉願上候所、御威光を以早速前々之通被仰付、則當月朔日同三日迄無相違相通、此水之潤を以早枯ニ相成候田方、大分ニ相助立毛も相

直り可申與難有奉、存候、併山寺堰水之儀ハ、前願書ニ申上候通り、矢野目村田方用水ニ有之候儀ハ、他郷ニ茂隱無之勿論、小枝郷留水と前々ハ有來候儀ニ而、田方水入用之節ハ何時成共、相通し申答之事ニ御座候、然ル所ニ當年之旱魃ニ、太分田方相痛候所ニ、有來候通水天童ニ而相滯候段、難得其意奉、存候、依之其節早速右之趣、又々御願申上度奉、存候得者、御威光を以被仰付被下置候留水、先相通候得而、大切之御田地相助申度奉、存候、指樣延引仕候、往古ハ天童江相斷次第、早速留札渡無相違相通申候、尤澤等有之候得而、或ハ一兩日位相延申義ハ有之候得共、三日と及延引候儀は無之候所ニ、就中近年は段々一日二日と年々毎ニ相延、其上留札之日限相詰メ、當村勝手ニ不相成時節、坏ニ相通候様ニ相成、甚以迷惑奉、存候、剩當年ハ六七日相延、御役所江奉願上様成ル致方難得其意奉、存候、往古右山寺堰與申は、矢野目村一本達之用水ニ而有之、今以矢野目古堰與申候得而、荒谷村御林之内ニ其形も有之候所、何時頃ハ歎双方相對を以天童村へ相加り、小枝郷數多役介仕候のミあらず、漸壹ケ年ニ四五度、或ハ六七度之通水して不任意ニ、其上當年は古例無之、矢野目村分大堰迄、留水札天童ハ相出、矢野目村分留切、天童分小枝郷へ相通候ニ付、右之趣百姓共願出候間、見届候所ニ、天童月番中町平三郎、留札ニ印形居番人ヲ付相通候間、當村ハ右之譯平三郎方へ申遣候得共、何様ニも得心不仕、前格ニも無之、當村分大堰、二口共ニ留切候故、若心得違も有之哉と、色々内々ニ而申遣候得共、得心不仕、彌々權付ニ而相通候ニ付、無是非組頭遣例格ニ不相成様ニと奉、存、右之留札當村へ取置申候、併暫之内水も相通し候儀、殊ニ隣村水上之儀ニ御座候得は、何分ニも打捨差置申候所ニ、此度之留水相滯候儀、大郷之威勢を以小郷漫り、古來ハ之矢野目堰天童名主支配ニ

仕候、左候得而は、彼是當村田方、相續成兼可申候ニ付、無據奉願上候、前々之通此度、斷次第、留札早速相出候様ニ、被仰付被下置度奉願上候、若又相滯子細等、茂有之候は、往古之通、古堰の水通し候様ニ、被仰付被下置度奉願上候御事。

一留水之儀、當村田方へ相通し可申與存候、前廉ニ右小枝郷懸り田方百姓共内見仕、又堰水多少無障り時節見合、壹時を爭相通申儀ニ、御座候所ニ、相通し候度毎ニ、日柄刻限を相延候内ニ、水勢不足ニ相成、又は田方不痛場所白割ニ相成候折、水相通候得而も其甲斐も無之、多分之人足斗り費し候儀ニ、御座候得は、已ッから通水相止申儀も有之、左候得は、只今迄有來候山寺堰、有ルか無シヨ罷成迷惑ニ奉存候、既去ル享保年中松平大和守様御知行附之節、天童大庄や後藤與兵衛、當年ハ矢野目村へ留水不相成候由、新法ニ申遣候ニ付、御役所へ御訴申上候所ニ、前々之通早速被仰付留水仕候、其後又御公料ニ相成候得而、岩佐郷藏様御支配之節、名主理兵衛内番ニ而及出入ニ、御役所江奉願上候所、前格之通留水被仰付候、又當年も右之致方難心得奉存候、及出入ニ御役所江奉願上候得は、留水は仕候得共右申上候通、數多之人足を費し通水仕候得而も、其甲斐も無之時節ニ相成候得而、別而今年杯は、天童故ニ凶作仕候然は、大切之御田地相續之用水ニ難相成奉存候間、天童村堰へ不拘古來通候古堰、定水ニ相通候様ニ奉願上候、往古矢野目御田地は、山寺堰水目當仕、山寺堰は、矢野目地面を目當ニ見立候由、村年寄共段々申傳ニ致置候、殊ニ堰は、根元矢野目ニ紛無御座候を、只今ニ至り候得而は、天童名主共心得違ニ而候哉、矢野目堰迄、天童支配ニ仕候段、難得其意奉存候、誠ニ古堰與申は、御林之内ハ、直ニ矢野目へ相通り候得は、小枝郷も無之、壹本達ニ有之候、何分

御勘辨を以古來相通候古堰、水通候様ニ被爲仰付被下置度奉願上候、以上。

出羽國村山郡矢野目村、

明和二年酉七月、

名主、 仁右衛門、

組頭、 與 八、

百姓代、 儀兵衛、

(以下百姓連印)

長瀬、

御役所、

同年十一月、立石寺當役中性院、同寺奥院控書ヲ定ム。

〔立石寺文書〕

奥之院定、

一大聖初懺悔廿五歳ヨリ聖仲間入仕、壹ケ年ニ兩月相勤、其後月番廻相取候得共、近代仲間不足ニ付、廿歳ヨリ仲間入初懺悔兩月相勤候得共、一ケ月相勤廻ニ相入申候、尤初懺悔者前月廿一日ヨリ入堂仕、當番聖ヨリ作法傳授、一七日見習候内、初月は四十日相勤申候、十貳ケ寺現住ニ相成候は、如古來相改可申事。

附初懺悔日聖仲間江御齊被下候事、

一御内陣者大聖ヨリ外、他之者出入不爲致候得は、御院家様御入被遊候節、茂當番聖先立如初懺悔作法有之候、初懺悔相務候後者、何時成共當番聖江相斷、時々御内陣江御入被成候事。

附り御貫首初懺悔之節者、行水桶盟等新規ニ可仕候、尤初懺悔日朝聖中江御齊被下候事、
一大聖不勤之方於露顯者、仲間吟味之上聖相外し申候、但其院住職ニは相障り不申、御本坊江御披露ニテ相濟申候事、

一小聖兩人從御本坊御扶持被下置候へ共、奥ノ院ヲ預聖使者ニ候得者、仲間吟味ヲ以相定、御本坊江相達申迄ニ候、先年者年數無定爲相務候得共、長ク爲務候而は我儘ニモ有之故、近年小聖者三年季ニ相定メ申候、尤不勤之者有之節者、仲間吟味ヲ以下山爲致候共、御本坊江者御斷申上迄ニ而相濟申候事、

右之通先年より相定り、是迄右之格ニ致來候得共、條目無之ニ付爲向來書置申候以上、
明和二年乙酉霜月、 當役者、

中性院。

同四年丁亥三月、幕府諸代官ニ令シ、奢侈博奕ヲ禁止シ、農業ヲ獎勵セシム、

〔江俣文書〕

御代官并御預所役人江可申渡旨被仰出候御書付、

都而御料所之内國郡ニも寄候得共、關東筋并甲州邊は一赫人氣強ク、我意申募不宜者も致出來候、風儀之國柄ニ相聞、別而武藏下總上總常陸邊は不宜ものも有之、困窮之村方ニ而應之候而は、身分不相應ニ着服等、取飾候ものも有之、様相聞候博奕三笠附之義は、前々被仰出も有之、義ニ候得者、萬一内々右赫之義も有之、若右に携候者も有之候而は、農業等可致存も薄相成候故、御取箇江も響御年貢上納も不涉取村々年増ニ衰ひ、百姓共未進相募候ニ付而は、後年ニ至

荒地手餘地も出來之基ひニ而、困窮之村方離散欠落者等は、其品種々可有候得共、多分は村方不取締ニ而、不宜儀共相募、末々相續不相成様成行候之義、與相聞、豊作之年も其詮無之哉ニ候、其場所之支配之御代官、其土地之人氣、村々盛衰善惡を相考、御取毛筋は勿論、村内博奕三笠附等之吟味、常々心を用ひ、支配内不宜者有之候而は、一村之衰御損失之第一心得、具出精遂吟味取締候様、心掛候義、專要ニ候處、等閑之心得も有之哉、自分々々之吟味ニ而、召捕之義は稀成事ニ候、以來御代官支配所之内、不宜行跡之者、或は萬一博奕三笠附等致之者有之は、嚴敷尋出し遂吟味、是迄惣敷村方農業一赫ニ相成候様、可被取斗、村方ニ應じ不相應之身成候而、不宜筋相聞風聞たりとも、召捕可遂吟味候、尤捕違候而も不苦候間、右之趣御益御取締專一與相心得、心之及候ほど致出精候義、專要之事ニ候、
右之趣此度改申候間、關東筋は勿論、惣御代官御預所役人江可被申候、尤新規御代官被 仰付候、度々是又可申渡候、

明和四亥年三月、

同年八月、上野國小幡城主織田信浮、置賜郡高島ニ移封セラル、高島城付四千五百餘石、並ニ村山郡天童下一萬八千九百餘石ヲ賜フ、高島ハ上杉氏所管地タリ、因テ役所ヲ龜岡ニ移轉ス、

〔天童古事記〕

六代目織田美濃守信邦代、山縣大貳ト云軍學師ノ浪人ヲ召抱タルニ、公儀ヨリ御疑心掛リ、家

來共ノ不調法トナツテ蒙御勘氣、美濃守信邦、明和三年八月隱居、此時二十二才也、家老吉田玄蕃守胤、同年十月廿九日依命ニ蟄居、津田頼母爲貞公儀ヨリ追放、關定右衛門重照同斷、此外御家ノ長臣天野木造、柘高橋等數多斷絶ス、此時金紋ノ先箱等家格被召上、明和四年亥年上州小幡ヨリ置賜郡高畑古城ノ跡へ國替、上州小幡元和元ヨリ明和四迄百五十二年。

織田信浮幼名八百八、後左近將監從五位下、御年二才ノ時、信邦ノ弟君也。

一、明和四亥年宮村孫左衛門ヨリ、織田家へ御引渡、御高二萬石、内村山郡天童下二十ヶ村、芳賀門傳、奈良澤、荒谷、南北青柳、千手堂、成安、灰塚、中野、高楯、北目、中野目、寺津、小關、大清水、羽入、郡山、窪野目、此高壹萬八千九百六十六石四升三合五勺。

一、置賜郡高畑下六ヶ村、高畑、小郡山、相野森、柏木目、泉岡、鹽野森。

此高四千六百四十六石二斗五升三合壹勺。

一天童六日町、此高四千七百廿二石九斗三升。

明和四ヨリ天保元迄、六十三年高畑御在城。

同年閏九月、武藏國川越城主但馬守秋元涼朝、山形城ニ移封セラル。

〔史料雜集〕

秋元但馬守涼朝 六萬石。

明和四丁亥年九月十五日、武州川越所替被仰付。

〔採訪史料〕

秋元但馬守様山形城主ニ被仰付、武州川越所替、然共御殿家中之家一軒も無之、本丸計有之間、明和安永元年、家中家居建立有之、漸々と安永四年未十一月建立終りて、但馬守様山形へ御入部被成候。

同五年戊子三月、松平容綏、山形城番將小原恒藏、山形城ヲ御代官前澤藤十郎、郷村ヲ秋元涼朝ノ執事矢貝清太夫、福井市郎兵衛ニ交村ス、上使渡邊久藏、御目附稻垣求馬之ヲ監視ス。

〔山形領主記〕

一、秋元但馬守涼朝。

明和五戊子年三月廿五日卯ノ刻、御城地引渡相濟。

七日町、

上使、渡邊 久藏。 旅宿、小清水庄藏。

旅籠町、

御目附、稻垣 求馬。 同、後藤小平治。

七日町、

御代官、前澤藤十郎。 同、佐久間善藏。

十日町、

御城番、小原 恒藏。 同、佐藤長右衛門。

秋元家々老。

横町、
同、門屋勘四郎。

七日町、

同、八文字屋太右衛門。

領地之義、山形町中二萬石、在方小白川村、新山村、長谷堂村、狸森村、松原村、凡七ヶ村、但關所之場所計壹萬五千石也、餘は河内ニ而二萬石、川越ニ而五千石、都合六萬石也、其外先代領地之村廿貳ヶ郷、長瀨柴橋御料ニ相成候。

同年五月、山形城主但馬守秋元涼朝致仕、養子攝津守永朝家督ス。

〔全上〕

一秋元攝津守永朝、但馬守涼朝養子、實上田能登守義當二男

明和五戊子五月家督嚴隱、但馬守義壹岐守と號する趣、五月廿四日廻觸。

同六年己丑某月、野田彌市右衛門代官ニ任ス。

同年二月、幕府令シテ、公私領ノ人民徒黨強訴ノ際ハ、嚴ニ之ヲ捕縛シ、然ル後ニ所刑ヲ請ハシム。

〔採訪史料〕

大目附

遠國百姓共願を合、所々ニ而寄合手段を企、徇狀杯を出し、外村々之者共も、趣意は不辨して、不

得止事罷出大勢集、村役人之居宅、又は遺恨ニ存候者共之家作、并諸道具を打損し、吟味ニ相成候上ニ而、數ヶ條之願を申立候類も有之候得者、公儀を憚領主ニ而申宥、穩便ニ取鎮候義を專要ニ致候故、百姓共かさつニ相成、及浪藉不法之義有之候、百姓を憐候儀は勿論之事ニ候得共、右跡徒黨強訴を企、狼藉者共を手弱ニ取扱候而者、外場所ニ而も見習候様ニ可成行哉、以來御料所之百姓共願立候は、最寄之領主ハ人數を出し私領ニ而願立候は、其領主又は最寄の領主ハ、人數を出し、手強打散し、手當り候もの共は搦捕、願之趣理非不及沙汰取上不申、他所之引合有之は差出し、一領限ニ候は、其領主ニ而、遂吟味仕置之儀可被相伺候、萬石己下之知行所願立候節、同様ニ可被心得候、己上。

丑ノ二月、

右之通萬石以上之面々へ可被相觸候、萬石己下ニ而も知行所百姓願立候は、右準最寄之領主江早々掛合申合、可取計旨可被相觸候。

諸國百姓共願之筋有之候は、名主村役人等を以、定法之通可相願儀候處、大勢致徒黨候段不届ニ候、自今彌右之通相心得可申候、若心得違致徒黨候者、可取上願たり共、理非之不及沙汰無取上、其上急度仕置可申付候。

右之趣兼而御料私領百姓共江、御代官領主地頭ハ可相觸候。

二月、

同七年庚寅四月、荻野戸村山寺村ト、山野入合ニ關スルコトヲ、漆山役所ニ請願ス。

〔荻野戸村文書〕

乍恐書付を以て奉願上候事。

一山寺村山野之儀之、萩野戸村往古入會仕り、柴薪木置伐と不及申、泊伐流木等迄仕來申候、且又山寺御朱印地之内、萩野戸村ニ御座候、即山寺五百石之内と申傳ひ候、寺領之百姓も地方共ニ所持仕候者、五六人萩野戸村ニ居住仕候て、山寺村江參り柴薪木置伐等仕り、御料所并寺領共ニ御田畑相續仕候、猶又山寺萩野戸村同様奉存入會仕候義、當村も山寺之内と奉存候故、入會前々より仕候事ハ、百三十一二年以前寛永十六年之頃、御年貢御免狀被下置候、奥ニ山寺之内萩野戸村と御書付遊され候、只今以て所持仕候、其後百年以前寛文八年之頃、明細差上候扣も萱千八百把、御役かや山寺山よて、苜申候義奉書上候、亦其後三十五年以前元文元年之時分、明細帳差上候も、薪木山ハ山寺山よて、入會ニ伐申候義奉書上候、依之先年寶曆年中山寺村山口田麥野村山論之節、山寺名主方ハ止メ山開申候間、萩野戸村ハ可參之旨申來候、即ち當村ハ罷越柴薪木置伐仕候、右山論寄合之砌も、山寺村ハ人を以て申越候間、寄合江も名主方より罷越、猶諸入用等も割付次第ニ差遣し申候、右山論之場御檢使江戸表ハ、御代官眞野惣十郎様御手代吉川治三郎様、淺井作右衛門様御手代高畑與右衛門様御下り之節、上萩野戸村御尋ニ御座候砌、名主儀兵衛罷越候處、右御檢使様被仰聞候ハ、上萩野戸村之儀は如何之子細有之、山寺山へ入會候之旨御尋被遊候ニ付、永三百文余上納仕、山寺並ニ入會申候と申上候へハ、其之印形御取被遊候、然ハ萩野戸村之儀ハ山寺同様ニ御座候故、當年も山へ罷越置伐仕候處、當二月廿六日山寺名主十三郎方ハ申來候ハ、手前山へ御入之處山へ置伐いし候由、是ハ不宜敷候間、今日ハ伐置不致様ニ、御申聞被差越可被下と、申書狀遣申候ニ付、此方ハ先年之

通ニ被成可被下と申遣候處、其の後三月三日、柴薪木持運ひ、村之者參候處、柴四拾四束薪百拾八束隠置申候ニ付、から身にて罷歸り申候、此儀難心得奉存候、山寺十三郎遣候書狀にも、今日ハ置伐不致様御申聞可被下と申儀ハ、先年ハ此方にて唯今迄伐置仕候故、無據改而今日ハと申候、然ハ御役永差上候而、薪木伐置候處、只今相改候て、伐置爲致不申候而ハ、至極迷惑ニ奉存候間、右薪木柴相返候様ニ度々申遣し候へとも返不申候、私共村之儀ハ至而困窮仕候上ニケ様之出入被申掛至極難儀ニ奉存候得共、無據奉願上候、何卒以御慈悲前々之通山稼仕、右柴薪木相返し候様ニ偏ニ奉願上候、以上。

上萩野戸村、

- 明和七年寅四月、
- 名主、 角 兵衛
- 組頭、 市右衛門
- 百姓代、 平 兵衛

漆山、

御役所、

同年閏六月、是ヨリ前、村山郡漆山長瀨兩御領、江戸廻漕貢米一俵三斗八升ヲ以テ定額トナス、是ニ至リ更ニ五合ヲ増加セシム、仍テ前例ニ准セン事ヲ出願ス、是ニ於テ改テ三斗八升強トナス、納名主等請文ヲ申達ス。

〔漆山代官記〕

差上申御請書之事。

羽劔去丑御年貢當春江戸御廻米、漆山村壹艘先月晦日ニ水場内拵仕候處、紀伊國屋善兵衛申
聞候ハ、三斗八升五合積りを以內拵候様ニ申ニ付、羽劔之儀ハ三斗八升迄之内拵定法之様ニ
覺候間、八升迄ニ拵吳候様ニ申達候處、御奉行様御直ニ被仰渡候得ハ、三斗八升五合ニ拵
候而ハ難成旨申ニ付、無據其通ニ仕候、此上右之通内拵仕候而ハ、欠缺多ク可相立ニ付、前々之
通り内拵を被仰付被下候様ニ願書差上候處、御藏前御閉合被下候處、此度新法ニ三斗八升五
合ニ拵候様ニ被仰渡候儀ニハ無御座候、三斗八升ニ拵候而ハ、差こぼれも有之候ニ付、三斗八
升強目ニ拵候様ニこの義ニ御申渡し處ニ、納宿承違ヒニ候間、此後之着船之分ハ、前々之通相
心得、尤三斗八升強目ニ入念内拵仕候様ニ被仰渡奉畏候、依之御請印形差上申候以上。

羽劔村、山郡漆山村。

寅壬六月。

納名主、彌平治、印

同長瀨村。

同斷、利兵衛、全

同

同所、源次郎、全

宮村孫左衛門様(長瀨代官)

御役所。

同年十一月、幕府村山郡漆山領漆山村、高玉村、長町村、青柳村、印役村、志戸田村、上樁澤

村、下樁澤村、高壹萬五千石ヲ、米澤城主上杉治憲ニ管領セシム、治憲其臣土肥丹下ヲ郡奉
行トナシ、野原與市右衛門ヲ代官トナシ之ヲ支配セシム、又長瀨領貳拾貳ケ村貳萬五千石、
漆山領拾三ケ村壹萬石ヲ、柴橋代官野田彌市右衛門ニ附シ、之ヲ支配セシム。

〔漆山代官記〕

一 同年漆山附壹萬石、長瀨附貳萬五千石、柴橋御代官ハ野田彌市右衛門様御支配ニ成る、右之内
貳萬石餘ハ御預所ナリ、漆山附十三ケ村也、長瀨附貳拾貳ケ村也、十月晦日御引渡濟也。
一 右割替ニ而漆山御役所附ニハ、漆山村、高玉村、長町、青柳村、印役村、志戸田村、上樁澤、下樁澤、九
ケ村、米澤の御預ニ成申候、高壹萬五千石余ニ御引渡十一月六日ニ相濟申候。
米澤御預所御役人様方、漆山御陣屋へ御務。
郡奉行、土肥丹下様、御代官、野原與市右衛門様。

同年今茲、夏大旱。

〔漆山代官記〕

一同七年寅壬六月朔日迄雨降候儘ニテ、八月十九日迄大旱魃、村々ニ雨乞有之、少々ハ降り候得
共、田畑潤ニ不能成、出水とまり、た清水、長吉清水、一ノ坪はかり少々宛出申候、大痛ニハ無
之候、破免ニ不能成候、遍照寺如來様をあきた清水へおもり雨乞、壬六月廿九日ニ雨降り申候、
清水共ハ一向水不出候、八月十九日迄立谷川もひさくニテ、漸々に水くミ申候。

御桃園天皇、同八年辛卯某月、長瀨村役人、同陣屋由緒書ヲ具申ス。

〔齋藤氏記録〕

(東根村の引取由御願申上候付由緒書下)

御尋付奉申上候御事。

一當村御陣屋由緒之義、古來之義相知不申候へ共、古書物等有之承傳候處、御城跡ニ而、建長元年西根殿與申御城跡ニ御座候由、御役名相知不申候、嘉吉年中按察使將軍修理大夫源朝臣滿家卿と申御城主、嘉吉三亥年御逝去、建長元々年數凡百九拾六年、夫々山形御領地ニ相成、御城主鳥井左兵衛様、寛永二未年迄年數凡貳百年、則同年御上知ニ相成、延澤仙山直ニ當村江御陣屋相立、則御代官平岡圓右衛門様御支配所、夫より段々左之通、

寛永二年未年壹年、

正保元申上候年迄三年、

平岡圓右衛門様、

松平清左衛門様、

正保四亥年壹年、

慶安元子未迄二年、

松平清次郎様、

松平清左衛門様、

慶安三寅年壹年、

慶安四卯未迄四年、

松平清三郎様、

松平清左衛門様、

明曆元未年壹年、

明曆二申未迄二年、

松平清左衛門様、

松平清左衛門様、

萬治元戌辰迄七年、

寛文五巳年壹年、

松平市右衛門様、

山岡忠兵衛様、

寛文六年亥迄六年、

寛文十二子年壹年、

松平清兵衛様、

松平清三郎様、

延寶元丑壹年、

延寶二寅元祿元辰迄拾五年、

松平清兵衛様、

松平清三郎様、

元祿二巳申迄四年、

元祿六酉壹年、

永田作太夫様、

諸星新平様、

元祿七戌正徳四年迄廿一年、正徳五未享保六丑迄七年、

諸星内藏介様、

秋山彦太夫様、

享保七寅卯迄二年、

享保九辰未迄四年、

長谷川庄五郎様、

鈴木小右衛門様、

長谷川庄五郎様、

享保十六亥寅迄四年、

北宮奎進様、

内山七兵衛様、

長谷川庄五郎様、

元文元辰午迄三年、

享保廿卯壹年、

窪島作右衛門様、

黒澤直右衛門様、

窪島作右衛門様、

寒河江預り

關忠兵衛様、

漆山出張、

元文四未壹々年、

元文五申寛保元酉迄貳年、

堀江 清二郎様

宮村孫左衛門様

寛保二戌亥迄貳年

延享元子丑迄貳年

蔭山 外記様

諸呂猪右衛門様

延享三寅寛延二巳迄四年

延享元子丑迄貳年

柴村藤右衛門様

岩佐 郷藏様

寶曆三酉戌迄貳年

寶曆五亥卯迄五年

千種清右衛門様

川田六左衛門様

寶曆十辰未迄四年

明和元申同寅迄七年

内方 鐵五郎様

宮村孫右衛門様

寛永廿未年明和八卯年迄百廿八年凡五百貳拾八年程

右者此度當御陣屋由緒書御尋ニ付書面之通御座候以上

明和八卯年

長瀬

村役人

藤本甚助様

御役所

安永元年壬辰七月、是ヨリ前、京都ノ商某、村山郡出産ノ紅花賣買世話所ヲ置キ、運上金ヲ納レ以テ賣買權ヲ專ラニセン事ヲ幕府ニ請フ、代官野田彌市右衛門等可否ヲ各村名主等ニ

詢フ、各村之ヲ不可トス、聽カス、是ニ至リ請書ヲ呈出シ、後日障害ノ際ハ之ヲ停止セラレシ事ヲ請フ。

〔藏増村文書〕

乍恐書付を以奉申上候

一此度紅花賣買世話所相建度旨願人有之、依而障有無之儀御札ニ付、私共儀八拾五ヶ村惣代とし、て出府仕候所、被仰聞候者、右世話所相建候儀者、先年間屋拾四軒相建候節、與者、願筋格別相違之儀ニ而、後々不勝手之筋も候は、其節子細申立仕方相直し候共、勝手次第ニ仕勿論願人御吟味之上、随分百姓共勝手ニ相成候様可被仰付間、強而差障可申謂レ無之筈之旨逸々被仰渡奉承知候、畢竟右世話所之儀は、紅花賣金高百兩ニ付三兩宛口銭と名付、世話所江請取候儀ニ候得者、國元買出シ商人共夫丈ヶ之歩合ニ引當テ、紅花相調候ニ付、自然と百姓手元紅花直段下直ニ相成、左候得は百姓不勝手之筋眼前ニ而、大勢之百姓難儀至極仕、其上羽州之儀は雪國ニ付、畑方一作ニ而困窮仕候得とも、紅花斗リニ而漸々取續罷有、別而紅花之儀は龜地ニ而生立不宜候間、随分土地宜敷御高免之畑地江仕付、紅花一色之助成を以、是迄御年貢無滞御上納仕來、百姓渡世相送り申候間、何分唯今迄之通、被仰付被下置度旨奉願上候所、猶亦被仰聞候者、縱何程申立候而も未如何様共不被仰付、已前彼是難澁申候儀は、見越シ候了簡ニ而御取用難被遊候間、一旦は御請仕其上ニも困窮之筋有之者、何をニも可相願旨情々御利害被仰聞、御吟味之趣無據奉存候間、世話所御請可仕候、併右世話所之儀、乍恐愚昧之百姓存知寄ニは、後年ニ

至り候は、先年拾四軒間屋同様ニ立戻り、商方手狭相成り可申哉、是以見越候儀強而難奉申上候間、右世話所之儀壹ケ年季ニ被仰付被下置度奉願上候、然ル上は若右年季之内、百姓共勝手相成不申、御年貢御上納等之差障リニも相成候砌ハ、世話所御免御訴訟可奉申上候間、何卒格別之以、御慈悲、此段御聞濟被成下、已來百姓共取續候様御勘辨之上、被爲、仰付被置候様奉願上候、已上。

藤本甚助御代官所、

明和九年辰七月、

羽州村山郡長瀨村、

拾ケ村惣代名主、

傳 三郎、印

右同斷揃山村、

同斷名主、

久右衛門、印

野田彌市右衛門御代官所、

同州同郡藏増村、

七拾五ケ村惣代名主、

忠 三郎、印

右同斷長崎村、

同斷名主、

孫左衛門、印

右同斷山家村、

同斷名主、

三右衛門、印

御奉行所様、

〔全上〕

御吟味ニ付御答申上候事、

當國村々紅花之儀、百姓手前ハは水花ニ而、不明商人江賣渡シ於京都賣買之儀ニは不抱、不明然ル所此度紅花賣買世話所相建候、不明書ケ條之趣、京都商人は當國商人引不明重々相聞江候へは、右願之儀は商人共之願、不明。

此段紅花之儀、百姓手前ハは日々ニ水花ニ而、六不明賣渡候得は、於京都ニ世話所相建候而も、直段不明損益は百姓手前少々之義ニ而、商人共然不明奉存候、併商人共勝手ニ相成候得者自然と百姓不明相成可申と奉存候。

一右儀定書之内、近年紅花下直ニ付、大小百姓彌増及困窮候由、然ル所右世話所相建候得は、直段引不明の中、又は當時ハ直段相定置候儀ニ候哉、不明。

附拾ケ年程以來年々紅花直段、年限不明相認、別紙可差出候、此段近年紅花直段下直ニ而、彌増及困窮候得共、世話所不明迎も直段相定候儀も無御座候へ共、右世話所ハ利安金不明候は、賣急き無之自然と直段引上、併百姓方ニ而は聊之義ニ奉存候、尤拾ケ年以來紅花直段、書上候

様被仰付候、拾ヶ年程以來ニハ水花百目ニ付、七八拾文位致候所、近年ハ段々不明貳三拾文位迄賣買仕候、併紅花之儀ハ雨續御座候、不明相成候事故、直段も夫丈宜敷御座候物ニ御座候、尤雨續無之と照花ニ而、紅不明右願下薄御座候、其年々雨續次第直段高下御座候、直段巨細ニ覺無御座候得ハ、壹ヶ年限書上兼申候、且世話所相建候而、紅花直段引上候と申義、的中不明無御座候。

一紅花紅込金歩安村々取替候儀、金主不明何程之安利ニ而貸付候趣、金主も書不明。

此段金子歩安ニ貸付候と申之ニ付、餘分ハは格別之利安金子不明候得共、百姓勝手ニ相成候ニ付、此儀重々存印形仕候、右借付當國之利合之義ハ、壹ヶ月ニ金拾五兩壹分之利足並合候間、世話所ハ貸付候、金子三拾兩壹分利足ニ而貸付候様申之、右歩安之金借付無之候ハ、京都世話所相建候而も、百姓方勝手と申義ニ候。

一近年米穀物不足ニ而高直之趣ニ、兼而相聞不明儀定書之内、諸穀下直ニ付大小百姓及迷不明信用難成、依而當時直段先年直段不明位高下有之哉、有躰可書出候。

此段先年ハ米穀下直ニ、相成候と申義ニハ無御座、近年打續凶作仕米不足ニ合セ候而ハ、直段下直ニ御座候、勿論夏中ニ不明候得ハ、例年直段引上候得共、春中石代上納被仰付、不明歩安之金子借請候得ハ、諸穀物安買不仕不明段、宜敷節米相拂申候得ハ、勝手ニ相成申候。

一先年紅花間屋拾四軒有之候所、村方不明願之上相潰シ、其後直賣直買相對次第ニ相成、京都ハ直買之者年々相下り勝手宜然處、此度世話所壹軒相建候而ハ、問屋同様之事ニ而商不明相成、自然と百姓不勝手ニ相成候旨、七拾不明村々相答、當文配所村々區々答ニ候、併不明村方答之趣相違

ニ而、此上世話所相建候義強而相願候存寄候哉、有躰ニ可申聞候。

此段先年紅花間屋拾四軒相潰シ、其後直賣買相對次第ニ相成、京都ハ直買之者年々相下り、勝手不明方ニ御座候、此度世話所之義問屋同様之事ニ不明候得ハ、強而御願申上候義ニ而も無御座候處、世話所相建不申候得ハ、利安之金子借請兼候ニ付、印形仕候得共、七拾ヶ村余之村々障りニ相成候旨申上候上ハ、強而相願候存寄ニ御座か候。

二右世話所願之儀、村々勝手ニ相成候筋ニ候ハ、江戸表江可願出儀、殊ニ御預所之儀ハ別段ニ候處、米澤御預り所高嶺村佐五兵衛五平治江儀定證文差出、兩人之者村々惣代ニ而、御奉行所江爲相不明當時迄、右之段役所江一向不相届、如何相心得支配役所江、右之段不申出候哉、勿論右儀定書連印致候貳ヶ村之者共、寄合之上相認候哉、又は重立發旦之者有之其者相認、佐五兵衛五平治外願人江、去卯何月相渡候哉、逐一答可申候。

此段世話所相建候儀、私共村々心付候義ニハ無御座候、去々寅十一月ハ去卯春迄、五平治左五兵衛別紙寫ニ差出候、議定書持參村々江相廻り、此義承知ニ候ハ、見届印形可致旨申之、勿論高嶺村谷地荒川村、其外村々得心印形致相見へ、右儀定書見届候所、差而相障りニ相成候義無之候ニ付、印形仕候儀ニ御座候、依之右書付私共村々ニ而認、兩人江相渡候儀ニハ曾而無御座候、勿論何方ニ而認候哉、其儀も不奉存、右之通ニ付五平治左五兵衛を、私共村方ハ心付建而、惣代ニ相頼、江戸御奉行所江、爲願候と申義ニハ無御座候、且又餘國之者願人ニ相加り候様、右兩人申聞候得共、一度も對面不仕、右兩人之者儀定書表を以歩安金子借請度候而已を、百姓勝手ニ奉存、泪ニ茂可相成哉と奉存候間、外ニ差障りも有之間敷と奉存、不辨

前後歩安之金子借請申候は、御上納金難溢之節、差支有之間敷と奉存印形仕候併右歩安金子貸シ渡候迎引當之紅花下直ニも買請候而は、都而村方難義至極ニ奉存候、右之趣御支配御役所江不奉願并儀定書江連印仕候趣見届ケ不申段御差當請候而は、一言之申披無御座不調法成義何様之御答ノ被仰付候共、少も御願ケ間敷義申上間敷候。

一右儀定書郡中一同之文言ニ候得は、當支配所外村々江障り有無承合連印致候哉。此段郡中一同文言ニ御座候處、不心付外村々江も不承合、郡中一統之義と奉存一村限印形仕候。

右之趣ケ條限具ニ答書致可差出候以上。

辰正月、柴橋

御役所

右御答申上候趣、相違無御座候以上。

野田彌市右衛門様

御役所

高木村、大清水村、荷口村、今町村、窪野目村、寺津村、藤内新田村、千手堂村、

七浦村、風間村、上東山村、十文字村、兩山寺村、原町村、兩萩野戸村、兩貫津村、

田麥野村、兩大町村、御尋ニ付乍恐以書付奉申上候事。

留場村、田代村、幸生村、宮内村、熊野村、石田村、柳澤村、海味村、間澤村、網

取村、岩根澤村、水澤村、八兵衛新田、自善本道寺村、さか本道寺村、砂子關村、月

山澤村、志津村、大井澤村、根子村、青柳村、小清村、片生村、貫見村、澤口村、

黒森村、大暮山村、北山村、小柳村、入間村、兵助新田、沼山村、吉川村、

又三拾三ヶ村、

右村々極山内ニ而畑方不足、殊ニ土地不相應故紅花作り不申候ニ付、紅花賣買世話所相建度願加り不申候、勿論差障有無可申上様無御座候、御尋ニ付右村々爲惣代、書付を以奉申上候、以上。

村山郡間澤村名主、

辰正月、治郎兵衛

吉川村名主、

三九郎、

志津村名主、

重兵衛、

小清村名主、

惣治郎、

野田彌市右衛門様、

御役所、

御吟味ニ付書付を以御答申上候。

羽州奥州紅花御不明村々、連判を以相願候由ニ而、下總不明江戸町人共於京都紅花不明を以、京都紅花不明ニ相成候所、紅屋、不明江持登不明京都世話所、不明買主直相對ニ不明は、不抱賣捌方之、不明奥羽江下り候儀も不差障趣ニ付、前々有之候間屋と、譯も違ひ候趣ニ相聞申候、且又間屋相建候以後も、紅花賣高百兩ニ付三兩宛は、唯今以荷宿方江請取申候間、右之分世話所請取右之内、其冥加金を茂上納致候由ニ候間、差障り筋も不相聞、其上郡中爲惣代上杉彈正大弼御預所、羽州村山郡高嶺村佐五兵衛五平次儀も願出候、其外右世話所相建之儀、願吳候様願人方江、百ヶ村餘之連判證文茂相渡候儀ニ付、差障は不相聞候得共、猶又右世話所相建候儀、郡中望候事ニ候哉、否可申上旨被仰渡承知奉畏、左ニ御答申上候。

此儀右御糺之趣、百姓共へ得と申談候所、私共村々紅花作專一之場所御座候得共、此度佐五兵衛五平次、紅花世話所相建度願江相加り、連判證文相渡候者共無御座候、勿論先年京都ニおゐて間屋拾四軒相建候節、村方不勝手ニ御座候由ニ而、先年當國商人とも江戸表江、御願申上候而相潰せ、其後直賣直買相對次第被仰付候ニ付、其砌、京都、直買之もの年々罷下り、勝手宜敷御座候、尤直賣買勝手次第ニ相成候而、已來、百姓不勝手ニ相成候儀、少も無御座候、先年間屋拾四軒相建候節、商人とも年寄次第罷登り賣買仕候節、間屋共渡世之儀ニ御座候間、商人勝手ニ相成候様、壹人毎ニ出情相勵可申所、無其儀却而右拾四軒申合、自然と商方手狭ニ罷成、殊ニ紅屋と商人直相對茂不爲致様罷成、不勝手ニ御座候所、此度願ニは世話所と申立、賣買ニは不相抱候旨申上候得は、右間屋同様之儀と奉存候、右拾四軒相建候節、へ、前書之通取計ひ候由、况や壹軒相建候而は、猶又右ニ准し商方手狭ニ相成可申と奉存候、

左候得は百姓方不勝手之筋と奉存候ニ付、世話所相建候願之儀、私共村々百姓共望無御座候、尤紅花直段高下之儀、紅花摘立日數十二三日之間ニ御座候所、其節一日二日置ニ雨續有之候得と、紅多罷成直段宜敷、若し其年雨續無之候得は、日照花ニ而紅薄夕直段下直ニ御座候而、直段高下之儀、其年其節之天氣次第ニ而賣買仕候故、京都紅花間屋江賣買ニ抱候も無御座候、然ル上は新規ニ世話所相建、百姓勝手之筋ニ決而無御座候間、是迄之通被仰付置被下候様仕度奉存候、是迄之通ニ被仰付置候、尤世話所ニ而紅花荷物引當を以、利安ニ村々江前借等致候趣、申上候由候得共、例年村々商人、紅花摘立以前、前借等相渡候儀も御座候、殊ニ百姓之儀は、其日ニ水花ニ而商人江賣拂、早速金子手取候得は、荷物引當前借と申儀は、小商人之内ニは、勝手ニも可相成哉、百姓勝手之筋ニは、無御座候、勿論手廣ニ商仕候者は、京都ニ出店も可有之、其外知ル人之方江、勝手次第ニ爲差登候得は、金百兩ニ付三兩と申口錢も、相定候儀は、有御座間敷、左候得は、直賣直買勝手次第之儀ニ而、商物捌方宜敷様ニ奉存候間、是迄之通被成下置度奉存候。

右ニ此度御吟味ニ付、御答奉申上候所相違無御座候、以上、
辰正月、

- 羽州村山郡柴橋村名主惣右衛門、青野村名主長右衛門、今塚村名主清助、落合村名主與惣右衛門、双月村名主留兵衛、本木村名主與次右衛門、谷柏村名主重次郎、土坂村名主孫助、上櫻田村名主傳治郎、前田村名主伊八、妙見寺村名主市郎治、釋迦堂村名主門兵衛、關根村名主理兵衛、八森村名主市兵衛、青柳村名主榮治郎、猪野